平成２３年度

大学院生による授業評価結果報告書
（前期分）

鳴門教育大学　大学院学校教育研究科

頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
8	教職共通科目	30031000	学校教育の人間形成的役割	木内　陽一、山崎　勝之、皆川　直凡
9	教職共通科目	30032100	現代の諸課題と学校教育Ⅰ	小西　正雄
10	教職共通科目	30033000	子ども理解と生徒指導	粟飯原　良造、小倉　正義
11	教職共通科目	30034000	子どもの発達支援	田村　隆宏、島田　恭仁、津田　芳見、 塩路　晶子、木村　直子
12	人間形成	30111000	人間形成文化史研究	梶井　一暁
13	人間形成	30113000	教育哲学研究	木内　陽一
14	人間形成	30116000	発達健康心理学研究	山崎　勝之
15	人間形成	30119000	教育認知心理学研究	皆川　直凡
16	人間形成	30120000	比較教育社会学研究	伴　恒信
17	幼年発達支援	30513000	幼年期福祉研究	木村　直子
18	幼年発達支援	30518000	幼年発達心理研究	田村　隆宏
19	幼年発達支援	30522000	幼年期教育学研究	橋川　喜美代
20	幼年発達支援	30524000	幼年発達と幼児教育内容論	塩路　晶子
21	現代教育課題総合	30637000	文化間教育総論	小西　正雄、太田　直也
22	現代教育課題総合	30638000	文化間教育演習Ⅰ（基礎研究）	小西　正雄
23	現代教育課題総合	30639000	文化間教育演習Ⅱ（地域研究）	太田　直也
24	現代教育課題総合	30643100	情報教育総論	谷村　千絵、藤村　裕一
25	現代教育課題総合	30647100	環境教育総論	田村　和之、近森　憲助
26	現代教育課題総合	30649100	環境教育特論Ⅱ（授業開発）	近森　憲助、田村　和之
27	現代教育課題総合	30652000	現代の子どもと学校教育	谷村　千絵
28	臨床心理士養成	30424000	臨床心理学研究Ⅰ	吉井　健治
29	臨床心理士養成	30425000	臨床心理学研究Ⅱ	葛西　真記子
30	臨床心理士養成	30432000	学校精神保健学研究	今田　雄三
31	臨床心理士養成	30433000	臨床心理査定演習Ⅰ	久米　禎子、佐藤　亨、葛西　真記子、 今田　雄三、粟飯原　良造、中津　郁子、 吉井　健治、小倉　正義

頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
32	臨床心理士養成	30446000	臨床心理面接演習	粟飯原　良造、今田　雄三、葛西　真記子、中津　郁子、吉井　健治、小倉　正義
33	臨床心理士養成	30448000	臨床心理面接研究Ⅱ	粟飯原　良造
34	臨床心理士養成	30449000	社会心理学研究	佐藤　健二
35	臨床心理士養成	30452000	心理臨床特別研究	市井　雅哉
36	特別支援教育	31150000	特別支援教育コーディネーター概論	井上　とも子
37	特別支援教育	31153000	特別支援教育コーディネーター実地教育	井上　とも子
38	特別支援教育	31160000	特別支援教育学研究論Ⅰ	八幡　ゆかり
39	特別支援教育	31161000	特別支援教育学研究論Ⅱ	大谷　博俊
40	特別支援教育	31164000	特別支援教育臨床心理学研究論	高原　光恵
41	特別支援教育	31166000	特別支援教育学習心理学研究論	島田　恭仁
42	特別支援教育	31168000	発達障害児病理・病態生理学研究	田中　淳一
43	特別支援教育	31171000	発達障害児生理・発達学研究	津田　芳見
44	言語系	32138000	言語教育基礎論Ⅰ	原　卓志、茂木　俊伸
45	言語系	32140000	日本語Ⅰ	永田　良太
46	言語系	32141000	日本語Ⅱ	妹尾　春子
47	言語系	32144000	日本古典語研究	原　卓志
48	言語系	32146000	現代日本語研究	茂木　俊伸
49	言語系	32148000	日本文学研究Ⅰ	野口　哲也
50	言語系	32150000	日本文学研究Ⅱ	小島　明子
51	言語系	32153000	日本語教育学研究	小野　由美子
52	言語系	32156000	日本語文法研究	永田　良太
53	言語系	32158000	社会言語学演習	ロング　ダニエル
54	言語系	32159000	言語習得・発達論	迫田　久美子
55	言語系	32161000	日本語音声表現研究	永田　良太

頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
56	言語系	32173000	国語科教育学研究	村井　万里子
57	言語系	32175000	国語科授業研究	幾田　伸司
58	言語系	32179000	国語科教材開発研究	余郷　裕次
59	言語系	32183000	日本語教育法研究	小野　由美子
60	言語系	32224000	言語教育基礎論Ⅱ	藪下　克彦、眞野　美穂
61	言語系	32226000	英語学研究Ⅰ（英文法理論）	藪下　克彦
62	言語系	32227000	英語学研究Ⅱ（言語表現）	眞野　美穂
63	言語系	32228000	英米文化研究Ⅰ（文化史）	杉浦　裕子
64	言語系	32276000	英語科教育特論Ⅰ	伊東　治己
65	言語系	32277000	英語科教育特論Ⅱ	山森　直人
66	社会系	33158300	歴史学研究Ⅱ	町田　哲
67	社会系	33158500	歴史学研究Ⅲ	原田　昌博
68	社会系	33158700	地理学研究Ⅰ	木原　克司
69	社会系	33158800	地理学演習Ⅰ	木原　克司
70	社会系	33159300	法学・政治学研究	麻生　多聞
71	社会系	33161000	公民系文献研究	齋木　哲郎、山本　準、青葉　暢子、 麻生　多聞
72	社会系	33171000	社会科教育学研究	伊藤　直之
73	社会系	33179000	社会科教材開発演習Ⅱ（歴史領域）	梅津　正美
74	自然系	34125000	代数学研究	平野　康之
75	自然系	34126000	代数学演習	平野　康之
76	自然系	34172000	数学科教育学研究	佐伯　昭彦
77	自然系	34175000	数学科教材開発研究	秋田　美代
78	自然系	34212000	エネルギー・物質と環境特論	粟田　高明
79	自然系	34215000	物性物理学特論	本田　亮

頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
80	自然系	34220000	環境化学特論	早藤　幸隆、今倉　康宏
81	自然系	34223000	分子生物学特論	松尾　義則
82	自然系	34225000	進化生物学特論	工藤　慎一
83	自然系	34228500	宇宙科学特論	西村　宏
84	自然系	34229000	地球科学特論Ⅰ	村田　守、香西　武
85	自然系	34233000	地質学・古生物学特論	香西　武、村田　守、小澤　大成
86	芸術系	35112000	音楽劇総合演習	草下　實
87	芸術系	35113000	声楽発声法	頃安　利秀
88	芸術系	35115000	ピアノ演奏基礎演習	森　正、田中　巳穂
89	芸術系	35116000	学校教材ピアノ伴奏法	山田　啓明
90	芸術系	35117000	ピアノ演奏法	森　正
91	芸術系	35120000	管弦打楽器総合演習	山根　秀憲
92	芸術系	35129000	管弦打楽器演奏基礎	山根　秀憲
93	芸術系	35130000	指揮法基礎演習	山田　啓明
94	芸術系	35131000	楽曲分析研究	松岡　貴史
95	芸術系	35171000	音楽教育史研究	長島　真人
96	芸術系	35172000	音楽科教育研究	長島　真人
97	芸術系	35173000	音楽科授業研究	宮下　俊也
98	芸術系	35214000	版画制作演習	武市　勝
99	芸術系	35216000	塑造制作演習	長岡　強
100	芸術系	35217000	石彫制作演習	野崎　窮
101	芸術系	35219000	視覚デザイン演習	松島　正矩
102	芸術系	35222000	陶芸制作演習	上田　敦子
103	芸術系	35273000	美術科授業研究	山木　朝彦

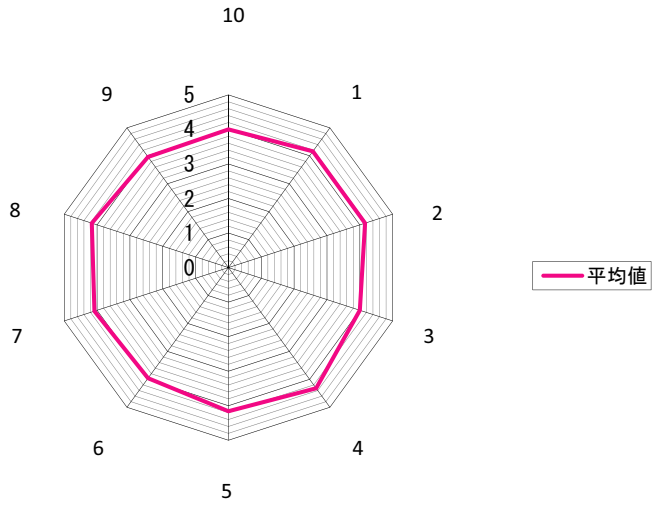
頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
104	芸術系	35274000	美術科教材開発研究	山田　芳明
105	芸術系	35276000	美術科教育研究法演習	山木　朝彦、山田　芳明
106	生活・健康系	36115000	スポーツ社会学研究	木原　資裕
107	生活・健康系	36117000	学校体育経営研究	藤田　雅文
108	生活・健康系	36119000	体育・スポーツ心理学研究	賀川　昌明
109	生活・健康系	36121000	運動学研究	乾　信之
110	生活・健康系	36123000	スポーツ・バイオメカニクス研究	松井　敦典
111	生活・健康系	36129000	学校保健学研究	吉本　佐雅子
112	生活・健康系	36131000	健康科学研究	廣瀬　政雄
113	生活・健康系	36133000	運動生理学研究	田中　弘之
114	生活・健康系	36175000	体育教授学研究	綿引　勝美
115	生活・健康系	36211000	情報処理研究	菊地　章
116	生活・健康系	36215000	コンピュータ科学研究	宮本　賢治
117	生活・健康系	36219000	機械工学研究	宮下　晃一
118	生活・健康系	36221000	材料及び加工学研究	米延　仁志
119	生活・健康系	36222000	材料及び加工学演習	米延　仁志
120	生活・健康系	36224000	情報科学研究	伊藤　陽介
121	生活・健康系	36227000	信号情報処理研究	菊地　章
122	生活・健康系	36231000	シミュレーション研究	高曽　徹
123	生活・健康系	36232100	計算力学研究	畑中　伸夫
124	生活・健康系	36235000	木質材料加工法演習	米延　仁志
125	生活・健康系	36271000	技術科教育研究	尾崎　士郎
126	生活・健康系	36275000	情報科教育研究Ⅰ	森山　潤
127	生活・健康系	36311000	家族・ジェンダー研究	黒川　衣代

頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
128	生活・健康系	36313000	生活経営学研究	渡邉　廣二
129	生活・健康系	36315000	衣生活学研究	福井　典代
130	生活・健康系	36317000	食生活学研究	前田　英雄、西川　和孝
131	生活・健康系	36319000	住生活学研究	金　貞均
132	生活・健康系	36371000	家庭科教育学研究	速水　多佳子
133	国際教育	37114000	国際教育協力特論Ⅰ（理数科教育）	近森　憲助、小澤　大成、石村　雅雄
134	国際教育	37121000	国際教育IT活用研究	石坂　広樹、小澤　大成、近森　憲助、石村　雅雄
135	国際教育	37171000	国際教育現地理解研究	鈴木　隆子
136	国際教育	37172000	国際教育現地理解演習Ⅰ	小澤　大成、近森　憲助、石村　雅雄
137	国際教育	37174000	国際教育教材開発研究	小澤　大成、近森　憲助、石村　雅雄、石坂　広樹
138	国際教育	37176000	国際教育教材開発演習Ⅱ	小澤　大成、近森　憲助、石村　雅雄、石坂　広樹

結果報告書

授業科目名　学校教育の人間形成的役割
評価実施日　平成23年7月27日
担当教員名　木内　陽一，山崎　勝之，皆川　直凡　　回答者数　25　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	8	13	4				4.2
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	14	2	1			4.2
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	10	6	8	1			4.0
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	15	5	4		1		4.3
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	10	9	6				4.2
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	9	7	8	1			4.0
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	11	7	5	2			4.1
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	11	9	3	2			4.2
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	14	4		1		4.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	8	11	4	2			4.0



教員のコメント

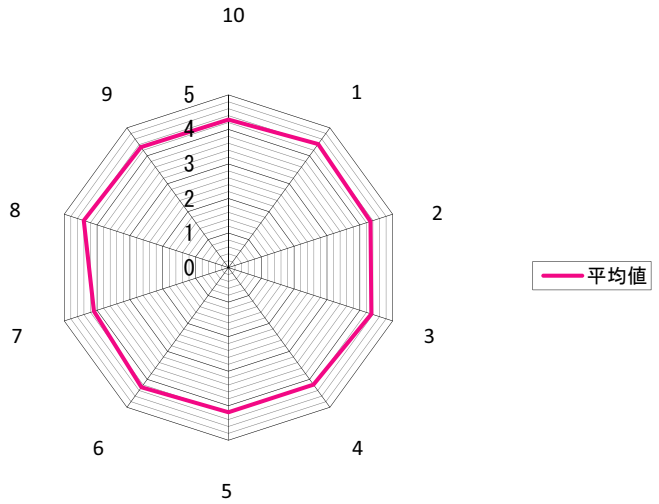
主に総合評価をみると、評価はそれほど高くはなく、高評価から低評価へと評価が拡散している。異なった学問分野からの授業者が3名いると、受講者のそれぞれのニーズが異なり、ある授業者では評価が高まり、別の授業者では評価が低まることが予想される。そして、評価時の視点の置き所の個人差から、このような評価の拡散がもたらされた可能性がある。

授業者の人数が多いときは、このような評価になることもやむを得ないかもしれない。授業者の学問分野が多様で、それぞれ独自の観点から授業のテーマに迫る場合、どのように全体の統一性をとるかは今後の課題となる。

結果報告書

授業科目名　現代の諸課題と学校教育Ⅰ
評価実施日　平成23年7月26日
担当教員名　小西　正雄　　回答者数　74　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	42	24	6	1	1		4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	42	20	8	2	2		4.3
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	44	15	13	1	1		4.4
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	39	19	10	3	3		4.2
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	35	25	9	3	2		4.2
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	39	23	8	2	2		4.3
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	36	19	12	4	3		4.1
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	42	24	6		2		4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	36	28	8	1	1		4.3
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	39	23	8	2	2		4.3



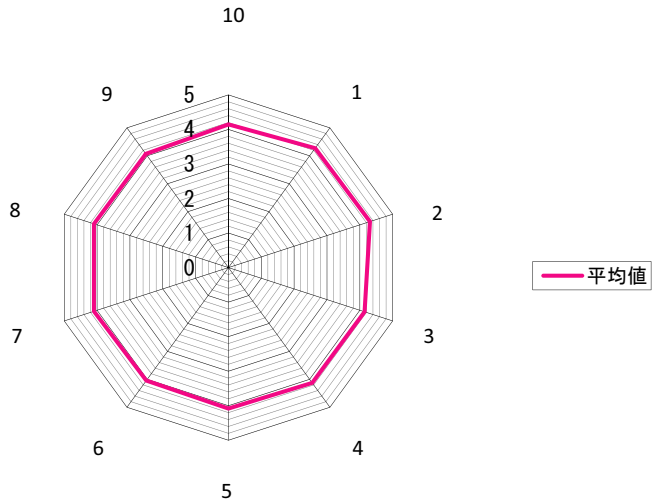
教員のコメント

80人近い受講生相手の授業ゆえに，毎年のことながら細かいところまで手の行き届かない側面もあり，忸怩たる思いもときに禁じ得ないことがあるが，それでもかなりの好評を得ることができたのは幸いである。設問3が好評を得たのには，複雑な印象がある。というのは，この講義は実践世界をあえて批判的に論評する内容が多かったからである。受講生は，教育言説を鵜呑みにしないことがかえって実践力の向上に役立つと理解してくれた可能性があり，もしそうなら，担当者としてこれ以上の喜びはない。

結果報告書

授業科目名　子ども理解と生徒指導
評価実施日　平成23年7月27日
担当教員名　粟飯原　良造，小倉　正義　　回答者数　159　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	62	78	17	1		1	4.3
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	69	75	11	3	1		4.3
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	62	63	30	3	1		4.1
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	58	66	33	1	1		4.1
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	53	72	28	6			4.1
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	53	71	26	7	2		4.0
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	60	63	28	7	1		4.1
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	59	65	27	7	1		4.1
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	52	75	26	3	3		4.1
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	62	69	20	5	3		4.1



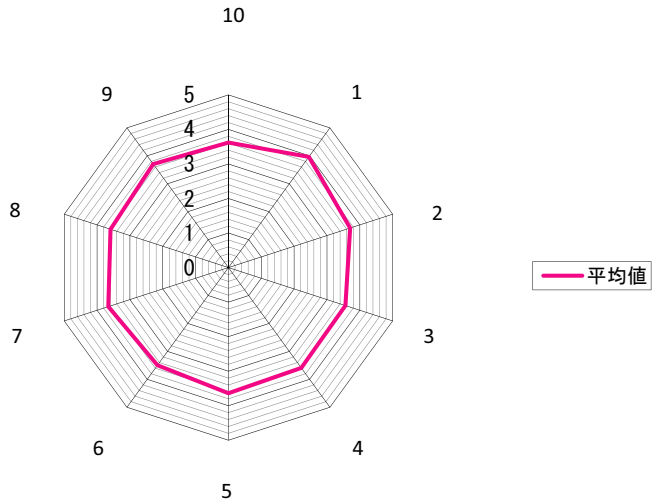
教員のコメント

各質問項目に対して平均4.0～4.3点であり，総合評価も4.1点であること，質問項目（1）～（9）までに回答した159名のうち評価1は10回答（0.7%），評価2は38名（2.7%）で，質問項目（10）では評価1は3回答（1.9%），評価2は5回答（3.1%）であったことから概ね受講生は満足したと考えられ，質問項目(2)「専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。」は4.3点であり専門知識を本授業で得られたと受講生は感じている。さらに満足度を上げるためには，受講生が継続して約200名であるなら，2クラス制度にすることも必要である。

結果報告書

授業科目名　子どもの発達支援
評価実施日　平成23年7月26日
担当教員名　田村　隆宏，島田　恭仁，津田　芳見，塩路　晶子，木村　直子　　回答者数　105　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	28	56	14	3	4		4.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	23	51	14	11	6		3.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	20	43	25	10	7		3.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	17	43	35	5	5		3.6
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	18	48	27	7	5		3.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	19	41	27	9	9		3.5
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	22	44	25	9	5		3.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	21	39	32	7	6		3.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	28	36	28	8	5		3.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	21	49	19	6	10		3.6



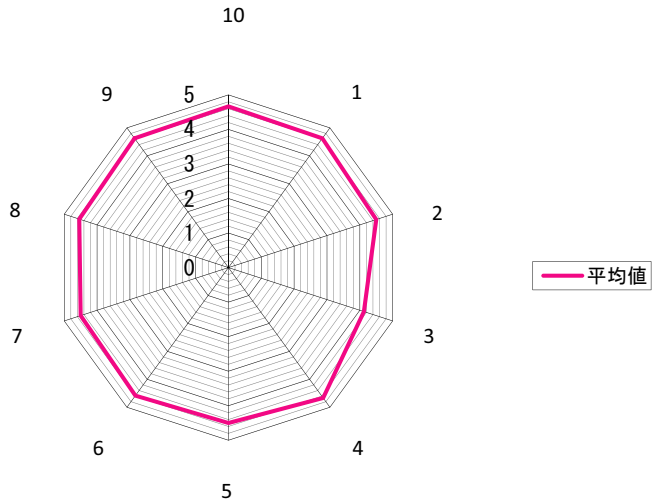
教員のコメント

各項目の評定値をみると，すべての項目で3．5以上であり，概ね肯定的な評価を受けている結果となった。ただし，少数ではあるが，すべての項目において評定値として2や1にチェックした受講生もみられたことから，各項目の内容についてさらに改善を図ることも必要である。今後の授業では特に内容に関してはより専門的知識に関わるもの，より教師の実践力に関わるものを提供することが重要になろう。また，授業の進め方においても受講生に対してより分かりやすい説明を心がけることも大切な改善事項である。

結果報告書

授業科目名　人間形成文化史研究
評価実施日　平成23年7月25日
担当教員名　梶井　一暁　　回答者数　24　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	15	9					4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	14	8	2				4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	11	5				4.1
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	17	6	1				4.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	14	8	2				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	15	8	1				4.6
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	13	10	1				4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	15	7	2				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	16	7	1				4.6
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	16	8					4.7



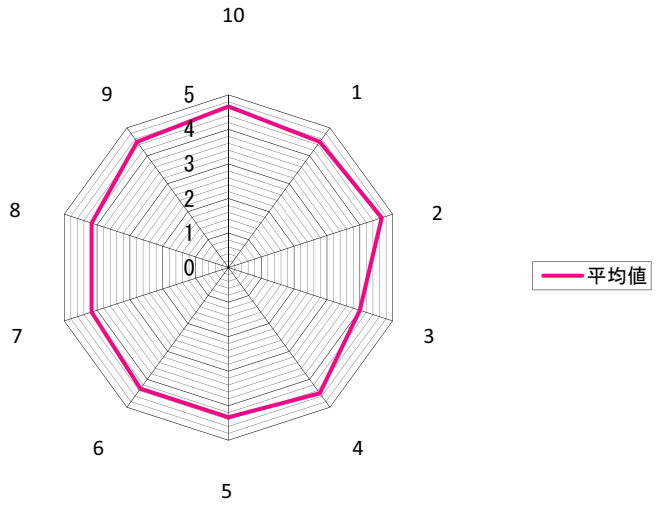
教員のコメント

受講者から積極的な評価を得たと考える。自由記述欄をみると、毎時の授業カードにもとづく応答の仕方、受講者の発表の機会の設定などが、よかったと思われる点として複数回答されている。今後もこの方法を継続しつつ、より活用できるようにしたい。
また、「教師の実践力」につながる授業としての展開について、もとより本授業は授業実践や学校経営に対して直接的な知見や技能を提供する趣旨のものではないが、「多様な観点から教育を理解することができた」や「テーマの広がりがあった」などの自由記述にみられるように、本授業で授業者が示したり、受講者間で確認された見方や解釈が、のちの実践を下支えする要素として育ってくれればと切望する。

結果報告書

授業科目名　教育哲学研究
評価実施日　平成23年8月4日
担当教員名　木内　陽一　　回答者数　6　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3	3					4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	2					4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	4	1				4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	3					4.5
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2	4					4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	4					4.3
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2	3	1				4.2
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	3	1				4.2
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	3					4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4	2					4.7



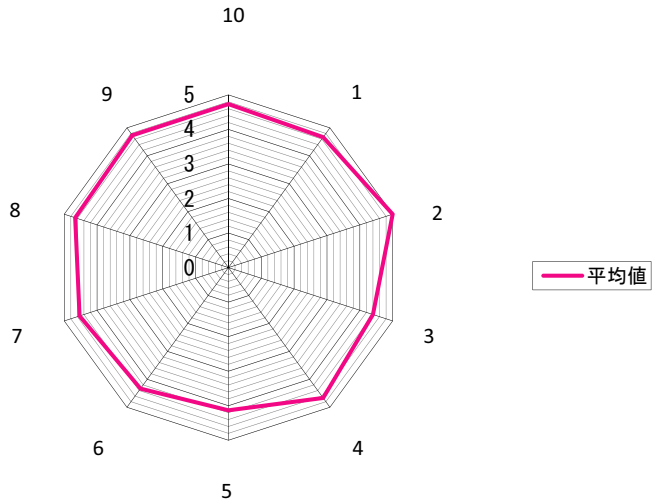
教員のコメント

本講義では、教育哲学の立場から、西田幾多郎『善の研究』を読み解き、人間の形成を考えるひとつの基礎としている。講義は、参加者が少ないため、受講生の発表を主として、全員で議論を深めるようにしている。『善の研究』は、旧制高校生の必読書の一冊であったことを考えると、かつては、十代の若者が本書をひもといていたわけだ。しかし、現代の若者から見れば、古めかしい文章で、読みにくいこともよくわかる。幸いなことに、使用している講談社学術文庫版のテキストは、小坂国継先生の詳細な注釈がついており、受講生もこの注釈を手がかりに、本書の理解を深めることが出来た。ありがたいことである。受講生の指導で留意した点は、(1)西田は何を「問題」としているのかをとらえる必要があること、(2)レジュメでは、担当部分の内容を自分の立場から要約的に述べること、(3)それをもとにして、自己の立場から批判的に分析する、という点である。また、議論は、発表者の他に、司会者をあらかじめ定めておき、発表者と司会者が議論を展開できるように仕組んだ。レジュメは最初は拙いのであるが、徐々に良くなっていき、学期末になると素晴らしいレジュメが作成されるようになった。また、司会もあらかじめテキストを読んでくることが要求されているので、司会者の立場からの発表の評価が出来て良かったと思う。総じて、若い受講生の柔軟さ、理解力の向上が毎時間手に取るように明らかになり、率直に言って、大学教員としての喜びを味わった次第である。西田を始めとして、近代日本の哲学の研究は日本のみならず、ドイツでも近年大きく進歩しているので、こうした研究の成果も取り入れながら、教育哲学・人間形成論のたちばからの、西田との取り組みをさらに続けていきたいと思う。

結果報告書

授業科目名　発達健康心理学研究
評価実施日　平成23年8月2日
担当教員名　山崎　勝之　　回答者数　15　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	10	5					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	15						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	5	2				4.4
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	10	5					4.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	5	7	3				4.1
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6	8	1				4.3
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	9	5	1				4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	10	5					4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	11	4					4.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	11	4					4.7



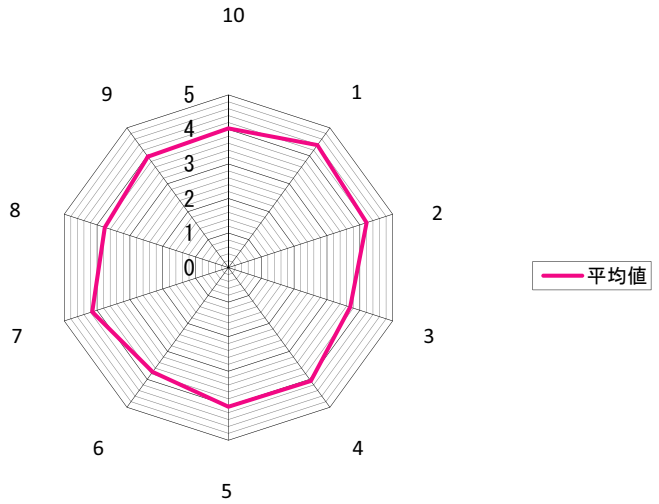
教員のコメント

総合評価では、15名中11名が満点、4名が4段階目となった。受講生全員が満点であることを目指しているが、まずまずの評価であろう。
しかし、大学院の授業で、総合評価が高いことがよい授業だろうか、と考えてしまう。大学院の授業であるから、「完璧に理解できた」などの評価があれば、それは授業に不備があることを示す可能性がある。少し消化不良のところがあって、それが今後の研究意欲や興味をかき立てることにつながる必要があり、それこそが大学院授業の目指すところであろう。
現行の評価はこの点を測定できていないようであり、この点には留意したい。

結果報告書

授業科目名　教育認知心理学研究
評価実施日　平成23年7月26日
担当教員名　皆川　直凡　　回答者数　34　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	19	11	3		1		4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	17	10	5	1	1		4.2
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	10	11	8	3	2		3.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	11	16	6		1		4.1
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	11	15	6	2			4.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	12	10	6	3	3		3.7
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	14	14	3	3			4.1
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	12	10	7	2	3		3.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	17	4	3		1	4.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	15	10	5	3	1		4.0



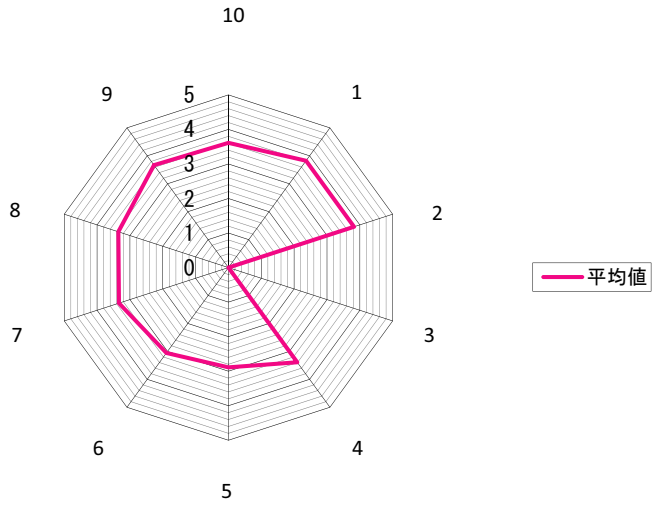
教員のコメント

総合評価の平均値は4.0であるが，評価選択人数は5が頂点であり，ついで4が多く，以下，評価が下がるにつれて少なくなる。評価4と5で評価者全体の73.5%を占め，評価3が14.7%であり，評価2と1は合わせて11.8%にすぎない。この結果は，大半がこの授業に満足しており，一部が不満であったことを示しており，専門性の高い授業において，全員を満足させることの難しさを物語っている。評価平均値の多くは4.0以上であり，相対的に低い3点台後半の項目は(3)(6)(8)の3項目であった。これらの項目において，総合評価が1と2の受講生は項目(6)と(8)では，4名とも1または2であり，項目(3)では，評価1または2と，評価3がそれぞれ2名であった。これらの項目の評価の平均値の低下には，総合評価の低い受講生の評価が強く影響しているのである。このこともまた，専門性の高い授業において全員を満足させることの難しさを物語っている。この授業の専門性の高さに満足している受講者層の満足度をいっそう高めることを最優先に，この問題にも取り組みたいと考える。

結果報告書

授業科目名　比較教育社会学研究
評価実施日　平成23年7月25日
担当教員名　伴　恒信　　回答者数　18　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4	8	3	2		1	3.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	9	2	1	1	1	3.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。							
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	8	4	3	1		3.4
	(5)授業の進む速さは，適切であった。		7	4	5	2		2.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	5	6	2	3		3.1
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2	7	5	3	1		3.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	7	5	1	2	1	3.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	12	3	2			3.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3	8	5	1	1		3.6

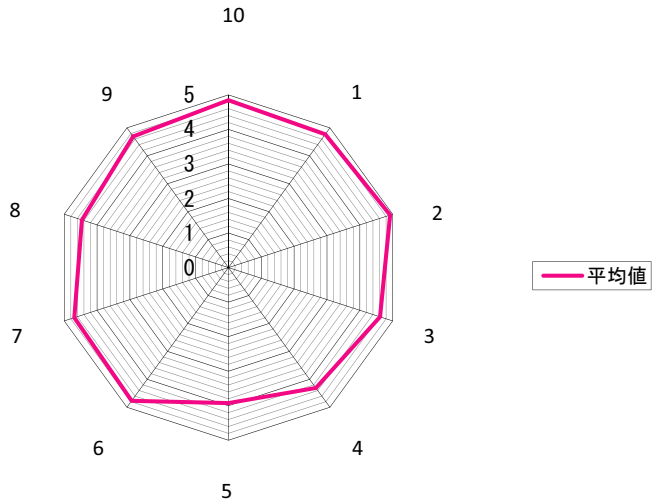


教員のコメント

結果報告書

授業科目名　幼年期福祉研究
評価実施日　平成23年7月28日
担当教員名　木村　直子　　回答者数　13　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	10	3					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	12	1					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	5					4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	6	5	2				4.3
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3	7	2	1			3.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	10	3					4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	9	4					4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	7	5	1				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10	2	1				4.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	11	2					4.8



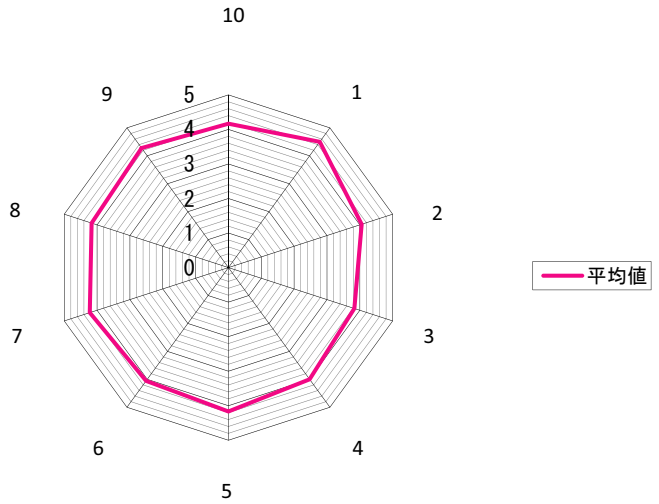
教員のコメント

今年度は多くの方(27名)が履修してくださった。そのため部屋が狭く、受講者には不便をかける点も多かった。また、アンケートを配布するのが遅く、全員にアンケートをとることができなかったことが残念である。授業の進め方や内容を受講生の状況に応じて、柔軟に対応することができ、そのことが、総合的に多くの院生の満足に繋がったように思う。また、今年度より講義科目においても対話型の授業を行っており、そのことが「授業内のディスカッションによって考えが深まった」「教員の発問によって授業後も深く考えた」といった嬉しいコメントに繋がったと考える。しかし、授業の進め方等詳細に見ていくと、改善の余地が残る。板書や進むペースについては、より分かりやすい記述や院生のスピードに合った対応については以前から求められており、緊急な改善が必要といえる。また今後の課題として、テキストや参考書などを随時紹介することによって、授業内容を補足し、院生の主体的積極的な取り組みにつながる可能性を広げていかなければならないと感じた。

結果報告書

授業科目名　幼年発達心理研究
評価実施日　平成23年7月28日
担当教員名　田村　隆宏　　回答者数　18　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	9	9					4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	12	1	1			4.1
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	8	5	1			3.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	6	7	4	1			4.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	7	8	2	1			4.2
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	7	6	4	1			4.1
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	8	7	2	1			4.2
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	7	8	2	1			4.2
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	7	3				4.3
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6	10	1	1			4.2



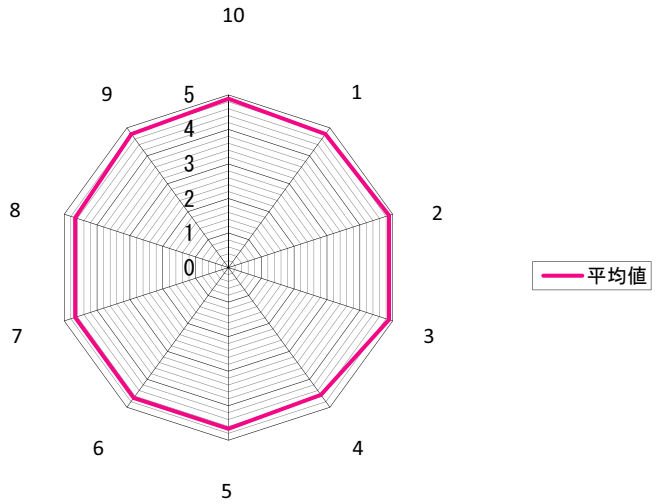
教員のコメント

各項目の評定値をみると，ほとんどの項目が4．0以上であり，概ね良好な評価を受けている結果となった。ただし，いくつかの項目において少数ではあるが，評定値として3や2にチェックした受講生もみられたことから，各項目の内容についてさらに改善を図ることも必要である。今後の授業では特に内容に関してはより教師の実践力に関わるもの，より専門的知識に関わるものを提供することが改善すべき点である。また，授業の進め方においても受講生に対して，成績評価の適切な説明，適正な進度，より分かりやすい説明，適切な資料配付，機材利用を心がけることが重要な改善事項になる。

結果報告書

授業科目名　幼年期教育学研究
評価実施日　平成23年7月25日
担当教員名　橋川　喜美代　　回答者数　9　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	7	2					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	1					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	1					4.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	4					4.6
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	6	3					4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6	3					4.7
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	6	3					4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6	3					4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	2					4.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	8	1					4.9



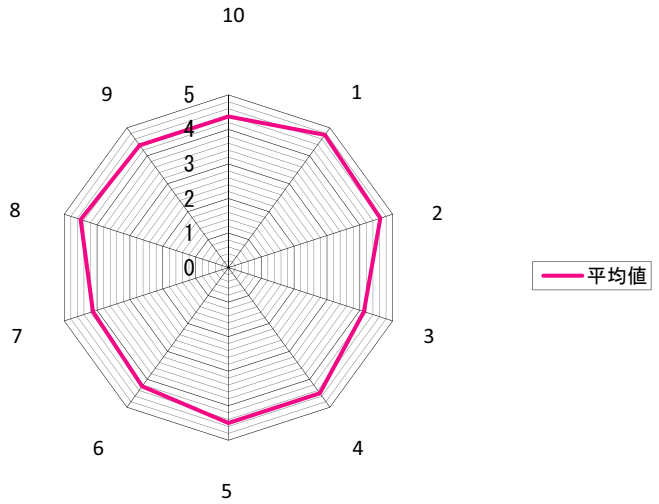
教員のコメント

すべての項目において，履修学生が4.6以上の評価を下しており，この授業に満足しているものと判断できる。授業者が年内に異動することもあり，本学での最後の授業を十分に果たし終えたことに安堵している。授業計画通りに進まず，幾分焦ることもあったが，履修学生のペースに合わせたことが質問項目(9)の「授業に主体的・積極的に取り組んだ」という評価をむしろ高める結果に結びついたようである。最後の授業で，やっと履修学生の積極的な態度を喚起できたことは非常に嬉しい。とはいえ，成績評価の方法はいつもながら配慮を欠くようである。この授業でよかったと思われる点としては、「説明が丁寧でわかりやすかったこと」「校外に出て行き，実際の保育現場を見ることができ，それを記録として残す方法について知ることができたこと」「独創的なカリキュラムを実践している小学校を知ったこと」「幼児教育について幅広い知識が得られたこと」「教育の基礎となるところや，今の教育の専門的な知識を得たこと」「現場に出た時に使える知識を学ぶことができた」「幼児教育のあり方や歴史なども学ぶことができ，とても勉強になった」などが上げられている。また，改善すべき点としては，「パワーポイントの配布資料がなかった。言えば授業後に配られたが，授業中に欲しかった」という要望が上げられている。授業内容は配付資料として渡しているので，その補足としてのパワーポイントの内容は配ってこなかった。今後は検討していきたい。

結果報告書

授業科目名　幼年発達と幼児教育内容論
評価実施日　平成23年7月29日
担当教員名　塩路　晶子　　回答者数　8　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	6	2					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	3					4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	5	1				4.1
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	4					4.5
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4	4					4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	4	1				4.3
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3	3	2				4.1
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4	4					4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	3	1				4.4
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3	5					4.4



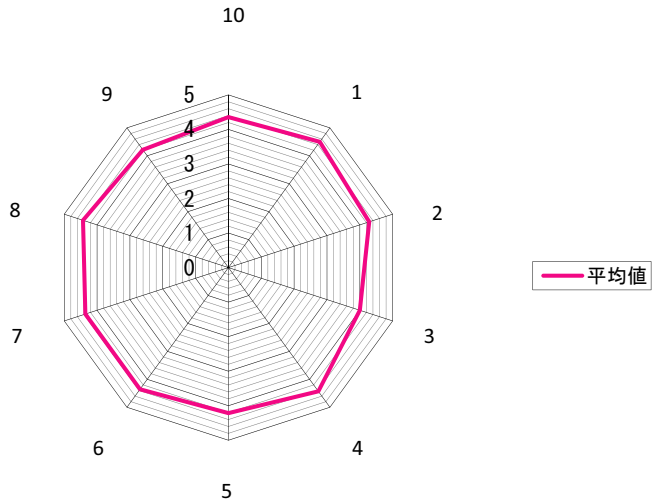
教員のコメント

概ね良い評価をいただくことができた。
自由記述には、「保育の歴史がよくわかった」など、歴史への理解が深まったことが記載されていた。
多くの資料を配付したため、熟読することが不十分なものもあったかもしれないことが、反省である。
本講義がめざしていた「子どもの生活や遊びを中心にした保育」の日本と諸外国（主にアメリカ）の保育内容を歴史的・現代的な観点から学ぶ、という目的は概ね達成され、受講生の専門的知識および教師の実践力の育成に少しは寄与できたと考えている。
　本講義の今後の課題としては、基本的には講義のスタイルをとりつつも、幅の広いニーズをもつ受講生がより主体的に講義に参加できるように、授業方法上の工夫をしていきたい。

結果報告書

授業科目名　文化間教育総論
評価実施日　平成23年7月22日
担当教員名　小西　正雄，太田　直也　　回答者数　14　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	7	7					4.5
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	5	1	1			4.3
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	6	2		1		4.0
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	7	6	1				4.4
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	7	5		2			4.2
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	7	6		1			4.4
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	8	4	1	1			4.4
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	9	4			1		4.4
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	3	4				4.2
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	7	5	2				4.4



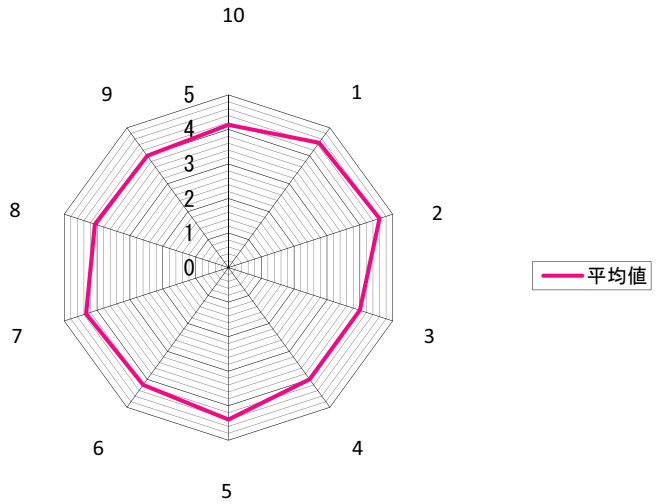
教員のコメント

今年度は可能な限り難解なテーマを分かりやすくすることに重点を置いたが、受講生にはその点が評価されたものと考える。ただし、そのために時として文化の複雑さを無視してしまったこともあり、授業担当者としては幾分かの消化不良を感じている。来年度の課題としたい。

結果報告書

授業科目名　文化間教育演習Ⅰ（基礎研究）
評価実施日　平成23年7月26日
担当教員名　小西　正雄　　回答者数　15　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	8	6	1				4.5
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	11	2	2				4.6
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	4	4	1			4.0
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	7	4				4.0
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	8	5	2				4.4
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	6	6	3				4.2
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	6	8	1				4.3
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6	4	5				4.1
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	6	3	1			4.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6	6	2	1			4.1



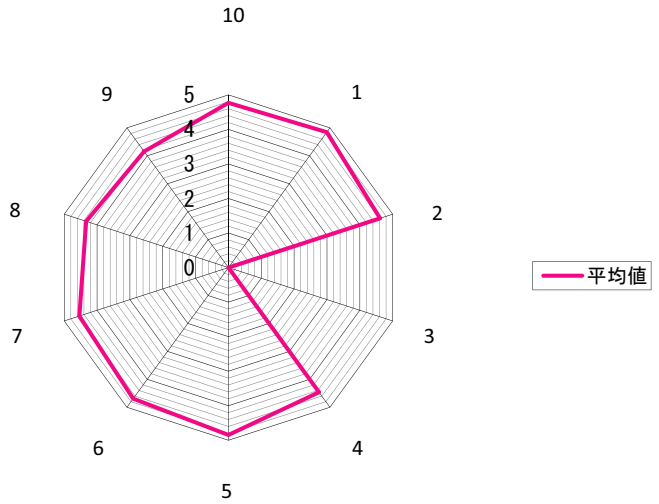
教員のコメント

おおむね良好な結果となり安堵している。とくに好評だったのが設問2の「専門的知識を深めるのに役だった」というもので，これは，研究に必要な論文を，受講生のレディネスを考慮しつつも，それよりは若干高いレベルで取りそろえ，一人1論文の責任制でその読解を厳しく指導した結果だと思われる。論文解読能力は必ずしも高くない受講生も多いなかで，安易な妥協をしないことも一つの方策であるように思われた。

結果報告書

授業科目名　文化間教育演習Ⅱ（地域研究）
評価実施日　平成23年7月27日
担当教員名　太田　直也　　回答者数　13　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	11	2					4.8
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9	3	1				4.6
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。							
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	6	7					4.5
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	11	2					4.8
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	9	4					4.7
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	8	4	1				4.5
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6	4	2			1	4.3
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	5	3				4.2
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	10	3					4.8



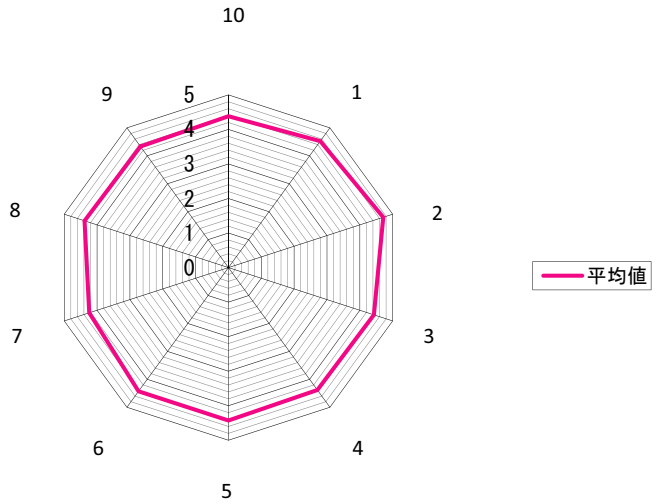
教員のコメント

この授業は演習であるため、基本的には調べ学習、プレゼンテーション、質疑応答により成立する。受講生たちは極めて丁寧に課題を調べ、発表をしたが、質疑応答にはやや活発さが欠けていた。これは授業担当者の責任でもあろう。次年度の課題としたい。

結果報告書

授業科目名　情報教育総論
評価実施日　平成23年7月25日
担当教員名　谷村　千絵，藤村　裕一　　回答者数　21　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	11	10					4.5
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	15	6					4.7
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	12	6	3				4.4
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	10	9	2				4.4
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	11	9		1			4.4
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	13	5	2	1			4.4
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	9	8	4				4.2
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	10	9	2				4.4
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	11	7	2	1			4.3
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	10	10		1			4.4



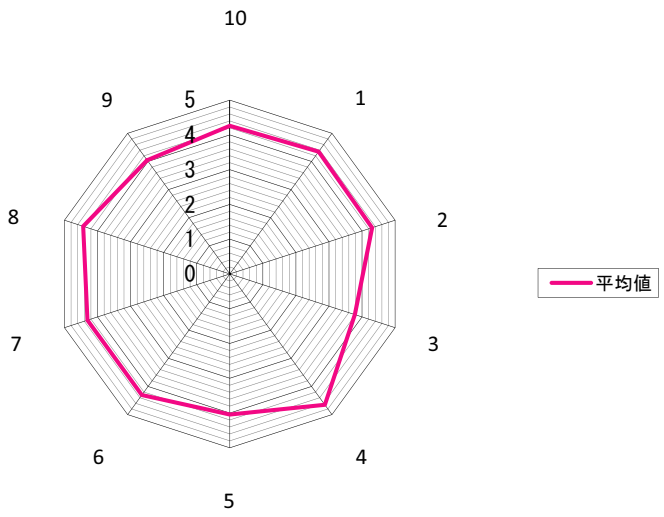
教員のコメント

自由記述欄には、以下の回答があった。「受講生に考えさせること」、「違う視点によって発問すること」がよかった、「数回のディスカッションがよかった、もう少しやりたかった」、「情報教育のとらえ方、視点が広くなった」、「パワーポイントを用いて丁寧に説明してもらった」、「ネット犯罪やネットいじめなどの具体的な事例を交えた授業だった」、「班別討議、発表で他の受講生と意見交換する場が設けられていた」、「今の学校現場の紹介があり勉強になった」、「二人の先生が合同で情報、メディアを考える授業があっても面白かったと思う」、「休講の補講をしてほしかった」。
授業の各内容を自分のなかで総合する時間を設けるよう、今年は試験問題を工夫した。学生から要望があった合同授業については時間的な制約もあって厳しい状況ではあるが、今度、前向きに検討する。補講については、遠隔教育システム等を使用して対応したが、学生の内容理解の把握も含めて、今後もきっちり対応していきたい。

結果報告書

授業科目名　環境教育総論
評価実施日　平成23年7月26日
担当教員名　田村　和之，近森　憲助　　回答者数　23　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	12	8	2	1			4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	11	9	2	1			4.3
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	8	4	4			3.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	17	4	2				4.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	8	10	3	2			4.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	11	9	2	1			4.3
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	12	7	3	1			4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	13	7	3				4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	10	4		1		4.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	11	8	3	1			4.3



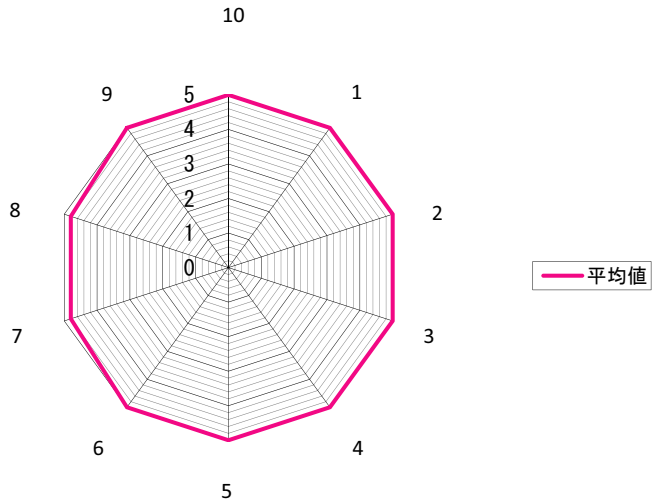
教員のコメント

本授業は環境教育を行う為の、環境に関する基礎知識を習得することをねらいとしている。したがって、本授業では教師の実践力よりも専門的知識を深めるのが目的であり、アンケート結果によると、質問2において、23名中20名が4以上の評価であり、その目的を十分に果たしたと思われる。また、授業の進行速度（質問5）の評価が他の質問と比べて多少低いが、これは今回の授業が本年度より大幅に再構成されたためであり、講義によって内容量に多少のムラがあったためで、今後の改善すべき課題点と考える。ただし、成績評価の方法（質問4）、そして授業内容（質問6～9）に関しては学期中に学生の意見を聞き、多少の変更等も行ったにもかかわらず、教員の予想よりも好評価を得ており、変更後の授業方針が学生にとってより平等で、かつ受け入れられるものであったと思われる。来年度はこのような評価や反省点をふまえ、より良い授業を構成して行くことが課題である。

結果報告書

授業科目名　環境教育特論Ⅱ（授業開発）
評価実施日　平成23年7月26日
担当教員名　近森　憲助，田村　和之　　回答者数　5　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5						5.0
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5						5.0
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	5						5.0
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	5						5.0
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	5						5.0
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	5						5.0
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	4	1					4.8
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4	1					4.8
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5						5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5						5.0



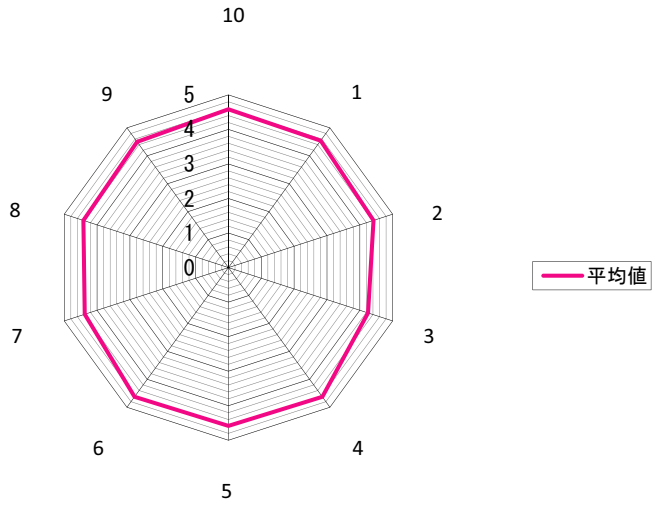
教員のコメント

比較的高い評価が得られたのは、次のような理由によるものと考えられる。
1）受講生が少人数であることを利用して、各自が自由にトピックを選定し、受講生全員とプロセスを共有しながら授業づくりができた。
2）授業づくりのプロセスを視覚的に共有できるよう授業の要素をエクセルシート状に展開し、プロジェクターで投影しながら、授業づくりを進めた。

結果報告書

授業科目名　現代の子どもと学校教育
評価実施日　平成23年7月29日
担当教員名　谷村　千絵　　回答者数　24　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	13	11					4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	14	7	2	1			4.4
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	10	11	2	1			4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	16	7	1				4.6
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	15	8	1				4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	16	7	1				4.6
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	16	4	2	1	1		4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	13	10			1		4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	15	6	3				4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	15	8	1				4.6



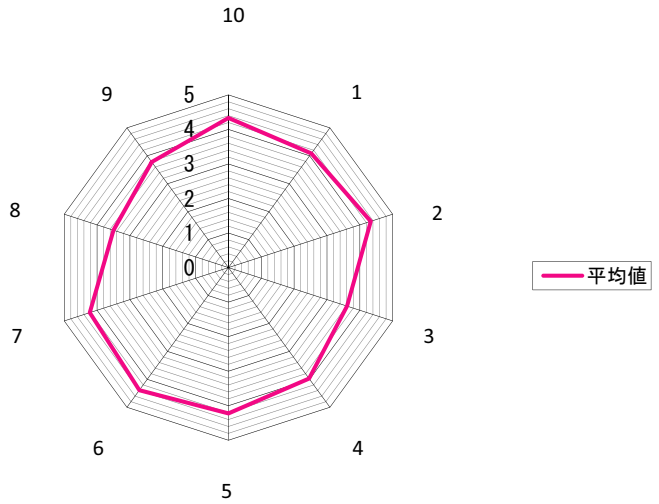
教員のコメント

学生の問題意識から出発して、「自分の考えを書く→グループでシェアする→まとめて発表する→全体で議論する→自分の考えをまとめる」というプロセスを、複数回繰り返した。おおむねよい評価がなされている。項目の(7)と(8)では、評価1ががそれぞれ一つある(同一人物)。この授業では、教科書は使用せず、配布資料やプレゼンは、教員だけでなく学生が作成・実施したものも多かった。教員が配布した資料の中で一部分を時間の都合で割愛したのでそのことかと推察するが、評価1とした理由について自由記述欄には書いていなかったので正確には分からない。自由記述欄には、学生同士の意見交換を肯定的に評価する意見が多く、「頭の中でものすごい化学反応がおこっていろんなことを考えることができたよかった」、「この時間が思考をめぐらせる幸せな時間だったので面白かったです」という感想があった。

結果報告書

授業科目名　臨床心理学研究Ⅰ
評価実施日　平成23年7月21日
担当教員名　吉井　健治　　回答者数　36　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	12	16	7	1			4.1
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	17	14	5				4.3
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	11	15	3			3.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	14	9	12		1		4.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	16	13	6	1			4.2
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	19	13	3	1			4.4
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	16	13	6	1			4.2
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	7	9	15	5			3.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	15	10	3			3.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	19	11	5	1			4.3



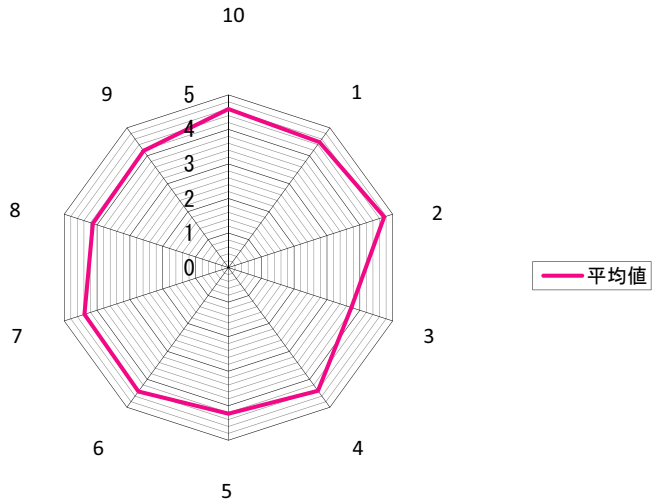
教員のコメント

平均値が低かった項目については次のように考えられる。「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった」(3.6)は、本コースが臨床心理士養成を目的としているので低くても仕方がないだろう。「(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった」(3.5)は、授業者の話し言葉による説明が多すぎたかもしれない。板書やプレゼンテーションを増やしたり工夫する必要があるといえよう。他方、平均値が高かった項目は、「(6)受講生に分かりやすく説明した」(4.4)と「(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった」(4.3)であった。授業者は、専門知識を自分なりの言葉で分かりやすく説明するということを日頃から心がけているのだが、このことがある程度実行できていたといえよう。総合すると、「(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う」(4.3)が比較的高い得点であり、本授業はおおむね受講生にとって有意義であったといえよう。自由記述では、「多くの事例を提示してもらい、その解釈や考察を聞けたことは良かった」などの記述が多くあることから、具体的な臨床事例を提示したり面接経過をもとに説明をすることが受講生に興味・関心を抱かせ理解を促進させたと考えられる。

結果報告書

授業科目名　臨床心理学研究Ⅱ
評価実施日　平成23年7月22日
担当教員名　葛西　真記子　　回答者数　39　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	22	14	3				4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	30	8	1				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	13	6	17	3			3.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	21	14	3	1			4.4
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	19	13	4	3			4.2
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	20	17	1	1			4.4
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	21	13	4	1			4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	18	10	9	2			4.1
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	16	16	5	2			4.2
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	26	11	1	1			4.6



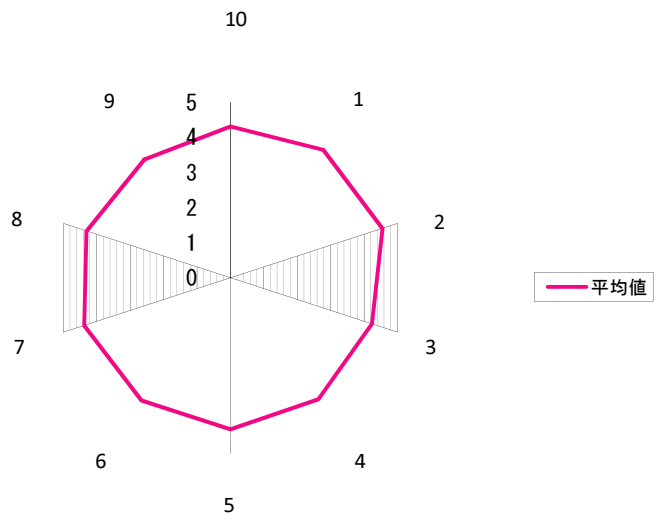
教員のコメント

全体として、とても高い評価を受けた。総合評価は、4.6であり、それぞれの項目についても、「教師の実践力の育成につながる内容であった」の項目以外、すべてにおいて4.0以上であった。この項目についても、3.7であり、それほど低くはなかった。本講義の内容は、臨床心理学の理論の応用編である。修士課程1年のときに基礎的な理論を学び、演習を行い、修士課程2年になると実際の相談事例を担当するようになる。そのため、本講義の内容は、できるだけ、具体的な事例の紹介や理論の応養性について述べている。相談室でのケース以外でも応用できるように、数回に一度程度は、学校教育の場での理解の仕方についても言及している。本アンケートの結果として、教師の実践力の育成につながる内容であったかどうかについて、それを主目標としていないこと、また受講生もそれを求めていない可能性もあることを考えると、この項目の変更も必要なのではないかと考える。自由記述の方からは、昨年と同様に、「精神分析の内容がよく理解できた」「具体的な事例の話しがあり、わかりやすかった」等肯定的なものが多かった。また、「必ず、質問の時間があり、質問しやすかった」というものもあり、今後もこの内容と方法を続けて行きたいと思う。改善点として、「授業の中で紹介された本のリストがほしい」というものがあったので、来年度は、授業時間中に紹介した本のリストを授業の初めに提示するなどしていきたいと思う。

結果報告書

授業科目名　学校精神保健学研究
評価実施日　平成23年7月28日
担当教員名　今田　雄三　　回答者数　42　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	23	17	2				4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	25	15	2				4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	19	16	5	2			4.2
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	19	15	8				4.3
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	24	10	5	3			4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	24	10	5	3			4.3
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	23	14	3	2			4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	22	14	4	1	1		4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	16	18	7	1			4.2
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	20	17	3	2			4.3



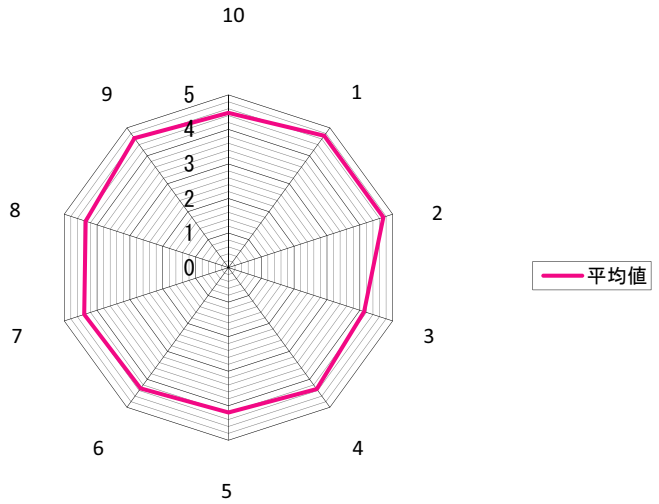
教員のコメント

総合評価「(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。」に関しては4.3点を獲得したのをはじめ、(1)～(9)の各項目ごとの評価でも全て4点を超えており、本授業は受講生から非常に高い評価を得られたものと考える。ただし授業の内容についての評価では「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。」、教員の授業の進め方についての評価で「(5)授業の進む速さは，適切であった」「(6)受講生に分かりやすく説明した」「(7)教科書や配布された資料は，適切であった」「(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった」、あなたの授業への取り組みについての評価で「(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ」の各項目に関しては、2点以下と評価した者がわずかだが認められた。(3)に関しては、精神保健の観点からの児童理解が教師の実践力の育成にとって重要であることを今後改めて授業内でわかりやすく周知していきたい。また(5)～(8)の授業の進め方に関しては、レジメの枚数の多さやPowerPointの文字が小さくて見えづらい時があると自由記述で指摘があったので、次年度ではそれらの点に留意してよりわかりやすく授業を進めたい。なお(9)に関しては、講義形式の授業であるためどうしても受講者が受け身的になってしまう傾向があるため、今年度も授業内で短い演習や発表、事例の紹介なども取り入れたが次年度以降授業の形式をさらに工夫し、受講生が積極的に参加できるようにしていきたい。

結果報告書

授業科目名　臨床心理査定演習Ⅰ
評価実施日　平成23年7月29日
担当教員名　久米 禎子, 佐藤 亨, 葛西 真記子, 今田 雄三, 栗飯原 良造, 中津 郁子, 吉井 健治, 小倉 正義　　回答者数　46　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	34	11	1				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	35	10		1			4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	22	9	14	1			4.1
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	23	18	3	2			4.3
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	22	16	4	3	1		4.2
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	24	15	6		1		4.3
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	26	14	5		1		4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	21	21	3	1			4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	30	15	1				4.6
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	27	15	3	1			4.5



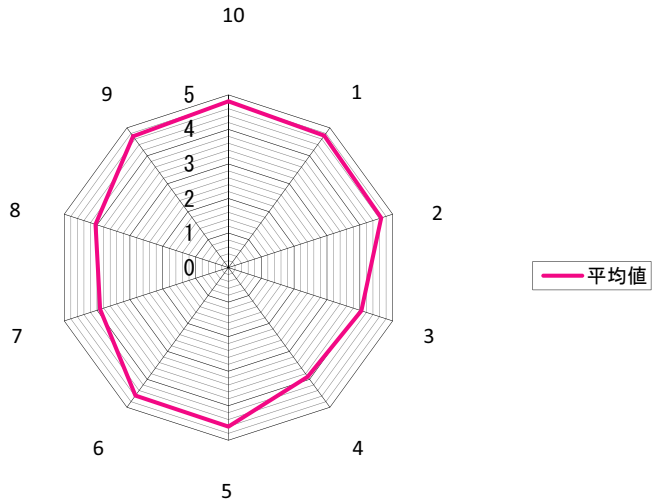
教員のコメント

演習形式の授業であり，レポート課題も多いため，学生はおおむね主体的に取り組むことができていたと考えられる(質問項目9)。また授業に対する満足度も比較的高いものとなっている(質問項目10)。
本授業は，臨床心理士養成コースの大学院生を対象とした専門的な授業であるため，質問項目3の教師の実践力の育成に関する評価が多少低くなっているのはやむを得ないと思われる。
授業の進め方や評価の方法については，複数名の教員で担当している授業であるため，統一的なものにはなっていない。それぞれの教員の個別性を生かしつつ，学生のニーズにも応えていくことが今後の課題である。

結果報告書

授業科目名　臨床心理面接演習
評価実施日　平成23年7月28日
担当教員名　中津 郁子, 粟飯原 良造, 今田 雄三, 葛西 真記子, 吉井 健治, 小倉 正義　　回答者数　43　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	32	10	1				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	31	9	3				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	17	14	9	3			4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	16	12	10	5			3.9
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	30	10	2	1			4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	26	16	1				4.6
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	14	12	16	1			3.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	20	8	13	1	1		4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	31	11	1				4.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	36	6	1				4.8



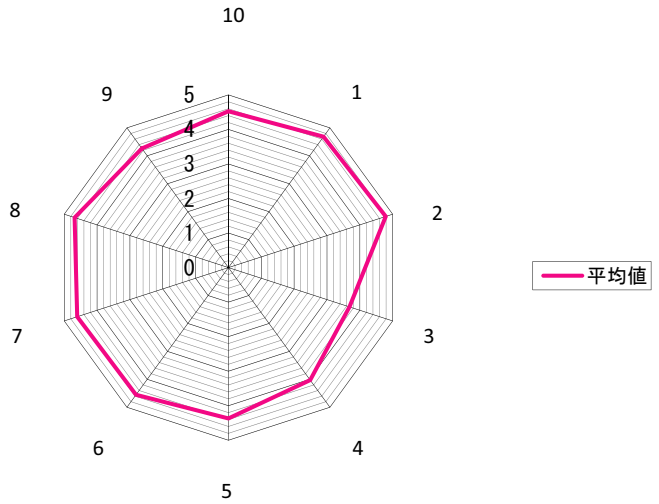
教員のコメント

この授業は院生が6つのグループ(1グループが7～8人)に分かれて、ロールプレイを行いグループ討議をするという授業である。面接場面での傾聴技法の習得など、相談室での面接を担当する上では重要な授業である。総合評価が4．8ととても高い評価になっている。院生にとって満足の行く授業であったと考えられる。院生のコメントを見ると、「小人数であった」こと、「実践的であった」ことや、「自己分析」や「自分の癖や傾向を知る」ことが出来たことを「良かった」こととして多数の人があげていた。教員の指導に関しては、「熱心に」「丁寧に」「的確に分析し」「具体的に」指導してくれたことが良かったとしていた。また、改善点としてあげられていたのは、「回数を増やしてほしい」という意見や「機材の使い方の説明」「理論や文献の紹介」をもう少ししてほしかったなどの意見が見られていた。また、グループに分かれることで、その担当の教員によってやり方に多少違いが出てくる。そのことによって「受講する学生の得るものに差が生じるのではないか」という意見も見られていた。これらの意見に関しては、今後検討していきたい。

結果報告書

授業科目名　臨床心理面接研究Ⅱ
評価実施日　平成23年7月29日
担当教員名　粟飯原　良造　　回答者数　38　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	27	10	1				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	31	6	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	12	6	17	2	1		3.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	17	10	7	3	1		4.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	20	14	2	2			4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	23	13	2				4.6
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	24	13	1				4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	26	12					4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	18	12	8				4.3
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	24	11	2	1			4.5



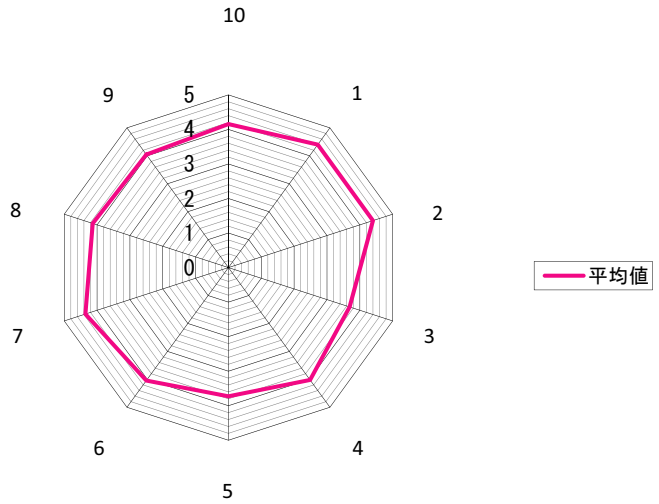
教員のコメント

各質問項目に対して平均3.7～4.8点であり，総合評価も4.5点であり概ね受講生は満足したと考えられる。質問項目(3)「教師の実践力の育成につながる内容であった。」が3.7点，評価1点1名，評価2点2名であったのは，カウンセリング理論・技法を教師の実践力につながることを授業内で伝えているが，教員対象ではなく臨床心理士資格取得希望者が対象であることからと考えられる。質問項目(4)「成績評価の方法の説明は，適切であった。」は4.0であり評価1点1名，評価2点3名であるが，シラバスで評価の基準は明記し，その基準に従って評価しているので，評価基準の周知徹底を行う必要がある。

結果報告書

授業科目名　社会心理学研究
評価実施日　平成23年9月29日
担当教員名　佐藤　健二　　回答者数　45　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	23	17	5				4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	23	17	5				4.4
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	12	12	17	3	1		3.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	16	15	13	1			4.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	9	18	13	4		1	3.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	15	18	11	1			4.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	27	10	5	3			4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	19	18	3	5			4.1
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	14	21	8	2			4.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	18	18	7	2			4.2

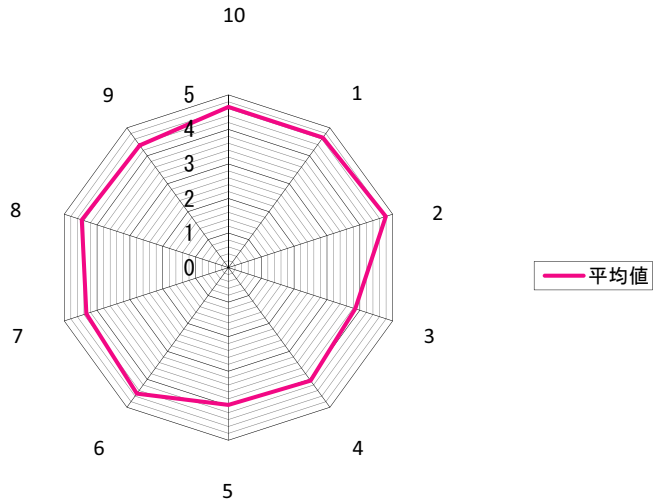


教員のコメント

結果報告書

授業科目名　心理臨床特別研究
評価実施日　平成23年9月25日
担当教員名　市井　雅哉　　回答者数　43　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	31	9	3				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	35	7	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	14	12	15	1	1		3.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	15	16	11	1			4.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	13	20	6	4			4.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	27	12	3	1			4.5
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	23	14	3	3			4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	26	12	4	1			4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	22	17	2	2			4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	30	11	2				4.7



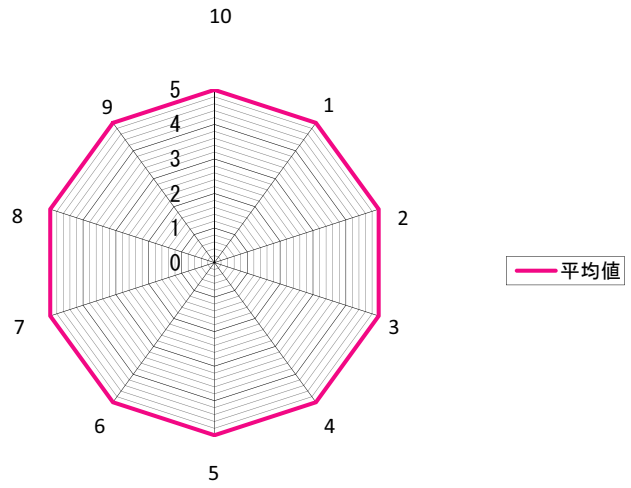
教員のコメント

概ね高い評価を受けたと感じている。(3)～(5)辺りがやや低いように思われる。(3)は元々この授業の性格上，やや低いのは仕方ないだろう。(4)はより明確な教示をする必要があったと思う。(5)は集中講義という生活上，やや急ぎ足であったことは否めない。今後の参考にさせていただきたい。

結果報告書

授業科目名　特別支援教育コーディネーター概論
評価実施日　平成23年7月26日
担当教員名　井上　とも子　　回答者数　5　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	5						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	5						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5						5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5						5.0



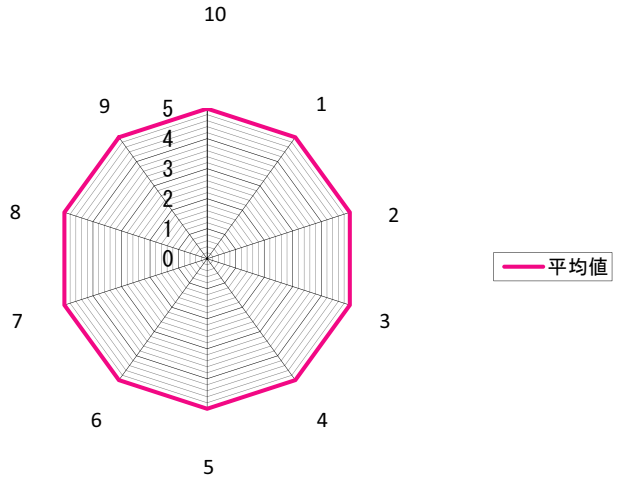
教員のコメント

受講生から、好評価を得たことで、今後もこの授業の形態や内容を継続したい。但し、講義の内容については、特別支援教育コーディネーターに関する知見も新しくなっているため、学会や文献、また、現場からの情報によって、最新のものに替えるなど、院生のニーズに応じられる内容にしていきたい。自由記述では、毎週、課題が提示され、レポートと発表が予習として課せられた授業であるため、負担は高かったと思われるが、そのことに関しても、「自身が考えることの多い授業であった」など、学びの姿勢をつかめたといったコメントが全員から聞けており、苦労とやりがいの双方が多い授業であったと感じる。今後も、院生と共に学校現場の問題を共に考え、解決していく姿勢で授業に臨みたい。

結果報告書

授業科目名　特別支援教育コーディネーター実地教育
評価実施日　平成23年7月26日
担当教員名　井上　とも子　　回答者数　2　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2						5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2						5.0



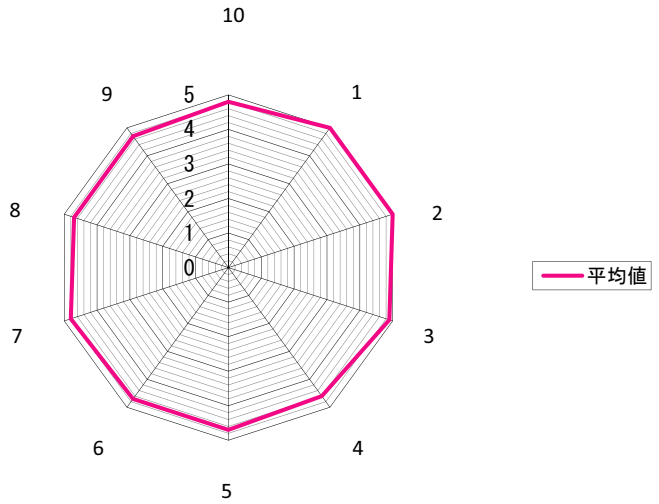
教員のコメント

この授業は、大学内(附属特別支援学校地域連携室)に指導場面を設置して、大学院生が実際に指導者となって、高機能発達障害幼児に対して就学前指導を行っている。毎週の指導場面は観察室から保護者と大学教員が指導の様子を見ており、大変緊張を強いられる授業であると思う。また、毎週の指導計画、略案作りから、指導後の映像記録分析まで、この指導の実施に関しては非常に時間を要しており、負担感の高い授業である。しかし、どの院生も真面目に真剣に取り組み、実践力を身につけることができていることがわかる、自由記述となっている。附属に指導の場面を置くことによって、指導協力者にとっての利便性は高くなっており、また、指導のしやすい教室環境であるため、このまま、附属特別支援学校の地域連携室をお借りして、授業を進めたい。また、院生にとって負担は高いと思われるものの、地域のリーダーとなる特別支援教育コーディネーター養成分野としては、発達障害児の指導に関して、身につく実践力の大きさから、同じ形で継続したいと考えている。

結果報告書

授業科目名　特別支援教育学研究論Ⅰ
評価実施日　平成23年8月3日
担当教員名　八幡　ゆかり　　回答者数　10　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	10						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	10						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	9	1					4.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	7	2	1				4.6
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	7	3					4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	7	3					4.7
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	8	2					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	8	1	1				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	1	1				4.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	8	2					4.8



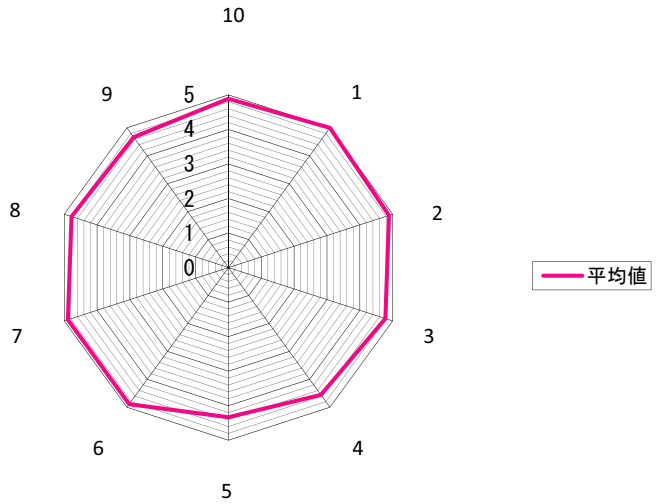
教員のコメント

受講生の評価結果をみると，各項目の平均値は「4.6～5.0」の範囲で，総合評価が「4.8」であった。特に，授業者が意図した，「(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった」が「5.0」，「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった」が「4.9」と高い値を示していた。このことから，本授業内容は受講生にとって意義があったと考えられた。しかし，「専門的知識を実践につなげる」といったことについては，授業中の様子から現職教員と長期履修学生とでは理解度に違いが見受けられた。この点については，当然のことと言えるが，後者の受講生に特に配慮した授業を展開していきたい。

結果報告書

授業科目名　特別支援教育学研究論Ⅱ
評価実施日　平成23年7月28日
担当教員名　大谷　博俊　　回答者数　9　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	9						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	1					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	2					4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	6	2	1				4.6
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	5	2	2				4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	8	1					4.9
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	8	1					4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	7	2					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	3					4.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	8	1					4.9



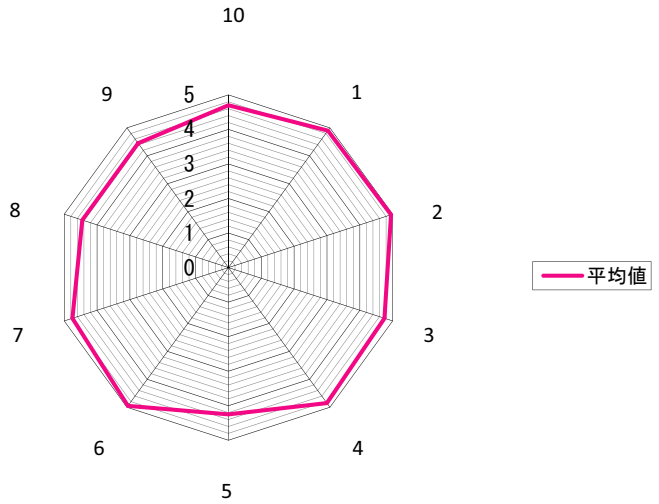
教員のコメント

講義に対する受講生の満足度は非常に高い。講義内容と受講生の興味･関心が合致していたことが推察できる。特別支援教育に関わるトピックを取り上げると共に、具体的な実践例に基づく諸理論の解説を今後も続けていきたい。

結果報告書

授業科目名　特別支援教育臨床心理学研究論
評価実施日　平成23年7月29日
担当教員名　高原　光恵　　回答者数　20　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	18	2					4.9
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	19	1					5.0
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	15	5					4.8
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	17	3					4.9
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	9	8	2	1			4.3
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	19	1					5.0
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	16	3	1				4.8
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	11	7	2				4.5
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10	9	1				4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	14	6					4.7



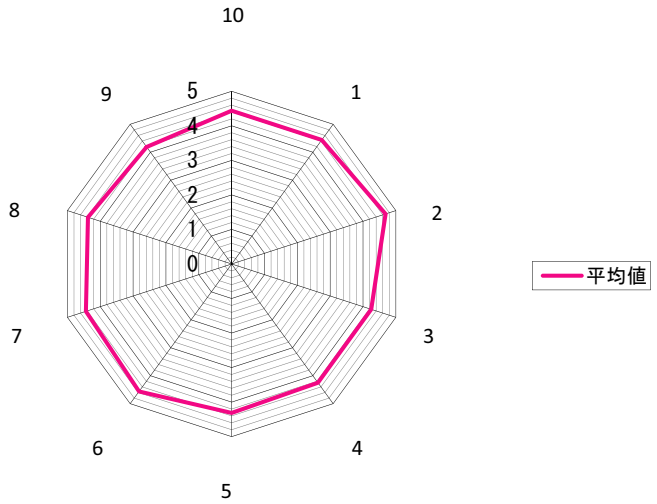
教員のコメント

授業で扱った内容については、おおむね分かりやすく伝えられたようである。しかし、テーマによって説明内容が多過ぎ、ノートをとる時間が不足するなど、配布資料の活用が十分ではなかったことが明らかとなったので、その点を改善したいと思う。

結果報告書

授業科目名　特別支援教育学習心理学研究論
評価実施日　平成23年7月25日
担当教員名　島田　恭仁　　回答者数　16　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	8	7	1				4.4
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	12	3	1				4.7
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	8	2				4.3
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	7	6	3				4.3
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	8	6	1	1			4.3
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	9	7					4.6
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	7	9					4.4
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	8	6	2				4.4
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	7	3				4.2
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	7	9					4.4



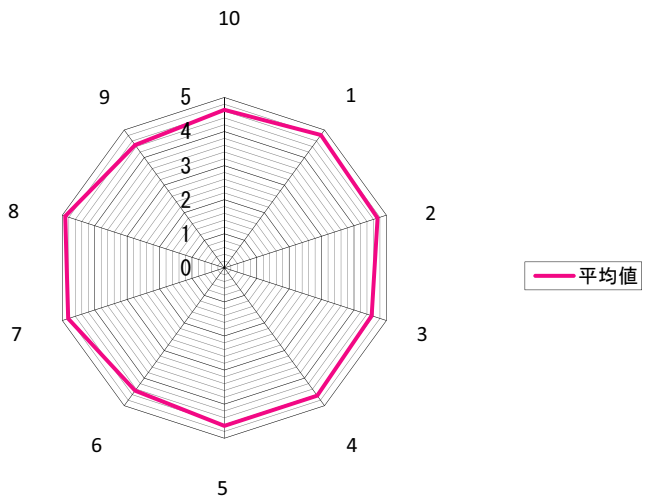
教員のコメント

項目(6)(7)(10)で，受講者16名全員が5又は4の高い評価を行ったことから，「配布した資料は適切であり，」「受講生に分かりやすく説明することができ，」「大方の受講生がこの授業はよかったと思っている，」ことが分かった。従って，授業の内容はよく浸透したことが確かめられた。さらに，項目(2)では，16名中の15名が5又は4の評価をおこない，さらに5の評価を行った者が12名，全体の平均値が4.7という，全項目中最も高い評価が得られたことから，本講が受講生の「専門的知識を深めるのに役立つ内容だった，」ことが分かった。新しく開発された心理検査の紹介をも含めて，知能の測定の理論と記憶・認知の理論について時間をかけて説明したことが，授業内容の浸透に役立ったのだと考えられた。また，発達障害のある児童に対する心理アセスメントの流れを，実際の特別支援教育の場面で行われるアセスメントの流れに即して説明し，近年話題にされることの多い発達性読み書き障害の事例を紹介したことが，専門的知識の向上に寄与したのだと考えられた。事例に即して，アセスメントと指導のリンクを形成する方法を理解することができたために，大半の受講生が教育実践に役立つ専門的な知識・技能を習得できたと感じたのだと思われる。しかしながら，項目(4)と(9)では3の評価を行った受講生もいたことから，「成績評価の方法」を工夫して「授業への主体的・積極的な取り組み」を促す必要があると考えられた。本講では論作文による評価を行うが，CiNiiによる図書館所蔵文献の検索をも含めて，参考文献に広く当たることを授業中に奨励し，論作文の末尾に参考・引用文献を記載するようにする等，工夫をこらしたい。

結果報告書

授業科目名　発達障害児病理・病態生理学研究
評価実施日　平成23年7月29日
担当教員名　田中　淳一　　回答者数　11　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	9	2					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	3					4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	5					4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	7	4					4.6
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	8	2	1				4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6	4	1				4.5
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	9	2					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	10	1					4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	4	1				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	7	4					4.6



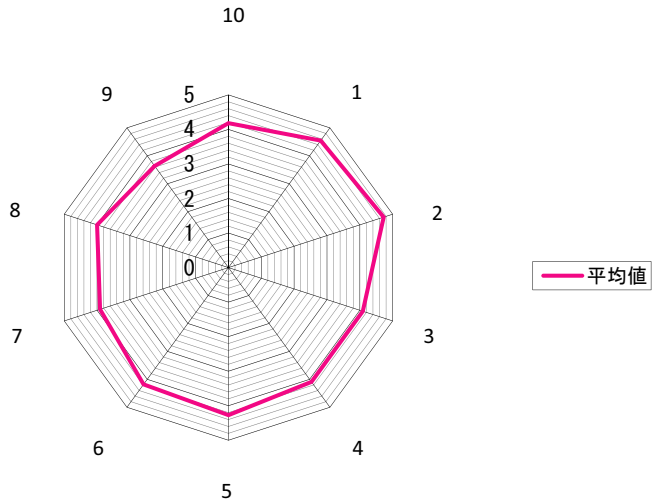
教員のコメント

各質問項目ともに平均値が4,5を上回っており、ある程度の適切な授業が出来たと推測される。専門用語が多いだけに理解しやすいような説明に努めたつもりである。この分野は興味、関心のある学生が受講するので、熱心に授業を受けてくれたように思われる。授業内容は、昨年度よりもより興味のあると思われるものを多くした。ただ、いくつかの項目で3が見られるので、今後はすべての項目で3をなくすようにしたいと考えている。授業方法および評価も問題がなかったように感じられる。アンケートでの良かった点、悪かった点のほとんどは空白であり、具体的に指摘して頂ければと思った。

結果報告書

授業科目名　発達障害児生理・発達学研究
評価実施日　平成23年7月25日
担当教員名　津田　芳見　　回答者数　11　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	7	3	1				4.5
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	3					4.7
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	8	1				4.1
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	8	1				4.1
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	4	6	1				4.3
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	3	7	1				4.2
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	4	3	3	1			3.9
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5	1	5				4.0
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	3	6				3.6
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3	7	1				4.2



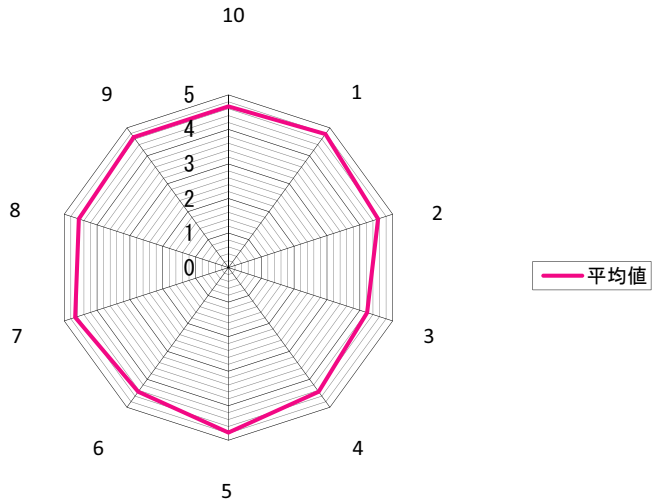
教員のコメント

全体的に平均的な評価を受けているようである。特に専門的知識や、概説などが高い評価を受けている。しかし、学生の授業への積極的取り組みについては、いまひとつである。ワークショップ的な授業も取り入れ、もう少し、積極的な授業参加を図りたいと考える。

結果報告書

授業科目名　言語教育基礎論Ⅰ
評価実施日　平成23年7月28日
担当教員名　原　卓志，茂木　俊伸　　回答者数　9　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	7	2					4.8
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	4					4.6
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	3	2				4.2
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	3	1				4.4
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	7	2					4.8
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	5	3	1				4.4
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	6	3					4.7
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5	4					4.6
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	3					4.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6	3					4.7



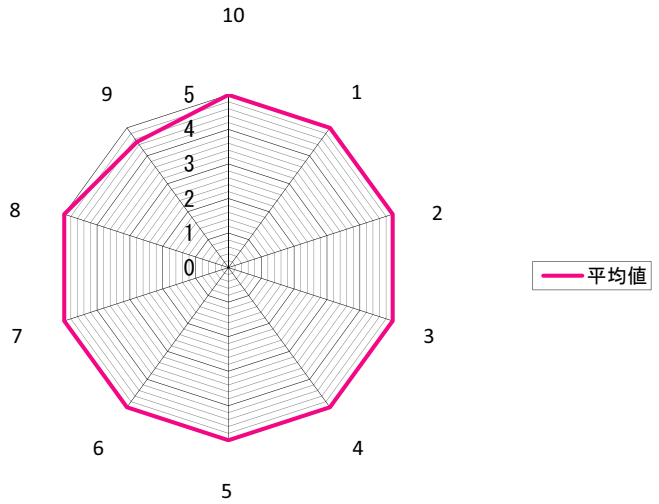
教員のコメント

昨年度に引き続き、高い評価を得たことは喜ばしい限りである。
共同で担当している各教員の話題提供において、その内容の選び方、話題提供の工夫、また、ディスカッション時のリードなどの工夫、また、受講生の積極的な態度とによって、充実した時間を過ごすことができた。
アンケート時間が十分に確保できなかったためか、コメント数が少ないが、良かった点として次のような意見がある。
〇いろいろな先生方の専門的なお話が伺えて良かった。
〇国語学・日本語学・英語の観点から、様々な視点で言葉について学ぶことができます。
〇普段何気なく使っている言葉の奥深さを知った。授業でも使えそうなネタがいっぱいだった。
〇多くの先生方が一つの授業をされるので、毎回の授業がバラエティーに富んでいて、いつも新鮮な気分で取り組めた。
改善すべき点としてのコメントとして次のものがある。
〇国語と英語が一つクラスで混ざっているので、自分の専門外の分野が分からないことがあった。
この改善点については、つねに授業担当者が専門以外の受講生にも分かりやすい説明を心がけているのであるが、なおも、このような意見が出ることを意識しておきたい。

結果報告書

授業科目名　日本語Ⅰ
評価実施日　平成23年7月25日
担当教員名　永田　良太　　回答者数　2　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1					4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2						5.0



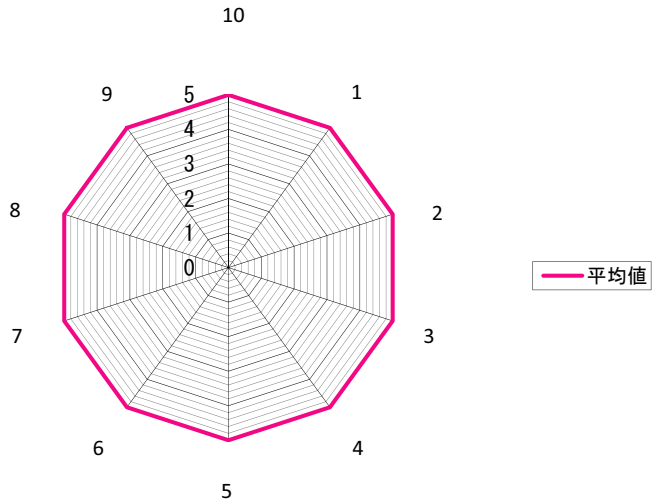
教員のコメント

本授業では，レポートや論文を書くための日本語力を身につけることを目標とした。本年度の受講者はいずれも漢字圏の学習者で，レベルも統制されていたため，授業の進め方や説明の仕方等に関して，困難さを感じることは少なかった。そのため，「授業の進め方」に関する各項目の評価も高いものとなっている。また，前年度は「授業内容」に関して，日本語の学習が専門的知識の習得や実践力の育成にどのように結びつくのかについて理解させることが改善点として指摘されていたが，評価結果を見ると，本年度の授業ではこの点が改善されていることがわかる。次年度以降もこの点に留意しつつ，主体的な学習を促すような取り組みを行っていきたい。

結果報告書

授業科目名　日本語Ⅱ
評価実施日　平成23年7月27日
担当教員名　妹尾　春子　　回答者数　4　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	4						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4						5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4						5.0

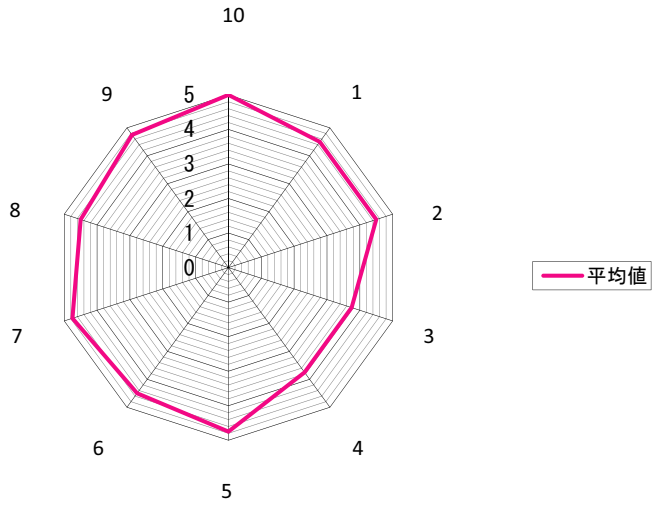


教員のコメント

結果報告書

授業科目名　日本古典語研究
評価実施日　平成23年7月25日
担当教員名　原　卓志　　回答者数　4　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2	2					4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	2					4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	2		1			3.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。		3	1				3.8
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3	1					4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	2					4.5
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3	1					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	2					4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1					4.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4						5.0



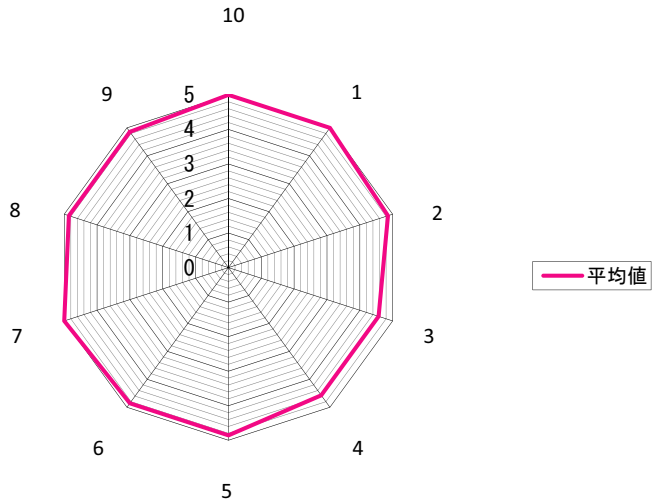
教員のコメント

総合評価が「5」であったことは、喜ばしいことである。鎌倉時代の古写本をコツコツ読むという慣れない作業に苦労したことだと思われるが、受講生諸君の積極的で明るい態度によって楽しく、充実した授業になった。
項目3「実践力育生につながる内容であったか」について、評価「2」の受講生がいるが、「実践力」の捉え方の違いであると思われる。今後の授業では、実践力とは何かということを、受講生と話し合うような時間も確保してみたい。
寄せられたコメントとして、次のものがある。
〈良かった点〉
○古典の敬語や助動詞などの復習になった。
○不足していた古文・漢文の知識を得られたこと。
○作品を読み進めるごとに、読める漢字が増えていったので、後半になるにつれて内容が分かるようになって面白かった。
〈改善すべき点〉
○最初の講義から作品の読解をすぐに行うのでハードルが高い。
古写本を読むためにはこのハードルを越えなければならない。決して楽な道はないと考えている。

結果報告書

授業科目名　現代日本語研究
評価実施日　平成23年7月26日
担当教員名　茂木　俊伸　　回答者数　7　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	7						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	1					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	1	1				4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	3					4.6
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	6	1					4.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6	1					4.9
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	7						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6	1					4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	1					4.9
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	7						5.0



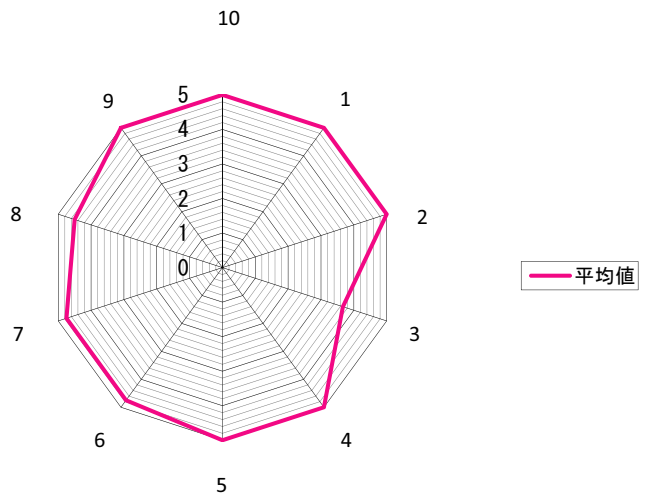
教員のコメント

本授業では，現代日本語の語彙・文法などに関する諸問題を題材としながら，ことばの分析・研究において必要となる視点や技術に対する理解を深め，これらを獲得することを主な目標とし，講義を行った。受講者数は 9 名（＋聴講 2 名）であった。
授業の総合評価の平均値は 5.0，全項目の平均値は 4.84 であり，いずれも昨年度よりやや上昇している。
項目3と項目4が最も低い評価（平均値 4.57）であり，直接的に「実践力」に関わる話題を扱っていないせいか，項目3には「3」を選択した受講者がいる。ただし，全体的には受講者それぞれの専門や実践に活かせる内容として評価されているように思われる。
なお，改善点（記述式項目[3]）に関しては，全員が「特になし」か無記入であった。

結果報告書

授業科目名　日本文学研究Ⅰ
評価実施日　平成23年7月29日
担当教員名　野口　哲也　　回答者数　4　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。		2	1			1	3.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	1					4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3	1					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	2					4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4						5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4						5.0



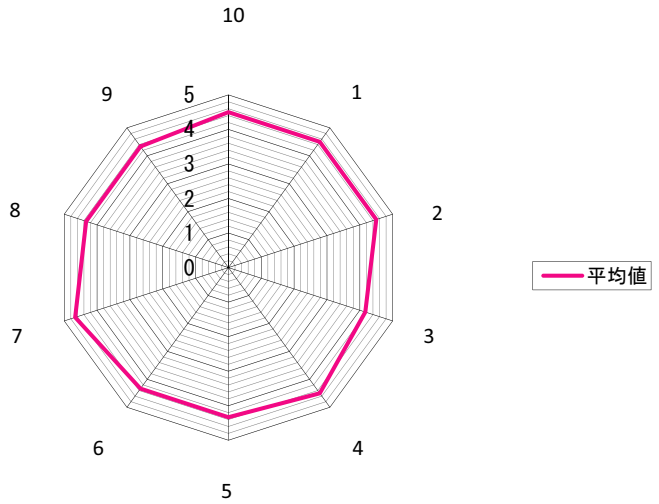
教員のコメント

受講者が少数ということもあり、概ね好評価を得られたと思っている。自由記述による回答においても、時間をかけて多様な観点から文学作品を読みこんでいくという作業自体に高い満足度が示されている。
教師の実践力の育成(3)に関しては、当授業は学校現場での実践に直接結びつく技術の向上を目的とした内容ではないため項目上の限界はあるが、なお若干の問題が残されているかもしれない。
授業に対する主体的な取り組み(9)に関しては昨年度の結果を踏まえて意識的な授業を心がけたこともあるが、むしろ受講者側の学習意欲の高さによって、改善されたように見えるのではないか。

結果報告書

授業科目名　日本文学研究Ⅱ
評価実施日　平成23年7月28日
担当教員名　小島　明子　　回答者数　6　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3	3					4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	3					4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	3	1				4.2
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	1	1				4.5
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2	4					4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	4					4.3
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	4	2					4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	4					4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	4					4.3
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3	3					4.5



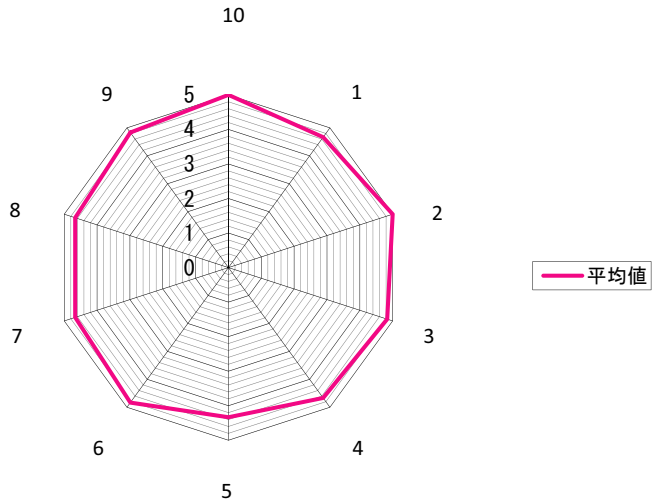
教員のコメント

この4月に着任して、教育系の大学院の授業を初めて担当したため、いささか受講者のレベルとニーズをとらえ切れていなかったという反省がまず挙げられる。それが、「教師の実践力の育成につながる内容であった」という質問項目に特に反映されていたように思われる。授業担当者としては、日本の古典文学研究の最先端の知見を「講義」科目において教授したいという思いがあったが、その点がやや内容的なわかりにくさとなってしまったと推測される。後期は、ほぼ同じ学生が「演習」を受講しているので、今回の反省を踏まえ、中・高校の学校教育現場で生かすことのできる素材による授業展開をしたいと考えている。

結果報告書

授業科目名　日本語教育学研究
評価実施日　平成23年7月26日
担当教員名　小野　由美子　　回答者数　6　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4	2					4.7
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6						5.0
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	1					4.8
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	2					4.7
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	2	4					4.3
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	5	1					4.8
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	4	2					4.7
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4	2					4.7
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	1					4.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6						5.0



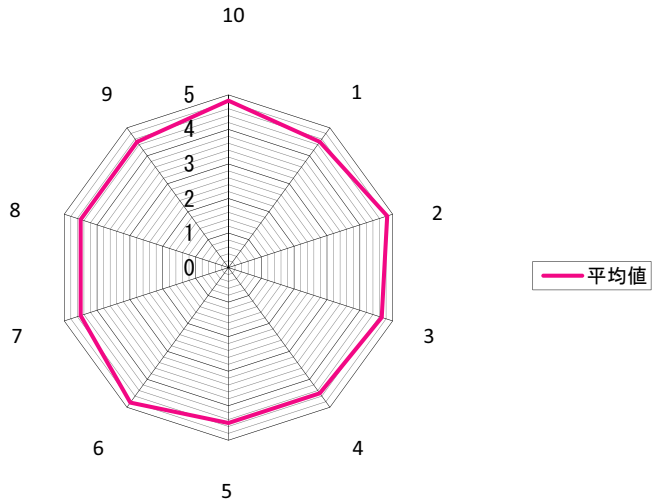
教員のコメント

今後も授業を受けてよかったと思ってもらえるよう、学生の意見も参考に充実した授業内容に取りくみたい。

結果報告書

授業科目名　日本語文法研究
評価実施日　平成23年7月27日
担当教員名　永田　良太　　回答者数　6　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3	3					4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	1					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	2					4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	3					4.5
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3	3					4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	1					4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3	3					4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3	3					4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	3					4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5	1					4.8



教員のコメント

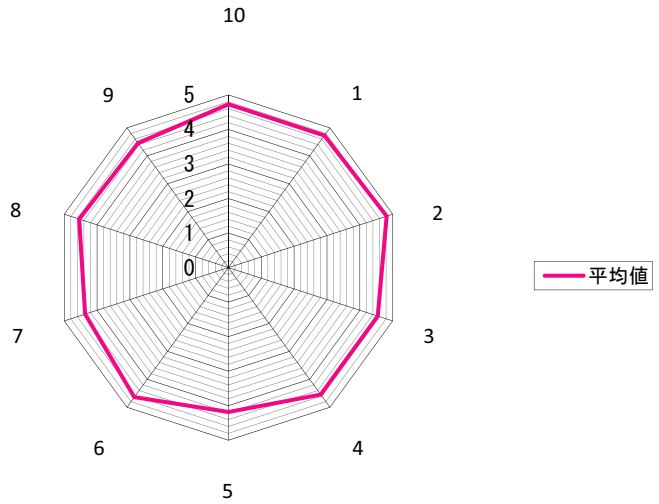
本授業は，日本語の文法規則を意識化するとともに，日本語教師として必要な文法的知識を身につけることを目標とした。本年度の授業では，多様なコースから多様な背景を持つ受講者が得られたことで，日本語の文法を多様な観点から捉えることが出来た。また，日本語教育経験を持つ受講者と日本語学習者（留学生）の参加が得られたことで，日本語の文法を教育の観点から考えることが出来た。評価結果を見ると，受講者自身も概ね達成感を感じていることがわかるが，今後の課題として，項目(5)「授業の進む速さ」を特に挙げておきたい。受講者の属性が多様であるために言語学的な知識にも差が見られる。そのような状況において「適切な速さ」を追求するのは難しい問題であるが，受講者間の学び合いの時間を積極的に設けるなど，この問題の改善に努めたい。

結果報告書

授業科目名　社会言語学演習
評価実施日　平成23年8月29日
担当教員名　ロング　ダニエル

回答者数　11　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	9	1	1				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9	2					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	3	1				4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	7	3	1				4.5
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	5	3	3				4.2
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	8	2	1				4.6
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	5	5	1				4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6	5					4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	4	1				4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	9	1	1				4.7



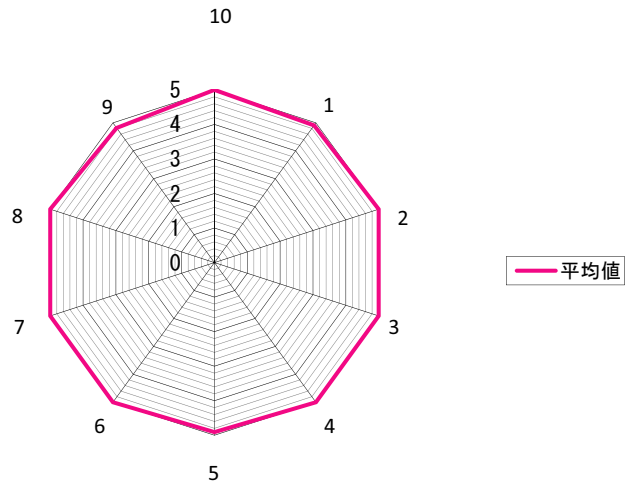
教員のコメント

受講生にご満足していただけたようでよかったです。

結果報告書

授業科目名　言語習得・発達論
評価実施日　平成23年8月6日
担当教員名　迫田　久美子　　回答者数　11　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	10	1					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	11						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	11						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	11						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	10	1					4.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	11						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	11						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	11						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	2					4.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	11						5.0



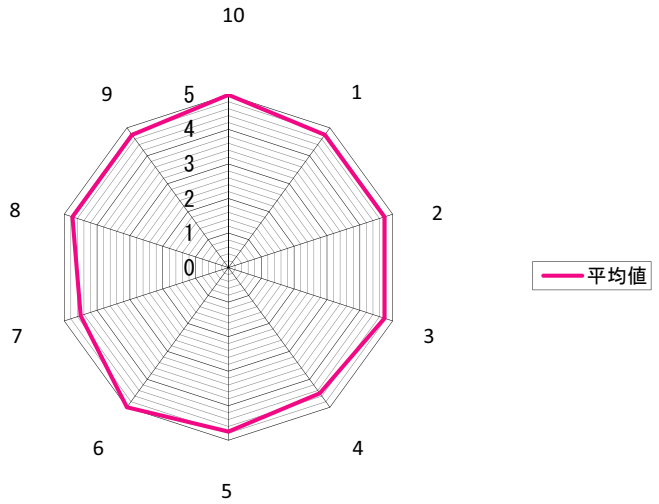
教員のコメント

動機づけの高い意欲的な学生たちに助けられて、私自身も刺激を受けることができ、さらにこのような評価をいただき、恐縮いたします。今後は、学生たちの様子を観察しながら、授業速度は調整したいと思います。予習、復習もきちんとこなし、発表も用意周到に準備されており、レポートも期日内に提出されていて、真摯な勉学態度だったと感心しています。今回の機会を与えてくださった鳴門教育大学、永田先生そして受講してくれた学生たちに感謝いたします。 迫田久美子（広島大学）

結果報告書

授業科目名　日本語音声表現研究
評価実施日　平成23年7月29日
担当教員名　永田　良太　　回答者数　4　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1					4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	2					4.5
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3	1					4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2	2					4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3	1					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1					4.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4						5.0



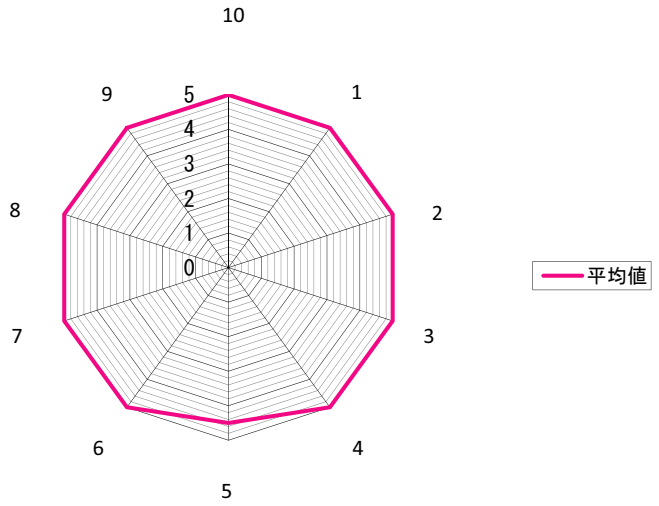
教員のコメント

本授業は，普段無意識に発している日本語の音声を意識化するとともに，日本語教師として必要な音声学的知識を身につけることを目標とした。このような授業目標を達成する上で，留学生の参加を得たことは有意義であった。他の言語と比較することで日本語の音声の特徴を明らかにすることができ，また，日本語学習者としての視点からの発言により，習得上の問題点を確認することができた。このような受講者間の相互作用もあり，本年度の改善点であった「授業内容をどのように実践につなげるか（項目3)」および「授業への主体的な取り組みの促進（項目9)」に関しては概ね改善されていることが評価結果から分かる。今後は「成績評価についての説明の明示化（項目4)」および「配布資料の工夫（項目7)」などといった点に留意することで，授業の更なる改善を図っていきたい。

結果報告書

授業科目名　国語科教育学研究
評価実施日　平成23年8月1日
担当教員名　村井　万里子　　回答者数　2　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	1	1					4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2						5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2						5.0



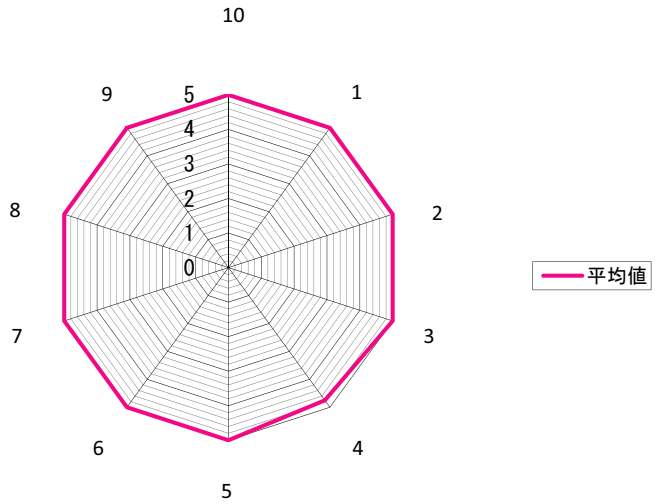
教員のコメント

受講者が2名と少数であったために、活動も入れやすく、対話的にていねいに進めることができた。授業にはTAとして博士課程の院生がつねに参加し、話し合いに加わった。また特に聴講を求める修士課程院生も部分的な参加があった。
理論から具体的な事象までまとまりを持った内容であり、けっして易しくはなかったが、受講者はよく自分なりに考え理解を深めようとする姿勢が顕著に見られた。

結果報告書

授業科目名　国語科授業研究
評価実施日　平成23年7月28日
担当教員名　幾田　伸司　　回答者数　4　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	1					4.8
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	4						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4						5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4						5.0



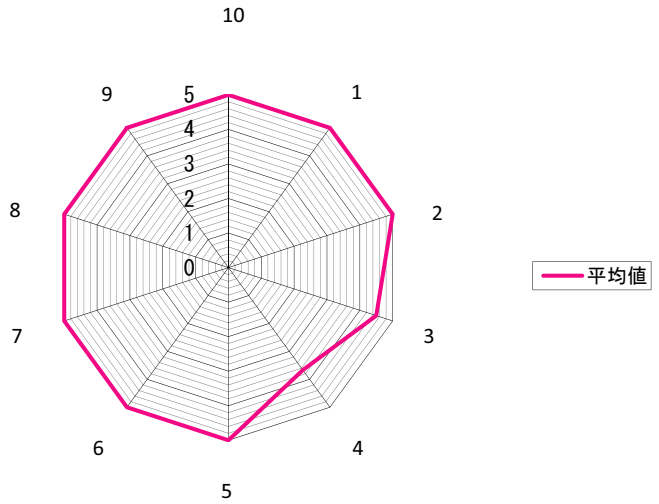
教員のコメント

非常に高い評価をしていただきました。今年度の受講者は非常に少なかったこともあり、受講者それぞれが常に主体的・積極的に発言し、意見交流を図ることができました。そうした要素が、授業自体に対する満足度を高めたものと考えます。授業では、今年度も教材研究演習、PISAなどの問題分析、授業分析を扱いました。こうした内容も、受講者の問題意識と重なっていて、肯定的に評価されたものと思われます。次年度以降も、自らの教材研究や課題分析の質をより深めるといったことを通して、この評価を継続できるように努力していきたいと考えます。

結果報告書

授業科目名　国語科教材開発研究
評価実施日　平成23年7月25日
担当教員名　余郷　裕次　　回答者数　4　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3		1				4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1	1		1		1	3.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	4						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4						5.0

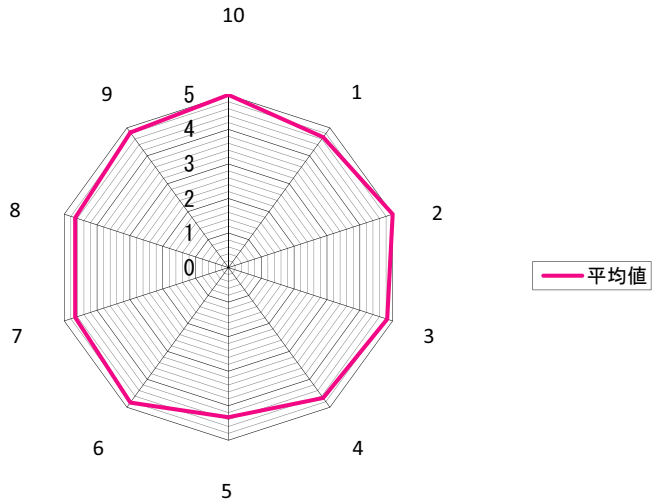


教員のコメント

結果報告書

授業科目名　日本語教育法研究
評価実施日　平成23年7月26日
担当教員名　小野　由美子　　回答者数　6　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4	2					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	1					4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	2					4.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2	4					4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	1					4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	4	2					4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4	2					4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	1					4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6						5.0



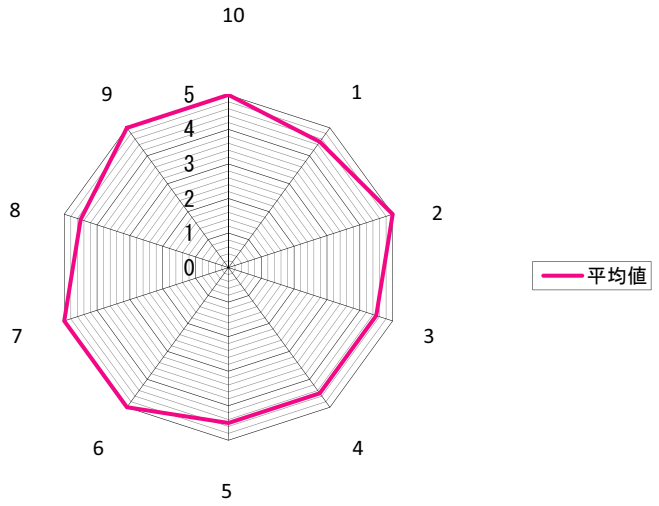
教員のコメント

今後も授業を受けてよかったと思ってもらえるよう、学生の意見も参考に充実した授業内容に取りくみたい。

結果報告書

授業科目名　言語教育基礎論Ⅱ
評価実施日　平成23年7月28日
担当教員名　藪下　克彦，眞野　美穂　　回答者数　2　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1	1					4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	1					4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1	1					4.5
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	1	1					4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1	1					4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2						5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2						5.0

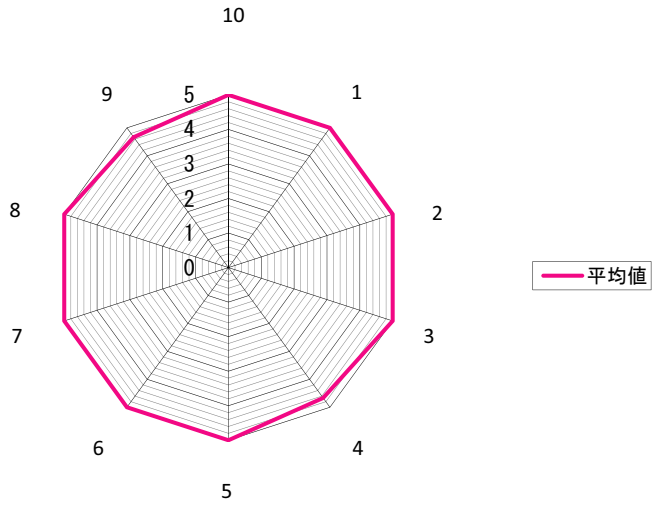


教員のコメント

結果報告書

授業科目名　英語学研究Ⅰ（英文法理論）
評価実施日　平成23年7月27日
担当教員名　藪下　克彦　　回答者数　3　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3						5.0
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	3						5.0
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	1					4.7
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	3						5.0
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	3						5.0
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	3						5.0
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3						5.0
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1					4.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3						5.0

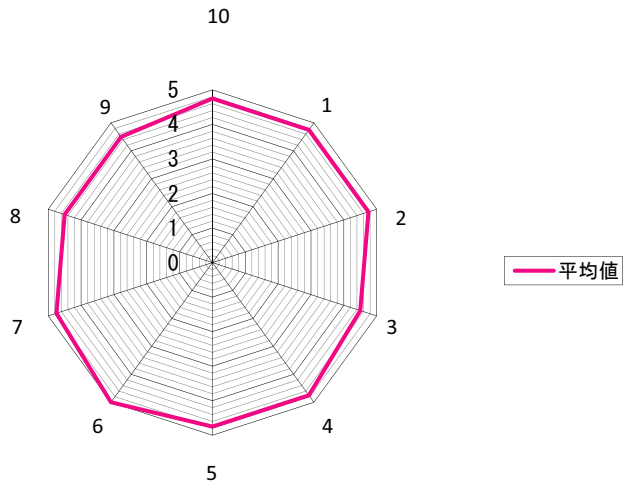


教員のコメント

結果報告書

授業科目名　英語学研究Ⅱ（言語表現）
評価実施日　平成23年7月21日
担当教員名　眞野　美穂　　回答者数　4　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3	1					4.8
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1					4.8
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	2					4.5
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	1					4.8
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	3	1					4.8
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	4						5.0
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	3	1					4.8
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3		1				4.5
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	2					4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3	1					4.8



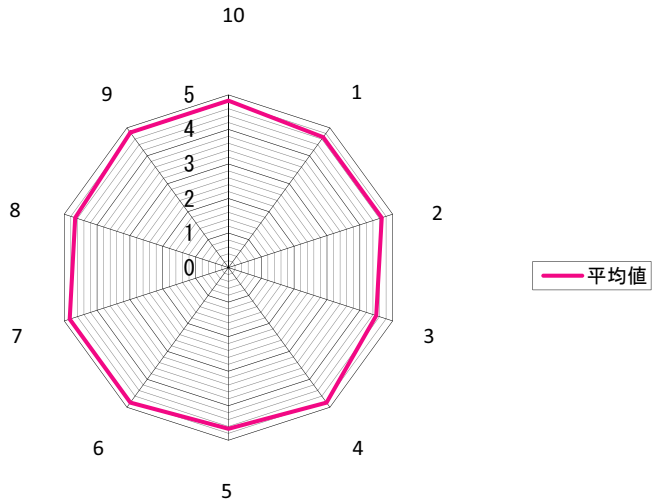
教員のコメント

論文を中心に扱ったこと、受講生は言語学が専門ではない学生が中心だったことから、基本的なことから説明していくことを心がけた。授業評価からはその点が評価され、出席者の理解度や達成感が感じられたため、安心することができた。意見交換や議論を積極的に行ったことも評価に結び付いたと考えられる。昨年度よりも英語論文の割合を増やしたことはプラスに働いたようである。今後も、より授業内容の改善に努めたい。

結果報告書

授業科目名　英米文化研究Ⅰ（文化史）
評価実施日　平成23年7月25日
担当教員名　杉浦　裕子　　回答者数　6　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5		1				4.7
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5		1				4.7
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	1	1				4.5
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	1					4.8
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	4	2					4.7
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	5	1					4.8
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	5	1					4.8
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4	2					4.7
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	1					4.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5	1					4.8



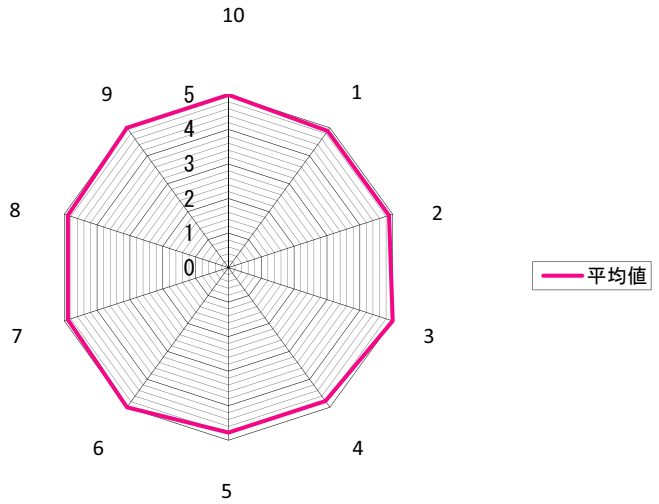
教員のコメント

今年度は、一つの劇の講読ではなく、幅広くシェイクスピア劇を知ってもらうという形の講義にしたが、それでも深い専門的知見は得られるような準備と工夫を行ったことが、このような高評価につながったと思う。今後もこの形でやっていきたい。

結果報告書

授業科目名　英語科教育特論Ⅰ
評価実施日　平成23年8月5日
担当教員名　伊東　治己　　回答者数　9　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	8	1					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	1					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	9						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	7	2					4.8
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	7	2					4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	9						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	8	1					4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	8	1					4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9						5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	9						5.0



教員のコメント

本授業の目的は，社会の国際化・情報化が急速に進展していく中で、学校での英語教育においても国際社会で通用する実践的コミュニケーション能力の基盤作りが重要な課題となっているという現状認識に立脚し、小・中・高を問わず教室内において英語コミュニケーションを誘発し、英語コミュニケーションに対する積極的態度を育んでいくための方略について、実習形式を交えて多角的に検討していくことであった。受講生からの評価値（総合評価が5.0）や自由記述の形で寄せられたコメントから判断する限り，当初の目的は概ね達成できたと思われる。その中でも特に，授業の2本柱のうちのひとつであるコミュニケーション活動を取り入れた模擬授業（マイクロティーチング）に対して

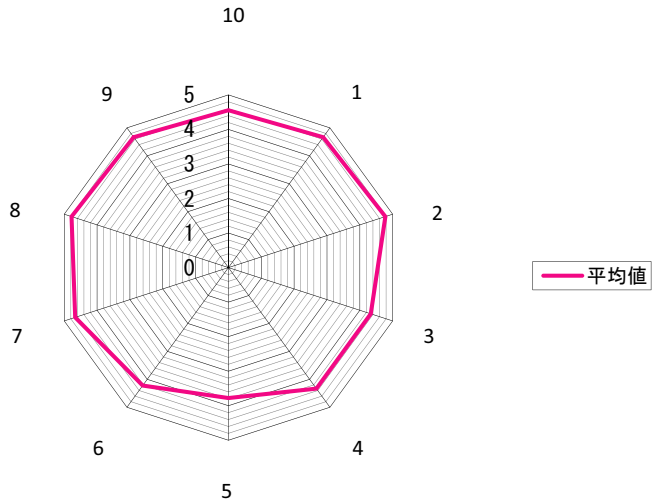
・マイクロティーチングがあって，私に非常に助かりました。今までに授業をしたことがないからです。
・論文読解をし，理論学習をすると同時に，マイクロティーチングで実践面も訓練できた。
・英語教育の理論がとても分かり易く説明された。マイクロティーチングを通して，実践上の留意点，疑問点などもいろいろ具体的に説明がされた。
・The microteaching was invaluable experience to me about EFL teraching in Japan which is quite different from my country and about the
relation / the application of theory into practice, especially in terms of material designs, teaching techniques, and classroom management.

など，好意的評価を得ることができ，実践力の育成する上での模擬授業の有効性を再認識することができた。今後も、模擬授業を核としながら理論と実践を融合させた授業改善に取り組んでいきたい。

結果報告書

授業科目名　英語科教育特論Ⅱ
評価実施日　平成23年7月25日
担当教員名　山森　直人　　回答者数　9　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	6	3					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	2					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	3		1			4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	2	2				4.3
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4	1	3		1		3.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	2	1	1			4.2
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	6	3					4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	7	2					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	3					4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5	4					4.6



教員のコメント

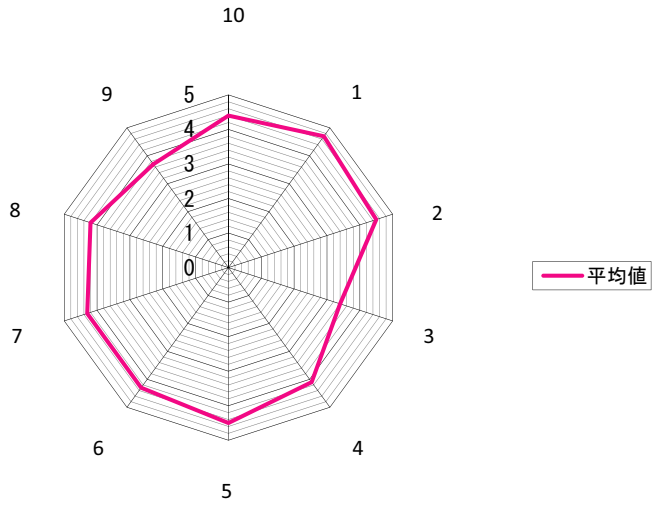
総合評価が4.6であったことを考えると授業全体としてはよかったのではないかと考える。しかし，項目によっては4点台を下っているもの（項目5）や，受講生間の評価にばらつきがみられるもの（項目3，5，6）がある。特に項目5（授業の進む速さは，適切であった）と項目6（受講生に分かりやすく説明した）に関連する学生の自由記述に「丁寧だけど冗長」という意見がみられた。授業の分かりやすさと進度はときに相反する概念であるが，両者のバランスを検討する必要がある。また，教育研究と教育実践との関係を扱った授業ではあるが，項目3（教師の実践力の育成につながる内容であった）について多少評価がばらついた。授業者としては「教師の実践力」との関連を意識して授業を進めたつもりであったが，十分でない部分があるのかもしれない。この点についても今後検討していきたい。

以上の点をいかに改善していくかが今後の課題である。

結果報告書

授業科目名　歴史学研究Ⅱ
評価実施日　平成23年7月28日
担当教員名　町田　哲　　回答者数　10　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	7	3					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	3	1				4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	2	2	2	1		3.4
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	3	3				4.1
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	6	3	1				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6	2	1	1			4.3
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3	7					4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4	4	2				4.2
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	5	4				3.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5	4	1				4.4



教員のコメント

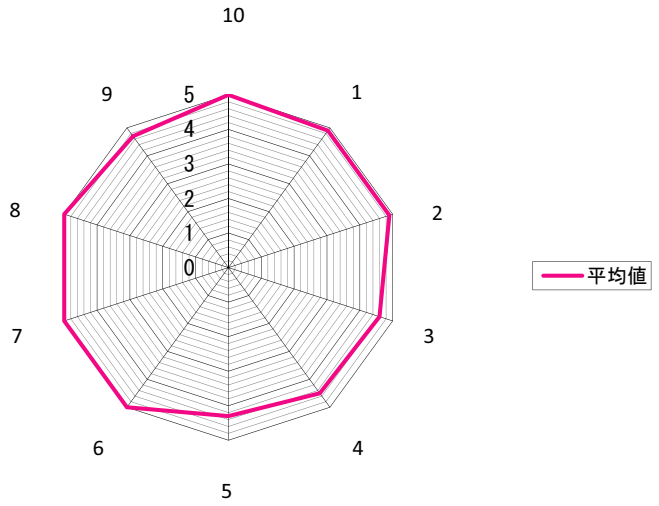
この講義では、日本近世の社会の特徴について、多角的に捉えることのできる力量の獲得を目標としている。具体的には、今年度は近世の山村の特徴と展開について、論文を読み進めながら検討した。院生は、担当する論文を読み込みながら、藩権力による山村支配、山村の社会構造、山村からの産物流通に関わる人びとの姿を、具体的に理解し、またそこから歴史学の方法を習得しようと努力した。教員側も、研究史・論点提示・歴史像理解という一連の動きを、示すことができたと考える。

その点が上記のような概ね好評を得ることができた点に反映したものと考える。唯一低い3「実践力の育成」については、実践力を、即席の力量あるいは教材確保とみるのであれば、当然低い評価となるだろう。しかし実践力に至るための、歴史的思考力、あるいは歴史的現在における歴史学のあり方を問う点でいえば、十分その期待に応える内容になっていたと考える。なお、今後は、学生がより主体的に取り組めるよう、改善をしていきたい。

結果報告書

授業科目名　歴史学研究Ⅲ
評価実施日　平成23年7月29日
担当教員名　原田　昌博　　回答者数　10　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	9	1					4.9
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9	1					4.9
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	2	1				4.6
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	5					4.5
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	5	3	2				4.3
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	10						5.0
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	10						5.0
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	10						5.0
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	3					4.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	10						5.0



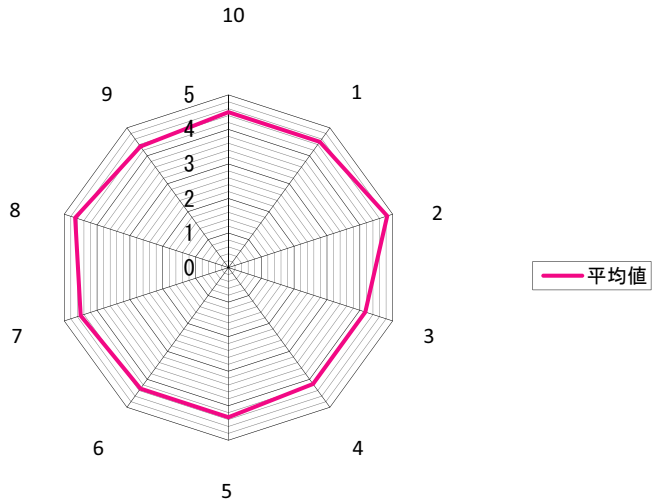
教員のコメント

本授業はナチズムを事例に、新旧高等学校教科書の記述内容を比較しその変化の背景を歴史学上の研究史に基づいて検討することで、歴史学における「見解・解釈の変化」を明らかにすることを目的としている。全体的に見て、各質問項目とも「5」の評価が最も多く、この点から、授業担当者として概ね本講義の目標を達成できたのではないかと考えている。とりわけ、回答した10名中、質問6、7、8では全員、質問1、2では9名が「5」と評価しており、授業の計画性、専門性、教員の説明の分かりやすさ、資料・板書・視聴覚教材の適切さについてはとりわけ満足度が高い。この他の質問でも大半の学生が「5」ないし「4」と評価している。さらに、質問10で全員が「5」と評価している点からも、学生は本授業に満足していたと結論づけることができるだろう。

結果報告書

授業科目名　地理学研究Ⅰ
評価実施日　平成23年7月28日
担当教員名　木原　克司　　回答者数　6　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3	3					4.5
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	1					4.8
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	3	1				4.2
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	3	1				4.2
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	2	4					4.3
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	2	4					4.3
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	3	3					4.5
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4	2					4.7
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	4					4.3
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3	3					4.5



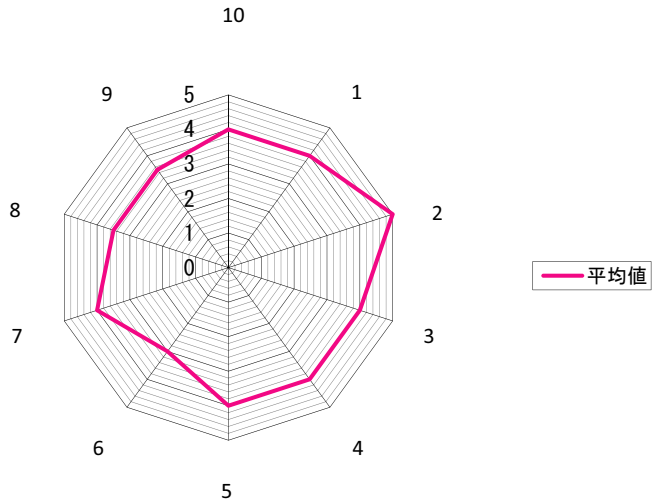
教員のコメント

すべての質問項目で4.2以上の評価を得、さらに総合評価も4.5と高い評価を得たことからも、満足し得る授業であったと考えている。授業終了後の９月に例年通り、授業内容の理解をさらに深められるように現地巡検を実施した。巡検は学生たちからも好評であったことから、巡検終了後に授業評価を実施すれば、さらに高い評価が得られたと思う。

結果報告書

授業科目名　地理学演習Ⅰ
評価実施日　平成23年7月20日
担当教員名　木原　克司　　回答者数　2　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。		2					4.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。		2					4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1		1				4.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。		2					4.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。		1		1			3.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。		2					4.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。		1	1				3.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。		1	1				3.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。		2					4.0



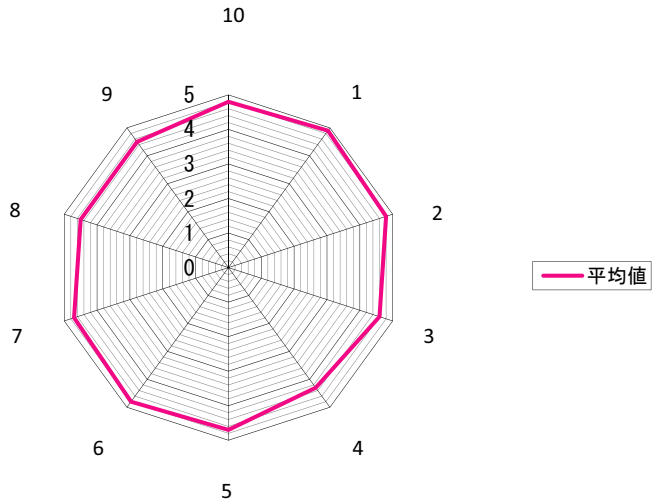
教員のコメント

当該演習は、学生の修士論文作成に向けての自主的発表を中心としたものである。2名の受講生は、地理学ではなく社会学専攻の学生であり、学生自身に修士論文に対する認識が十分でなく、しかも勉強不足が顕著に認められた。総合評価は4.0とまずまずの値であるが、全体としては評価は低いように思える。その原因として上記のような理由が考えられる。

結果報告書

授業科目名　法学・政治学研究
評価実施日　平成23年8月1日
担当教員名　麻生　多聞　　回答者数　10　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	9	1					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	2					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	4					4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	6	1	3				4.3
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	8	1	1				4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	9		1				4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	8	1	1				4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6	3	1				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	3	1				4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	8	2					4.8



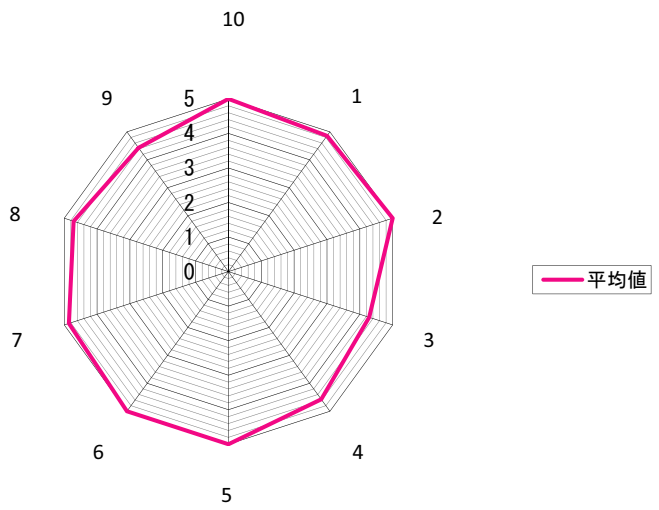
教員のコメント

今期も例年通りに読み応えのある文献を講読するという内容にしたが、予習の段階で文献の内容が難解であり、その結果講義にコミットしきれない学生がいたように思われる。大学院における文献講読、それに基づく討議と研究という本講義のあり方について、自省を促されることとなった。その結果、後期に実施される法学・政治学演習も含めて、来期の本講義においては、もう少し読みやすい内容の文献を設定することとしたい。

結果報告書

授業科目名　公民系文献研究
評価実施日　平成23年7月29日
担当教員名　齋木　哲郎，山本　準，青葉　暢子，麻生　多聞　　回答者数　7　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	6	1					4.9
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7						5.0
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	3	1				4.3
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	3					4.6
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	7						5.0
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	7						5.0
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	6	1					4.9
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5	2					4.7
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	4					4.4
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	7						5.0



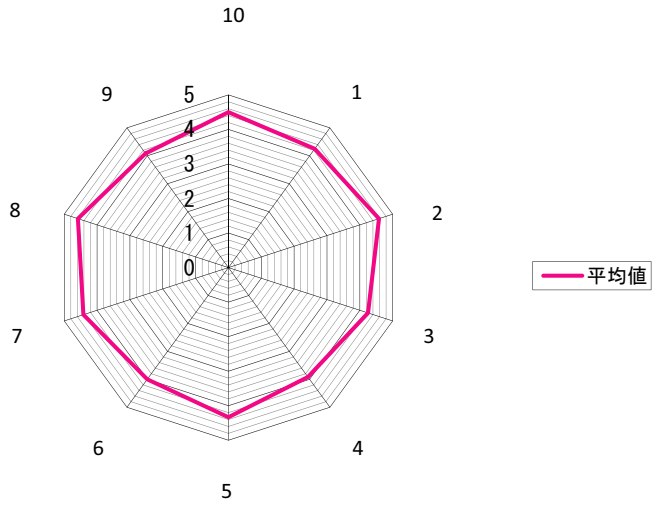
教員のコメント

今期は、反戦・平和運動の展開と、そこに見られた女性の政治的主体性について研究する内容の文献を講読した。読み応えのある内容の文献であったが、受講者の皆さんは主体的に予習に取り組み、テーマについて十分な理解と問題意識を得てくれたように思われる。担当教員として、とてもやりがいある講義であった。感謝申し上げたい。

結果報告書

授業科目名　社会科教育学研究
評価実施日　平成23年8月1日
担当教員名　伊藤　直之　　回答者数　12　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3	9					4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9	2		1			4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	5			1		4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	5	4				3.9
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	5	6	1				4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	7	1	1			4.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	6	5	1				4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	7	5					4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	5	3				4.1
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6	6					4.5



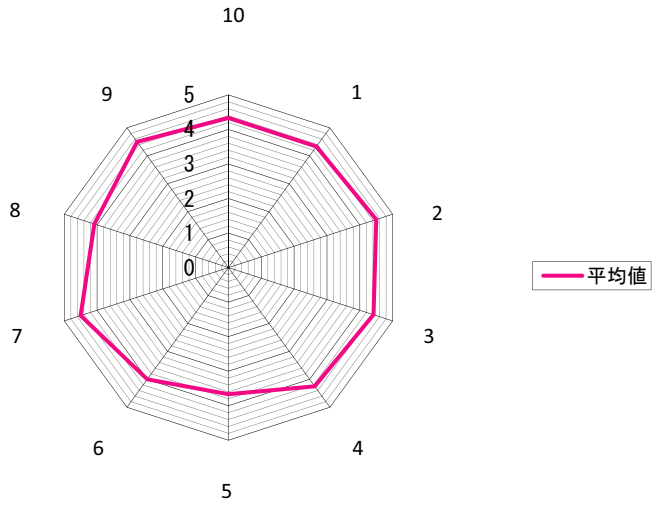
教員のコメント

学生の評価結果から，昨年度に引き続き，成績評価の方法を説明することに課題があることが明らかとなった。
この点については，他の教員にアドバイスをもらって，さらなる改善に努めたい。
また，昨年度の課題の一つであった説明のわかりやすさについては，いくぶん改善された。社会科教育の基礎を知らない院生の増加，他コースからの受講生増加という状況を鑑みて，専門的な用語・概念については用語集を配布するようにした。
何人かの学生から，映像視聴の環境（画質・音声）について改善を望む意見があった。教室配置のディスプレイは教室面積の割には小さく，プロジェクターによる投影では，日差しの影響（前期5限）で見づらいときがある。使用教室の変更も検討したい。

結果報告書

授業科目名　社会科教材開発演習Ⅱ（歴史領域）
評価実施日　平成23年8月4日
担当教員名　梅津　正美　　回答者数　12　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	6	4	2				4.3
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9	2			1		4.5
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	3			1		4.4
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	6	3	3				4.3
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	4	3	3	1	1		3.7
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	4	6		2			4.0
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	8	3		1			4.5
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5	4	2	1			4.1
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	6					4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	7	4			1		4.3



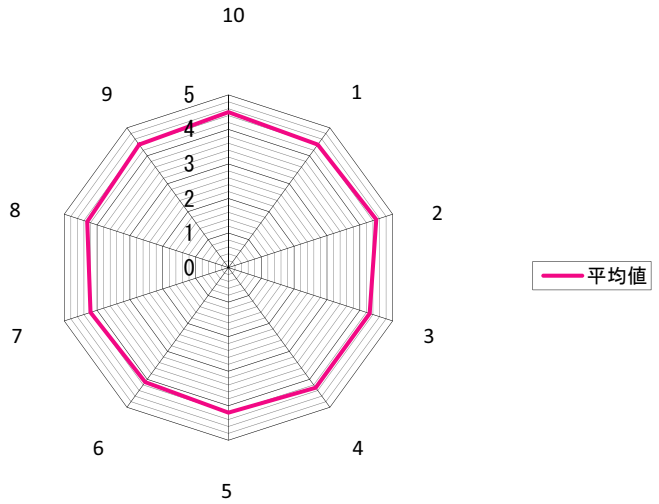
教員のコメント

本講義は、受講学生の歴史授業研究能力、特に授業の事実を分析し評価し、改善案を提案できる能力の育成を目標に展開した。受講生は全部で13名であった。上記の目標を達成するために、教員は社会科教育学研究としての授業研究方法論を、実践の事実にそくして講じた。受講生は、その方法論を活用して、授業論と実践の性格を異にする複数の歴史授業研究例（仮説を組み込んだ授業計画書と実践）を分析し評価を加え、グループごとに発表した。そして、教員と受講生がともにそれぞれの理論と実践の特質・限界・類型について討議した。受講生による授業評価の全体平均点は、4.3であった。本授業の目的と結んで、特に重要な評価項目である評価項目（2）（3）については、それぞれ4.5と4.4であった。例年とほぼ同じシラバスにより授業を展開したが、今年度の評価については、総合評価の平均値がやや低くなったことと、これまでに無かった「1」や「2」に評価された項目が生じたことを真摯に受けとめたい。受講生の意見・要望をふまえながら、教育内容の水準を落とすことなく、学生の理解が深まるよう授業の改善に務めたい。

結果報告書

授業科目名　代数学研究
評価実施日　平成23年7月28日
担当教員名　平野　康之　　回答者数　10　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	6	2	2				4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	1	2				4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	3	2				4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	6	2	1	1			4.3
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	5	3	1	1			4.2
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	2	2	1			4.1
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	5	3	1	1			4.2
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5	3	2				4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	2	2				4.4
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	7	1	2				4.5



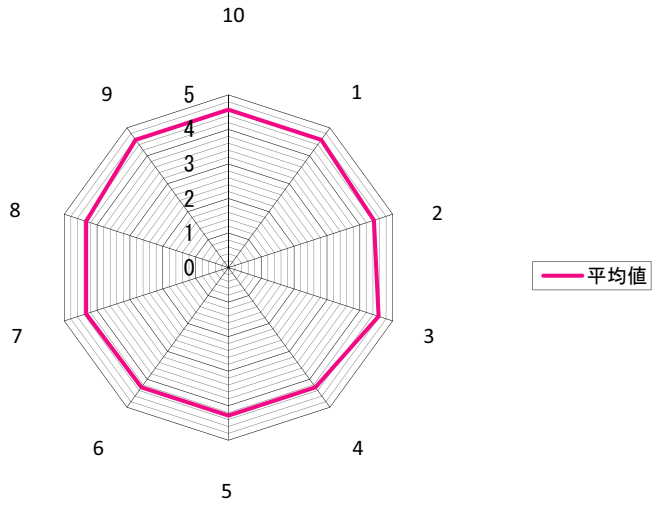
教員のコメント

すべての平均値が4.1～4.5の範囲にあり，「(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった」という問いに対して評価の平均値が4.5であり，「(6)受講生に分かりやすく説明した」に対する評価も平均値4.1であったので，この授業が受講者の要望にかなり近いものであったと思われる。学生が授業によく出席し，教員の説明をよく聞いてくれて，自らの専門性を高めてくれたことに対しては感謝したい。「(4)成績評価の方法の説明は，適切であった」という問いに対しても平均値4.3であり，「(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う」という問いの平均値が4.5であったので受講者が概ね，この授業に満足しているものと思われる。

結果報告書

授業科目名　代数学演習
評価実施日　平成23年7月28日
担当教員名　平野　康之　　回答者数　7　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5	1	1				4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	2	1				4.4
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	1	1				4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	3	1				4.3
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3	3	1				4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	3	1				4.3
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3	2	1			1	4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3	2	1			1	4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	1	1				4.6
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5	1	1				4.6



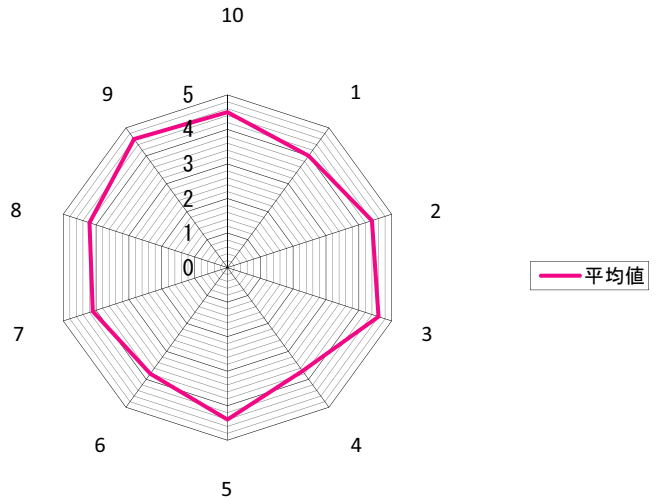
教員のコメント

すべての平均値が4.3～4.6の範囲にあり，「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった」という問いに対して評価の平均値が4.6であり，「(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ」に対する評価も平均値4.6であったので，この授業を学生主体のものにしたことが評価されたと考える。学生が授業によく出席し，教員の説明をよく聞いてくれて，自ら教師の実践力を高めてくれたことに対しては感謝したい。「(4)成績評価の方法の説明は，適切であった」という問いに対しても平均値4.3であり，「(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う」という問いの平均値が4.6であったので受講者が概ね，この授業に満足しているものと思われる。

結果報告書

授業科目名　数学科教育学研究
評価実施日　平成23年7月25日
担当教員名　佐伯　昭彦　　回答者数　10　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3	4	3				4.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	4	1				4.4
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	4					4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	3	3		1		3.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	5	4	1				4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	2	5				3.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	5	1	4				4.1
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5	2	3				4.2
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	4					4.6
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5	5					4.5



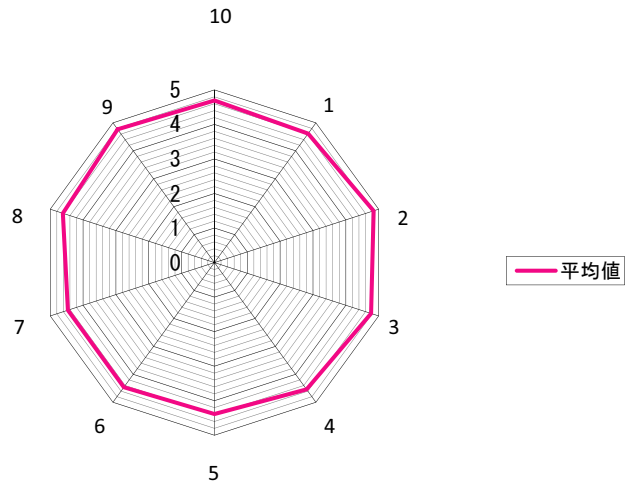
教員のコメント

2項目を除いて「4」以上，総合評価では「4．5」という高評価を得ることができた．これは，全国学力・学習状況調査の集計結果から見られる我が国の課題を取り上げたことに対して，学生たちが興味・関心を持って取り組んでくれたことと，授業は学生主体による活動をもとに自由に議論できたことが大きな要因であったと考える．なお，4以下の2項目に関しては，学期内に授業方法や評価方法を若干変更したことに対して，その主旨が学生たちに十分に伝わらなかったことが大きな要因だと思われる．

結果報告書

授業科目名　数学科教材開発研究
評価実施日　平成23年7月29日
担当教員名　秋田　美代　　回答者数　13　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	9	3	1				4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	11	2					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	10	3					4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	7	6					4.5
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	7	4	2				4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	7	5	1				4.5
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	7	5	1				4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	8	5					4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10	3					4.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	9	4					4.7



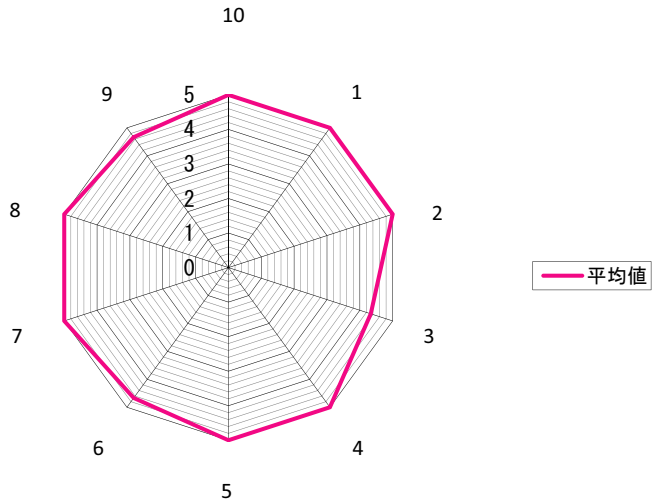
教員のコメント

この授業では，数学教育において指導目標を達成するための教材の活用法・開発方法について概説し，生徒の思考力や創造性を育成するための，教材の構造について理論と方法を考察した。この授業に対する受講者の評価平均値は4.7であった。評価平均値が高かった項目は「専門的知識を深めるのに役立つ内容であった」「教師の実践力の育成につながる内容であった」「授業に主体的・積極的に取り組んだ」等であった。評価平均値が低かった項目は「授業の進む速さは，適切であった」「成績教科の方法の説明は，適切であった」「受講生に分かりやすく説明した」「教科書や配布された資料は，適切であった」であった。記述では「新たな視点で教材について考えることができた」「理論的な部分と具体的な部分がミックスされていて興味深く学べた」「意見交換で他の人の意見や発表を聞けてよかった」との内容が記載されていた。授業の内容については，昨年度に考える時間や学生同士で議論する時間がもう少し長い方がよいという履修者がいたことから，本年度は各自の発表・意見交換の時間を多くしたが，議論によって新しい知識を創造するところまでは深められなかった。次年度は，議論の内容を深めるための工夫を行うことが課題である。

結果報告書

授業科目名　エネルギー・物質と環境特論
評価実施日　平成23年7月25日
担当教員名　粟田　高明　　回答者数　3　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	2					4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	1					4.7
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1					4.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3						5.0



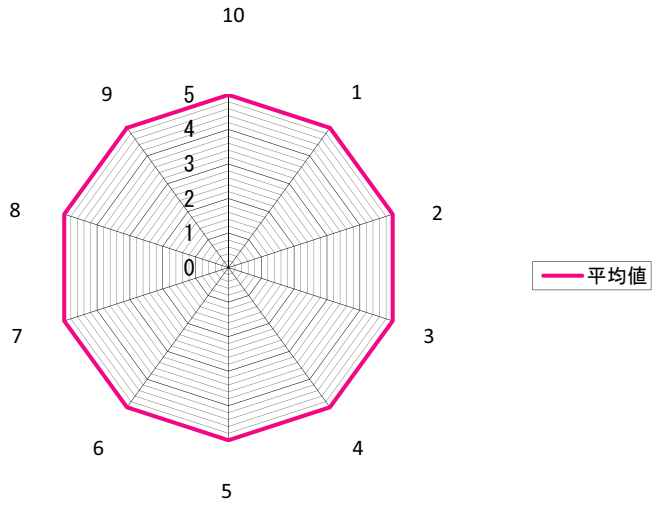
教員のコメント

この授業科目はエネルギーを中心に，発電様式の割合が増加している原子力エネルギー等について，その原理から実情まで具体的な例を挙げて講義するものである。受講者は少なかったが（当日1名欠席），アンケートはおおむね良い結果であり，次回以降の講義でも内容を更新しつつ現状を踏襲したい。受講生は実験や観察を取り入れると，内容と関連づけて頭の中で整理するようなので，可能な限り講義中に取り入れる予定である。

結果報告書

授業科目名　物性物理学特論
評価実施日　平成23年7月27日
担当教員名　本田　亮　　回答者数　1　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	1						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	1						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1						5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1						5.0



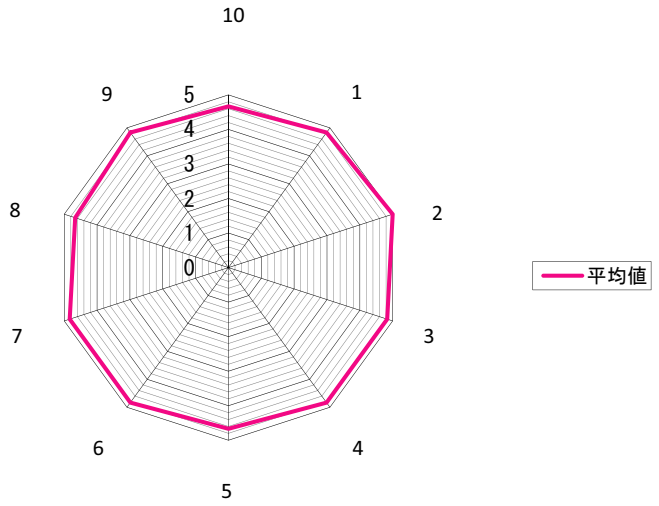
教員のコメント

受講生が一人であったため，受講生のニーズと担当教員のそれとをすりあわせた講義内容と方法によって授業を行うことができた．受講者は物理に関する知識の習得に意欲があり，それが理科を教えるうえで基礎となると理解していた．また，毎週の予習を欠かさず疑問点を明確にして講義に臨んでいた．このような学生ばかりであってほしいものである．受講者一人のアンケート集計については，コメントするものはない．

結果報告書

授業科目名　環境化学特論
評価実施日　平成23年7月26日
担当教員名　早藤　幸隆，今倉　康宏　　回答者数　6　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5	1					4.8
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6						5.0
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	1					4.8
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	1					4.8
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	4	2					4.7
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	5	1					4.8
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	5	1					4.8
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4	2					4.7
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	1					4.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4	2					4.7



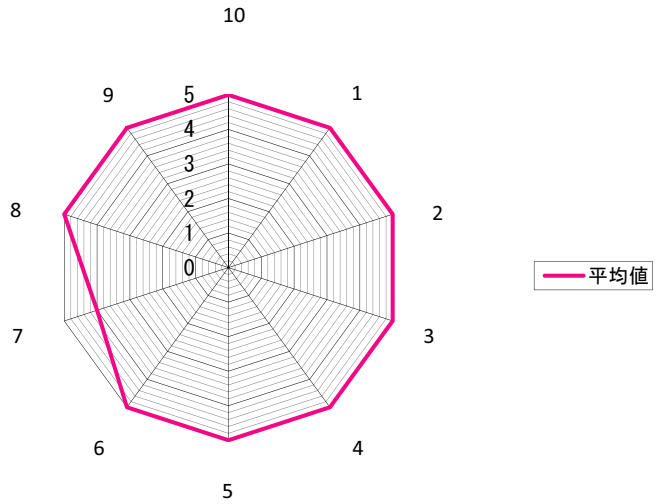
教員のコメント

全体的に受講者から好意的な評価を受けており，質問項目（1）の結果より本講義における目標と目的は達成出来たと考えられる。環境化学の基礎・基本的な内容を重視した講義の構成と展開により，質問項目（2）が高く評価されると共に，教育実践的な環境教育の内容に関する詳細な解説と説明により，質問項目（3）および（6）が評価されたと思われる。講義はパワーポイントの提示により説明を進め，単元の終わりにパワーポイントの提示内容を資料として配付する事にし，内容をノートに記述する事を課した。質問項目（10）より講義に関して高評価が得られた事から，来年度以降も講義内容や現代の自然環境に即した形式などに改良を加えながら継続して進めて行きたい。

結果報告書

授業科目名　分子生物学特論
評価実施日　平成23年9月29日
担当教員名　松尾　義則　　回答者数　1　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	1						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。		1					4.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1						5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1						5.0



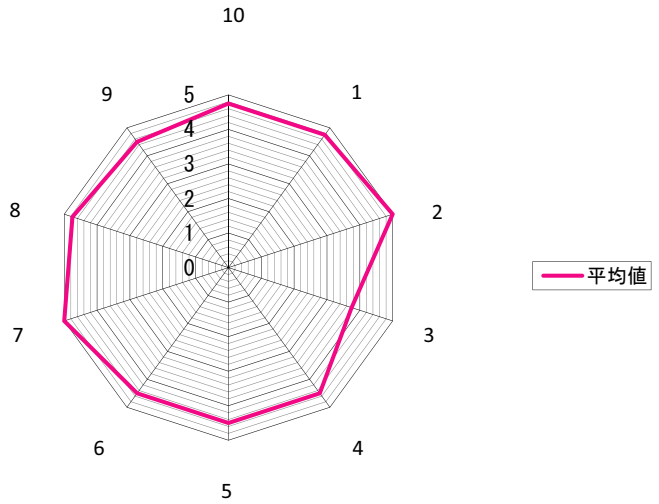
教員のコメント

少人数の授業だったのでデータの値をそのまま受け取ることはできない。分野外の学生が多く受講している場合にどれだけ大学院レベルの内容を維持して授業できるか難しい問題があるが、今回の受講生はできるだけ理解しようと努力して受講しており、積極性が感じられた。そのような態度で臨んで貰えれば、習得したものを今後に生かしてもらえると思われる。多少心配なのは、受講生が少なくなっていること。学年によって、また学生の興味によって人数は変動するのは理解しているが、関連する分野で発展の目覚しい分子生物学の知識が重要になってきており、新しい学習指導要領に対応していくにも必要性が増してきている状況である。大学院生の数自体が減少しているのであれば別の問題だが、大学院生の積極的な取り組みを期待するものである。

結果報告書

授業科目名　進化生物学特論
評価実施日　平成23年7月28日
担当教員名　工藤　慎一　　回答者数　4　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	1	2				3.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	2					4.5
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2	2					4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	2					4.5
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	4						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3	1					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	2					4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3	1					4.8



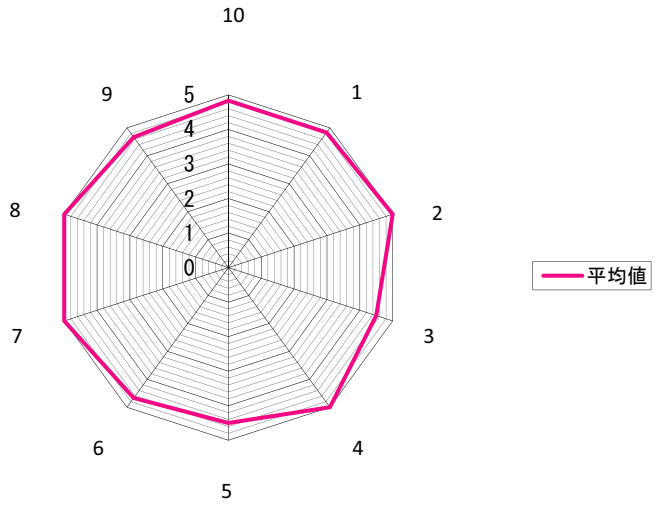
教員のコメント

例年通りの講義内容・方法であり，特に改善すべき点は無いと考える。

結果報告書

授業科目名　宇宙科学特論
評価実施日　平成23年7月25日
担当教員名　西村　宏　　回答者数　6　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	1	1				4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	6						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4	1	1				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	2					4.7
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	6						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	2					4.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5	1					4.8



教員のコメント

本講義は要単位修得者とともに単位修得不要者も含めた院生全員に開放した授業としている。従って，この統計に入れた6人のうち前者に相当する院生は3人，後者に相当する院生は3人となっている。総合評価は4.8で十分に所期の目的を果たし得たものと考えられる。各項目については，9項目中4項目が5.0であり受講者全員が有用であったまたは適切であったことを認める結果につながった。

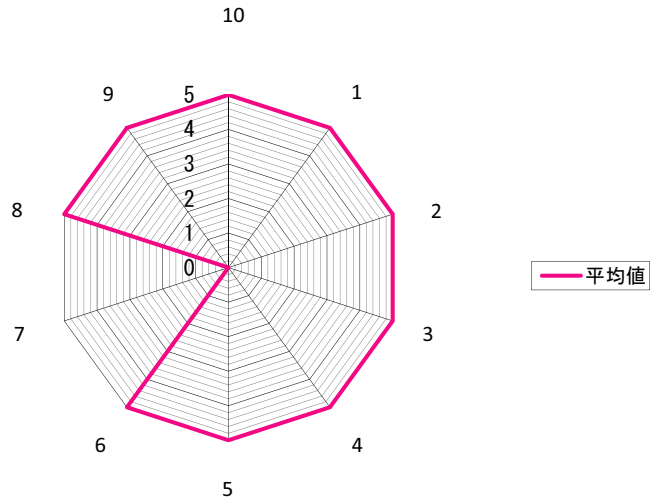
最低評価である4.5となった「(3)教師の実践力育成につながる内容か」については，科目分類が「専門科目」であるが故の宿命のようなもので，初等中等教育現場に即物的に利用可能な授業のノウハウを講義する教科教育法など実践的内容とは異なる授業構成であることからくる当然の帰結であろう。さらにもう1項目4.5を示している「(5)授業の進む速さは適切であった」かについては，教員養成系大学に入学してくる院生自身の「宇宙科学」専門内容に対する理解度を見ながら授業を進めたことにより，基礎的部分に関する解説に十分な時間を割き，応用に相当する部分については粗雑ともいえるほどにスピードアップせざるを得なかったことに由来していると思われる。

ただ，本授業は大学院授業であり，学部授業とは当然のことながら趣を異にしているのは当然であり，理解不十分と自己判断した院生に対しては，シラバスにも記したようにいわゆる「オフィスアワー」も設け，できる限り嘱託講師としての義務的時間帯以外にも，任意の時間帯（例えば授業終了後の次時限）での質問に対応したり，ノルマのない曜日でも予約さえあれば対応できることとし，授業開始時のオリエンテーションでこの件も説明して，受講者自身に便宜を図った。いわば前期全期間で本授業に対して門戸を開放し，院生らしい自律的勉学を支持してきたことの裏返しであるともいえる。

結果報告書

授業科目名　地球科学特論Ⅰ
評価実施日　平成23年7月28日
担当教員名　〇村田　守，香西　武　　回答者数　3　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3						5.0
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	3						5.0
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	3						5.0
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	3						5.0
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	3						5.0
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。							
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3						5.0
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3						5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3						5.0



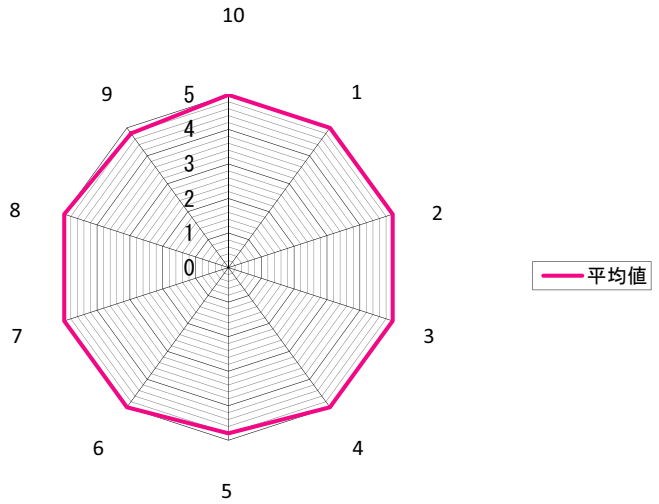
教員のコメント

被教育レベルの異なる現職教員，長期履修学生，外国人留学生各1名の計3名に対して，講義を行った。以下の個別筆記があり，講義内容は満足しているようである。個別筆記内容：授業内容がとても分かりやすかった。地学分野は苦手であったが，岩石の出来方や地層のこと，地球内部の事が詳しく理解できた。教え方が良かった。実験があり，楽しく学習できました。地震が起きたとき，家具をどうおいたら倒れやすいかが分かり，為になった。」

結果報告書

授業科目名　地質学・古生物学特論
評価実施日　平成23年7月20日
担当教員名　香西　武，村田　守，小澤　大成　　回答者数　5　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4	1					4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	5						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1					4.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5						5.0



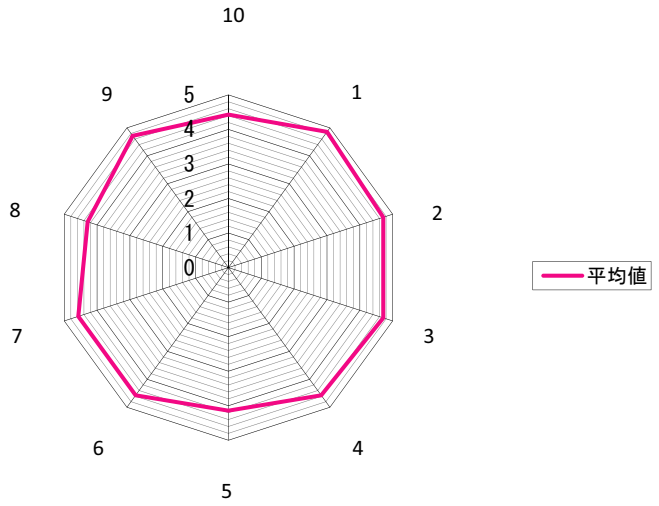
教員のコメント

受講生が少なく，それぞれのニーズにあった学習内容が提供できる環境が整っているため，受講生にはおおむね満足できる授業となったようである。今後も，このような姿勢で授業を担当するつもりである。

結果報告書

授業科目名　音楽劇総合演習
評価実施日　平成23年7月26日
担当教員名　草下　實　　回答者数　7　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	6	1					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	2					4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	2					4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	1	1				4.6
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4	1	1	1			4.1
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	3					4.6
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	4	3					4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4	1	2				4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6		1				4.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5	1		1			4.4



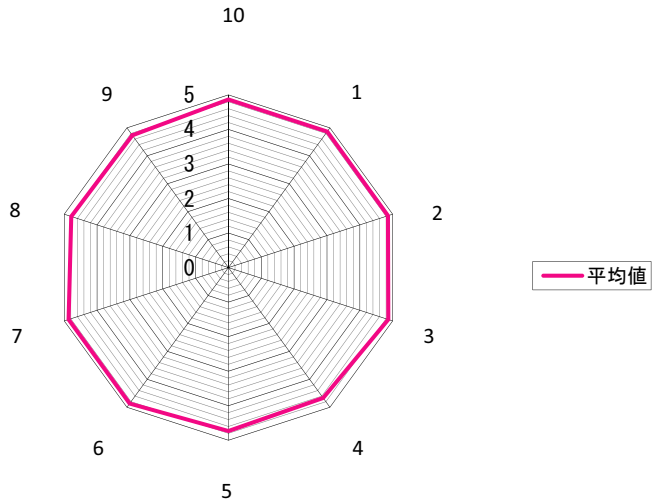
教員のコメント

授業評価アンケートの結果をみると，総合評価は4.4と概ね授業内容と展開については，良い評価が得られたと思うが，「(5)授業の進む速さは適切であった」及び「総合評価」の二項目において（あまりそう思わない）という評価があった。これらは個別の事情がみられるが，当該授業で扱う授業内容とその進め方の点で改善する必要がある。この授業で学習する音楽劇作品は，脚本，音楽，大道具，小道具，衣装の全てがオリジナルなものである。その年度の履修生の人数や能力に対応しなくてはならない。従って，授業が開始されてから，履修生の状況に合わせて，脚本，音楽等を3週間程度の期間で製作する。そのことから，授業計画はしばしば変更を余儀なくされる。こうした事情は学生には説明していない。この授業の履修生の特色は正規履修生の他にリピーターが多いことである。従って，協調性と積極性がこの授業を支えていることも重要な要素でもある。次年度に向けて，授業ガイダンスにおいて，授業の到達目標と特殊性について，より緻密な説明をしたいと思う。

結果報告書

授業科目名　声楽発声法
評価実施日　平成23年7月26日
担当教員名　頃安　利秀　　回答者数　15　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	13	2					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	12	2				1	4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	13	2					4.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	11	3	1				4.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	12	2	1				4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	13	2					4.9
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	13	2					4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	11	3				1	4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	11	4					4.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	13	2					4.9



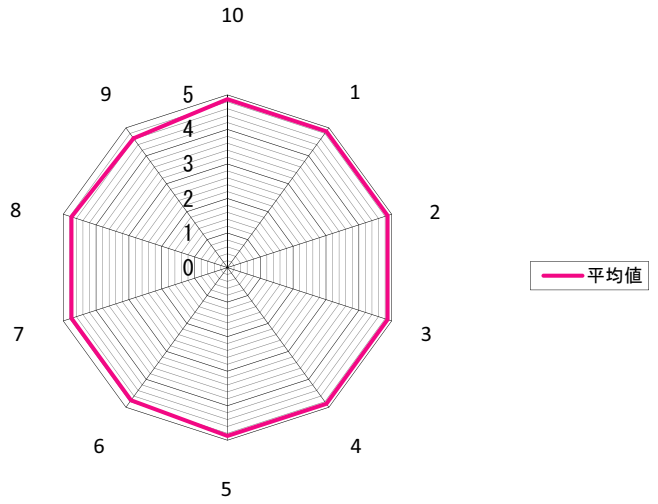
教員のコメント

総合評価として4.9ポイントという高評価が出ていることから，この授業は学生にとって有意義で，且つ授業の進め方等についても適切に行われていたと考えられる。この授業では，自分自身の体験を通して得られた知見を理論化したものを講じ，さらに実技指導も行う内容となっているが，この評価を見る限り，受講生にとっても十分理解でき納得のいく内容となっていたものと考えられる。毎年講義する内容は少しずつ変化していくが，それはまだ人間の声について，またからだと声との関係について完全には理解されていないからであり，これからもさらに「人間とは何か」という問いに自ら挑戦しながら，発声について研究を深めたいと考えている。

結果報告書

授業科目名　ピアノ演奏基礎演習
評価実施日　平成23年7月28日
担当教員名　森　正，田中　巳穂　　回答者数　8　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	7	1					4.9
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	1					4.9
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	1					4.9
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	7	1					4.9
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	7	1					4.9
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	6	2					4.8
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	6	2					4.8
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6	2					4.8
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	3					4.6
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	7	1					4.9



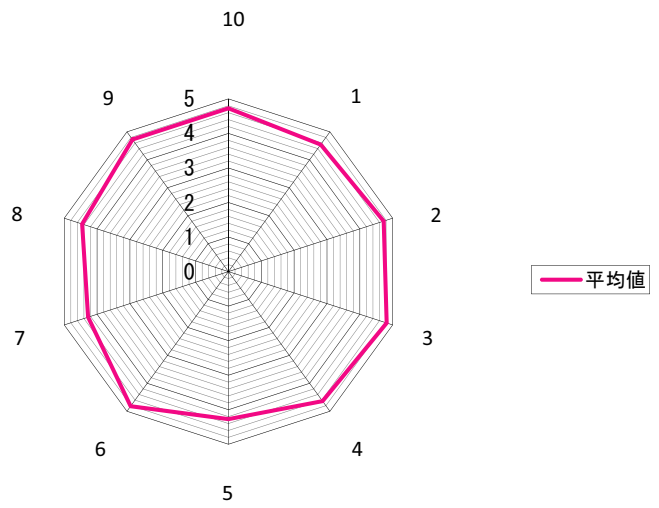
教員のコメント

各学生の状況に応じた個人指導で、それぞれの課題に即した指導が出来たことが学生からの自由記述を読んでも感じられた。これからも、このような形態で授業を行っていきたいと考えているが、学生のこれまでの学習経験等が多様化しており、その要望に応える為には新たな課題を探すことも必要となってきている。そのような現状のなか、個々の学生に応じた指導をするにはどのような点に配慮する必要があるのかを、嘱託講師をお願いしている先生とも研究していく必要があると考えている。

結果報告書

授業科目名　学校教材ピアノ伴奏法
評価実施日　平成23年8月2日
担当教員名　山田　啓明　　回答者数　11　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	6	5					4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	3					4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	9	2					4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	8	2	1				4.6
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	5	4	2				4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	9	2					4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	5	4	2				4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6	4	1				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	3					4.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	8	3					4.7



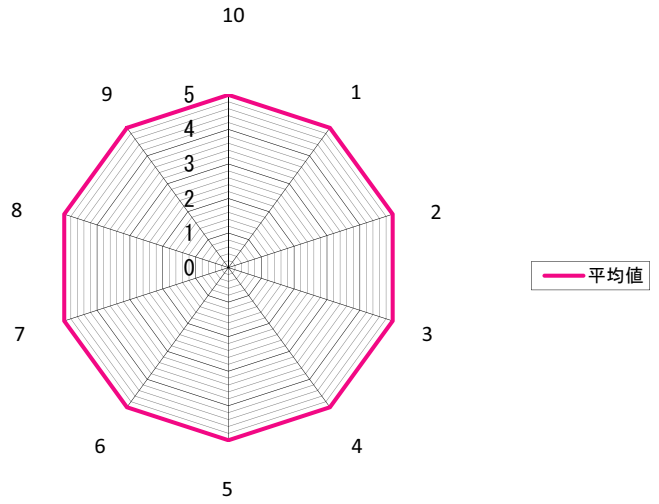
教員のコメント

本授業は音楽科のみならず他のコースからの受講生も比較的多く，また，受講生のピアノの技量もバラバラなので，内容をしぼりにくい。が，演奏を語る，評価する仕方というものを皆学べたのではないか。授業評価は概ね好評だと考える。

結果報告書

授業科目名　ピアノ演奏法
評価実施日　平成23年7月28日
担当教員名　森　正　　回答者数　2　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1					1	5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1					1	5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2						5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2						5.0



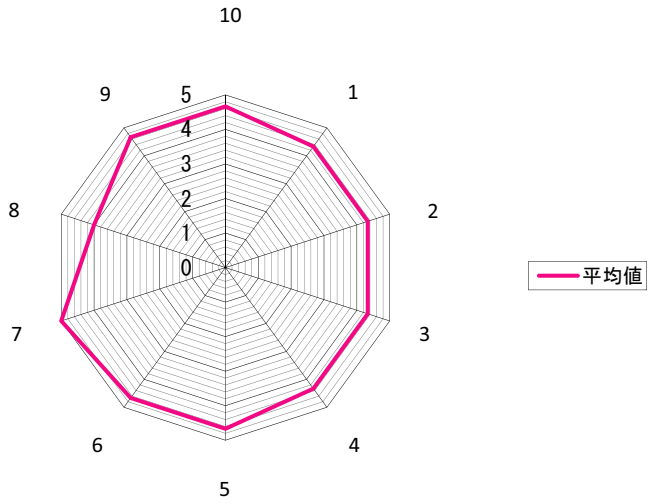
教員のコメント

二人の受講生は、課題研究における修了演奏との関係でこの授業を受講した学生で、そのために目的意識も非常に高く、充実した授業であった。今後は、今回のようなピアノを専門とする学生だけでなく、音楽コースの他の分野を専門とする学生や、場合によっては他コースからの受講生も想定されるが、このような学生をどのように指導するのかを研究する必要があると考える。

結果報告書

授業科目名　管弦打楽器総合演習
評価実施日　平成23年7月28日
担当教員名　山根　秀憲　　回答者数　3　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1	2					4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2		1				4.3
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2		1				4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2		1				4.3
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2	1					4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	1					4.7
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2					1	5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1		1			1	4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1					4.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2	1					4.7



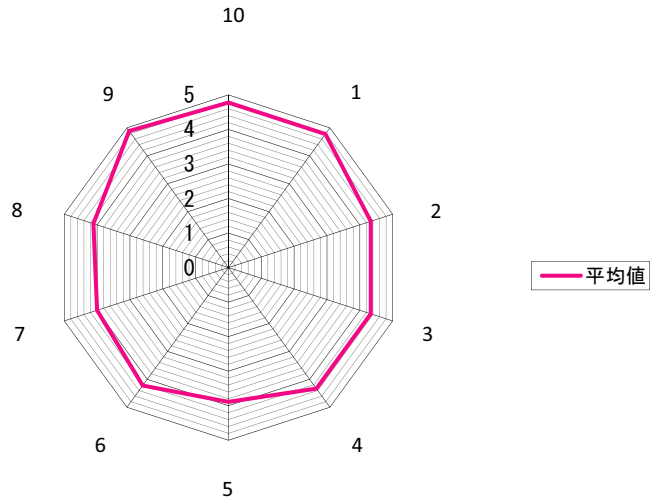
教員のコメント

本授業の受講者は、篠笛2人、フルート1人、ファゴット1人の合計4人であった。(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。の項目が3、とうものがあったが、新しく始めた楽器の場合、まず、音が出る出ないの段階から上達がみられないという状況では、専門的な知識にまでいたらないこととなる、ということとも関連があるように思われる。

結果報告書

授業科目名　管弦打楽器演奏基礎
評価実施日　平成23年7月25日
担当教員名　山根　秀憲　　回答者数　9　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	7	2					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	3		1			4.3
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	6					4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	4	1				4.3
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2	4	3				3.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	5	1				4.2
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2	5	2				4.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3	4	2				4.1
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	1					4.9
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	7	2					4.8



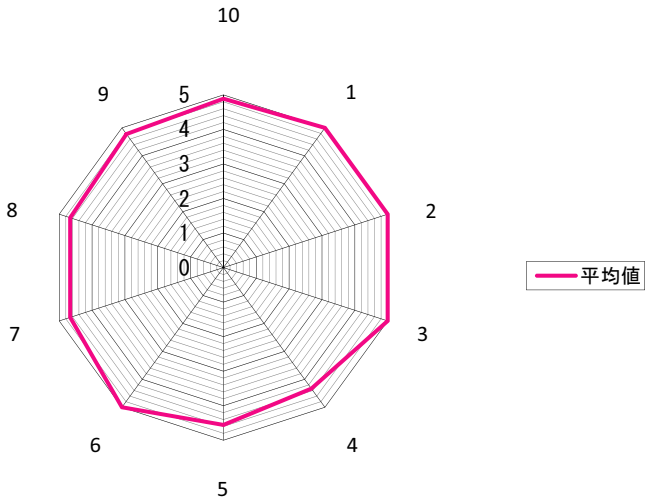
教員のコメント

本授業の受講者は、フルート2人、リコーダー3人、トロンボーン1人、トランペット3人の合計9人であった。(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。の項目が3、とうものがあったが、新しく始めた楽器の場合、まず、音が出る出ないの段階から上達がみられないという状況では、専門的な知識にまでいたらないこととなる、ということとも関連があるように思われる。(5)授業の進む速さは，適切であった。の項目が3とした受講者が3人いた。楽器演奏のための授業は、十分な予習復習を前提としているが、そのための時間が不十分なまま授業に参加すると、授業の進む速さが速いと感ずることもあるのではないだろうか。

結果報告書

授業科目名　指揮法基礎演習
評価実施日　平成23年8月1日
担当教員名　山田　啓明　　回答者数　9　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	9						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	9						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	6					4.3
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	5	4					4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	9						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	6	3					4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6	3					4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	2					4.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	8	1					4.9



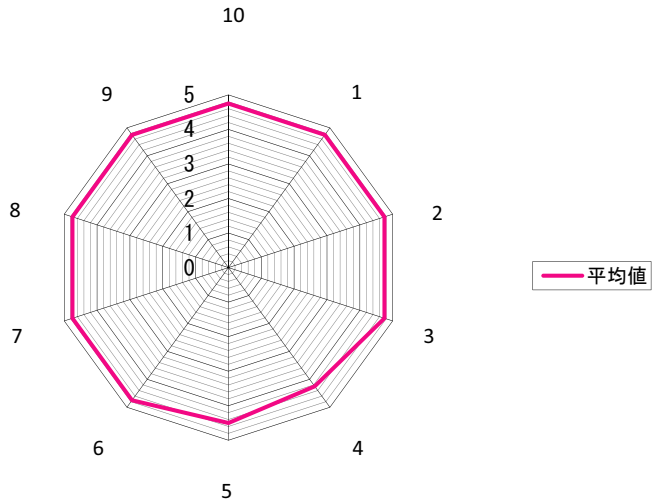
教員のコメント

授業の内容が指揮法ということで，一般になじみがなく，アンサンブル指導に直結するので，授業実践に結びつけやすい。その点この種のアンケートでは高評価を得やすいので，他の授業の先生方には申し訳なく感じている。

結果報告書

授業科目名　楽曲分析研究
評価実施日　平成23年7月26日
担当教員名　松岡　貴史　　回答者数　4　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1					4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	1	1				4.3
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2	2					4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	1					4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3	1					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3	1					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1					4.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3	1					4.8



教員のコメント

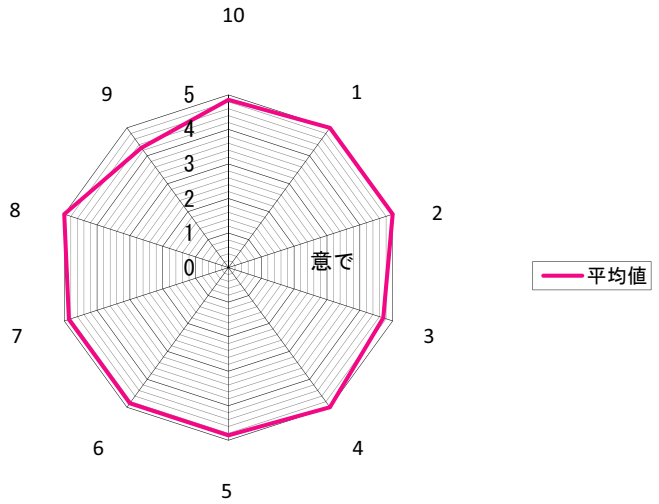
授業では，楽曲分析の方法を提示し，学校教材を含め，受講生が希望するさまざまな様式の楽曲について実際に分析と楽曲解釈を行い，演奏表現にそれをどう生かすか，演奏を交えながら検討を行った。受講者は終始積極的に取り組み，このような授業内容が求められていることがひしと感じられた。実際，毎回の授業において学ぶ意欲と内容の深まりが強く感じられ，その結果，点数評価においても 総合評価4.8となり，満足度の高い授業であったといえよう。

自由記述は次のような内容であった。「各人が分析したい曲を取り上げ，みんなで一緒に分析を進めていく方法が良かった。」「唱歌を深く分析することで，新しい気づきがたくさんあった。」「いろんな分野の曲の分析ができて良かった。」「授業中，発言の機会が与えられ，その一言一言を丁寧に取り上げてくれたのが良かった。」「音楽はどのように作られているのか，それが人の感覚とどのように結びついているのかがよくわかった。」「分析したことを，その場で演奏に生かすように授業が組み立てられているのが良かった。」「シラバスには他学科の人も歓迎と書かれているが，楽典の知識がないと難しいのではないかと思った。」

結果報告書

授業科目名　音楽教育史研究
評価実施日　平成23年7月28日
担当教員名　長島　真人　　回答者数　7　人

質　問　項　目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	7						5.0
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7						5.0
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	2					4.7
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	7						5.0
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	6	1					4.9
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	6	1					4.9
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	6	1					4.9
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	7						5.0
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	5					4.3
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6	1					4.9



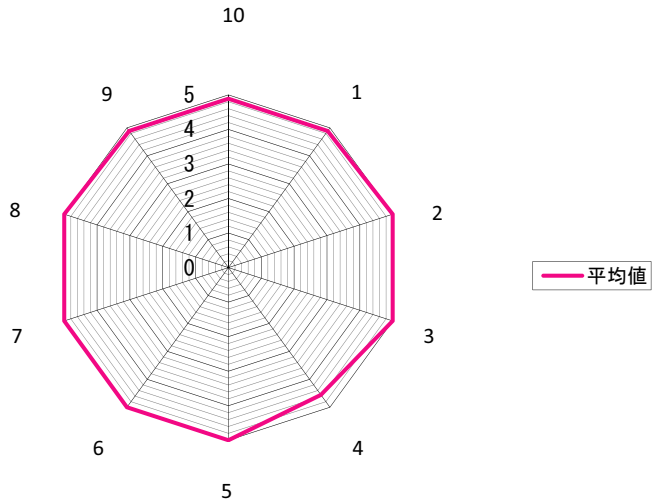
教員のコメント

知識の獲得を目的とした、講義中心の授業であり、教育実践に直接関連する話題からは離れた内容を扱い続けているが、今年度も、酷評はみられなかった。「よかったと思われる点」として、「音楽を教科として教えるようになった背景がみえて、音楽の大切さがわかり、良かった。」、「音楽が、どのように教育されてきたか、歴史を通して知ることができ、学校現場で生かせる内容でした。授業の進め方（現場）についても、改めて考えさせられました。子ども中心に、音楽の「こころ」を丁寧に教えていくことが、大切だと思いました。」という記述があった。院生たちの授業への取り組みを問いかける「（9）授業に主体的・積極的に取り込んだ」の項目が、やや評価が低くなっているように思われるが、歴史的な事物（史料）や事象に関して、実際に考察を試み、語り合うような演習を工夫する必要を感じている。時間的に制約があり、容易なことではないが、次年度以降の課題としていきたい。

結果報告書

授業科目名　音楽科教育研究
評価実施日　平成23年7月28日
担当教員名　長島　真人　　回答者数　9　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	8	1					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	9						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	4					4.6
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	9						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	9						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	9						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	9						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	1					4.9
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	8	1					4.9



教員のコメント

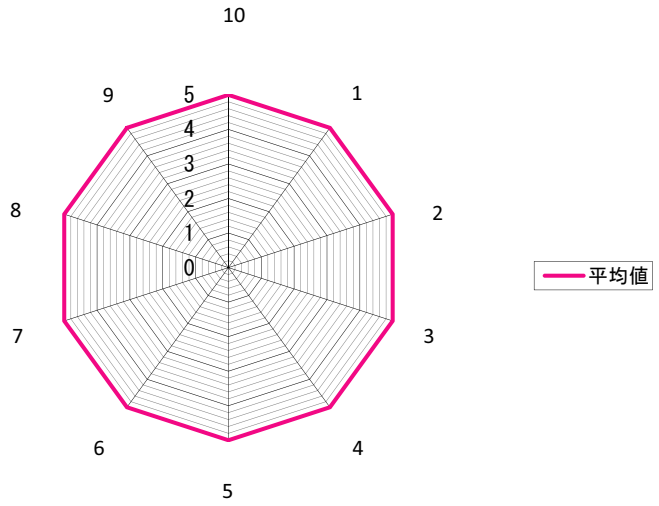
今年度も酷評はみられなかった。自由記述の中には、「よかったと思われる点」として、「先生の板書がきれいだったので、ノートを上手くとることができた。音楽の基礎を学ぶことができた。」、「将来、教師をめざす私にとり、大変興味深い授業でした。」、「短い童謡の中にすばらしい情感があることが分かったことと、童謡・唱歌が人をひきつける理由も感じとれた。」、「幅広い分野、グローバルな内容で、聞いていて興味を持ったし、視野が広がった。音楽教育学について理論的によく理解できた。」、「的確な参考書籍と、その都度紹介してくださったのが、大変良かった。」「音楽科の授業を行う上で非常に大切な内容で、しかも、丁寧に説明していただいたことがよかったです。」という指摘があった。また、感想として、「実践とその背景にある理論の結びつきが明確となり、よく「わかる」講義だった。」という記述があった。ただ、この評価には現れていないが、今年度は、最終的な課題レポートの中に、論理的な記述ができていないものが散見された。知識の獲得を目的とした講義スタイルの授業を行っているが、論理的な思考を裏付ける論述の能力を鍛えるような場を組み込む必要を初めて感じた。次年度は、工夫してきたい。

結果報告書

授業科目名　音楽科授業研究
評価実施日　平成23年9月19日
担当教員名　宮下　俊也

回答者数　4　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	4						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4						5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4						5.0



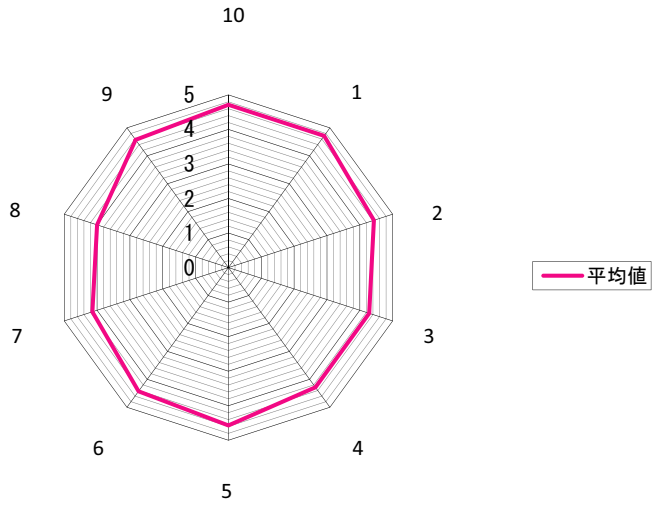
教員のコメント

良好であった。今後も努力を重ねたい。

結果報告書

授業科目名　版画制作演習
評価実施日　平成23年7月25日
担当教員名　武市　勝　　回答者数　7　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5	2					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	4					4.4
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	3	1				4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	3	1				4.3
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	5	1	1				4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	2	1				4.4
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2	4	1				4.1
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3	2	1	1			4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	1	1				4.6
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5	2					4.7



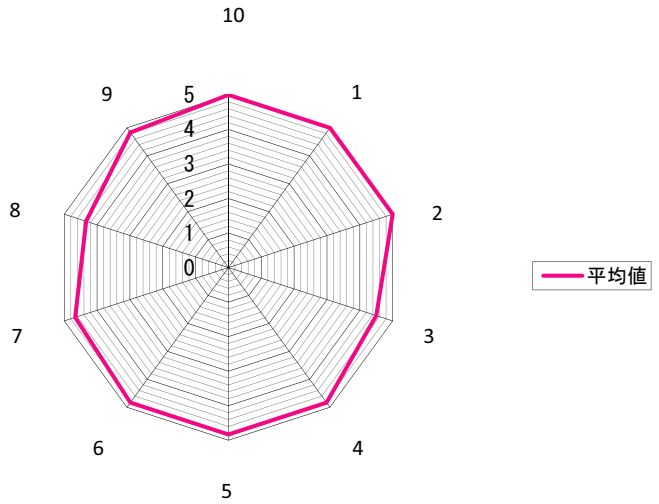
今回は受講生に2点の設問を行った。4のその他の項目を使ってである。
A 現在の内容より、版画技法としてもっと基礎的なものの方がよかったか？
B 人は、なぜ制作し発表をすると思うか？

この設問をしたのは、現在の授業内容はかなり長期にわたっており、教師側としてはいささか飽きていることもあるが、学生としても時折難しさを感じている様子が見られるためである。もとより版画経験が皆無の学生も多いため、否定的回答が多い場合は変えようと思っていた。
実際はほぼ全員と言っていい学生が「これでよかった」と答えた。ただ、満足しているが他の技法もやってみたいという答えもちらほらあった。平均4．7というのは高いのかもしれないが、まあ満足していると受け取っていいだろう。
Bの設問については、「自分を知るため」、「自分を伝えるため」、「自分を高めるため」、「子供たちへの色づかいのヒント」などの答えであった。やや設問者の意図よりも狭義の解釈であるが、教員志望者らしいという感もある。美術大学大学院ならもう少し違う答えになるかもしれない。

結果報告書

授業科目名　塑造制作演習
評価実施日　平成23年7月25日
担当教員名　長岡　強　　回答者数　6　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	6						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	3					4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	1					4.8
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	5	1					4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	1					4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	4	2					4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3	2	1				4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	1					4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6						5.0



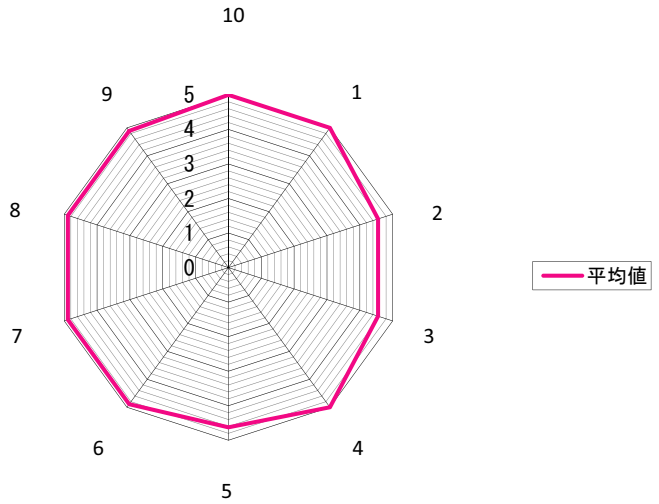
教員のコメント

受講生は意欲的に取り組んだ。授業評価で明らかなように，受講生にとって大変満足のいく授業であったようだ。

結果報告書

授業科目名　石彫制作演習
評価実施日　平成23年7月29日
担当教員名　野崎　窮　　回答者数　9　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	9						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	2	1				4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	4					4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	9						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	6	1	1			1	4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	8	1					4.9
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	8	1					4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	8	1					4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	1					4.9
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	9						5.0



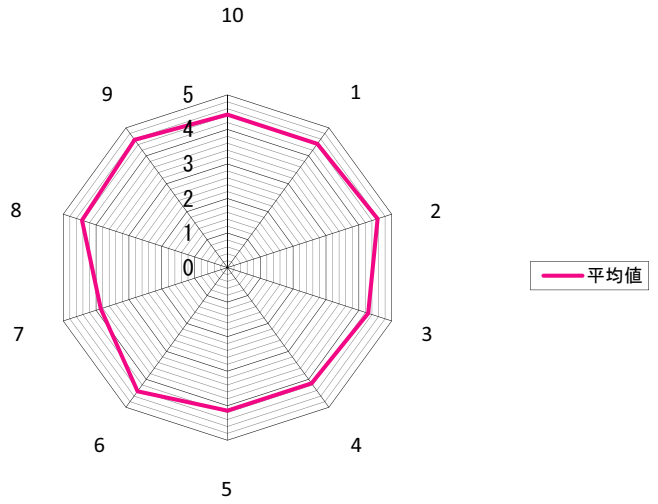
教員のコメント

総合評価で平均値5をいただいているので，特に反省すべき点はないと考えるが，(2)と(3)の項目がこの中では平均値が低い。これは9名の受講者中，6名の方が他コースであったためと考える。石彫制作が初めての方が多く，おもしろかったという感想が多かった。今後，他コースからの受講者を意識した授業の改善をしていきたい。

結果報告書

授業科目名　視覚デザイン演習
評価実施日　平成23年7月28日
担当教員名　松島　正矩　　回答者数　7　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3	4					4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	3					4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	5					4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	4	1				4.1
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3	3		1			4.1
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	2	1				4.4
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	1	4	2				3.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3	4					4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	3					4.6
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3	4					4.4



教員のコメント

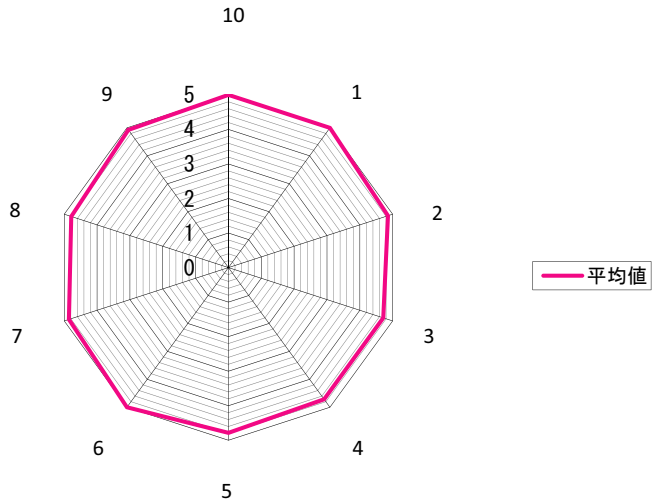
この授業は，マルチメディア教育実習室のコンピュータを利用して行った。美術コースの学生6名と英語コースの学生1名が受講してくれた。学生の出席は良い方であったし，全員が熱心に受講してくれた。昨年の総合評価は4.9という最高の評価であったのであるが，今年度は4.4とダウンしてしまっている。昨年とまったく同様な内容と方法で授業を行っているので，評価する学生次第で値はずいぶん変わってしまうものであると実感した。

授業のスピードに関して悪い点数がついてしまった。学生の理解度を確認しながら授業を進めたのであるが，初心者にとっては進行が速すぎたようである。総合評価の欄を見ると，すべての学生がこの授業に満足してくれた様子がうかがえるので，良い評価をしてもらえたとのではないかと感じている。

結果報告書

授業科目名　陶芸制作演習
評価実施日　平成23年7月27日
担当教員名　上田　敦子　　回答者数　14　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	14						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	12	2					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	11	2	1				4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	11	2	1				4.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	12	1	1				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	14						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	12	2					4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	12	1	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	13	1					4.9
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	13					1	5.0



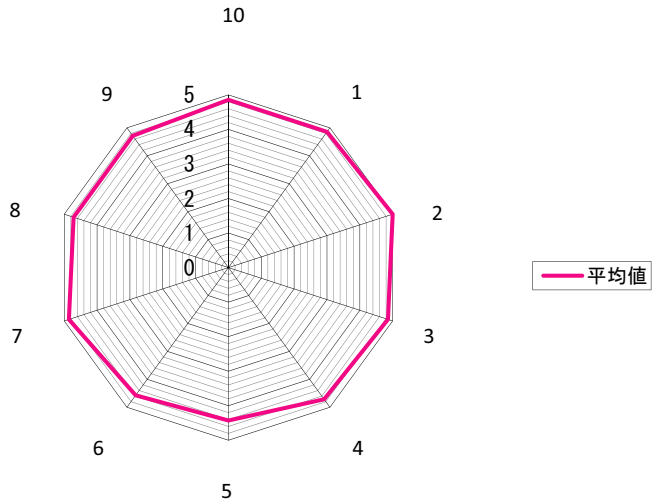
教員のコメント

今年度は受講生が多かったが、特別な理由以外には欠席者もほとんどおらず、滞りなく授業を進める事ができた。学生も制作に手応えを感じ、アンケート結果にも反映されていると思う。

結果報告書

授業科目名　美術科授業研究
評価実施日　平成23年7月28日
担当教員名　山木　朝彦　　回答者数　7　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	6	1					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	1					4.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	2					4.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4	2	1				4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	3					4.6
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	6	1					4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5	2					4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	2					4.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6	1					4.9

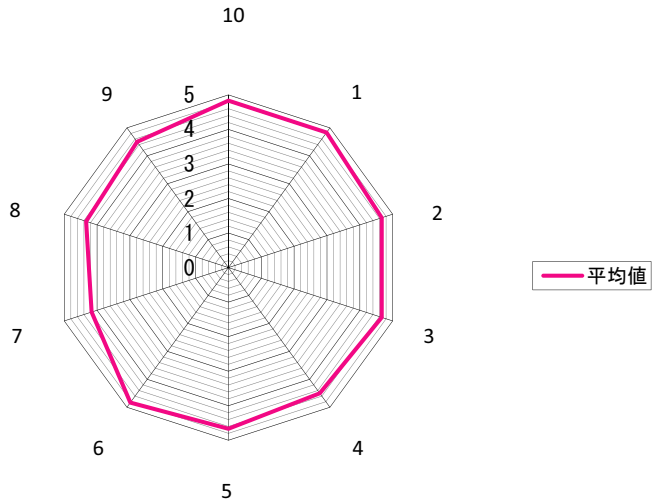


教員のコメント

結果報告書

授業科目名　美術科教材開発研究
評価実施日　平成23年7月21日
担当教員名　山田　芳明　　回答者数　6　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	2					4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	2					4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	3					4.5
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4	2					4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	1					4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3	1	2				4.2
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4		2				4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1	1				4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5	1					4.8

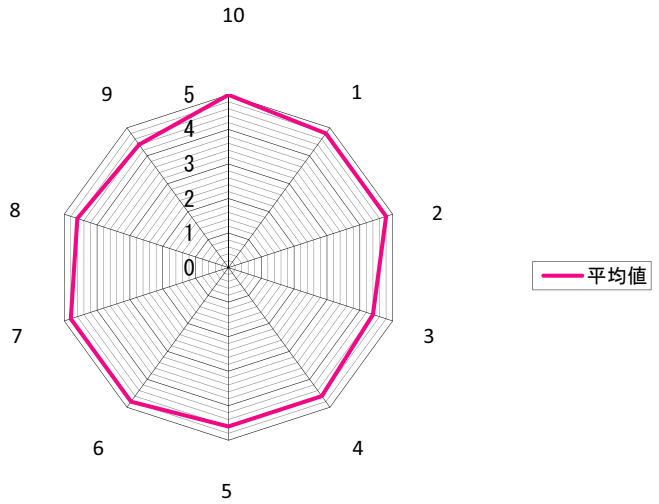


教員のコメント

結果報告書

授業科目名　美術科教育研究法演習
評価実施日　平成23年7月26日
担当教員名　山木　朝彦，山田　芳明　　回答者数　5　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4	1					4.8
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	1					4.8
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1	1				4.4
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	4		1				4.6
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	3	2					4.6
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	4	1					4.8
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	4	1					4.8
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3	2					4.6
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	3					4.4
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5						5.0

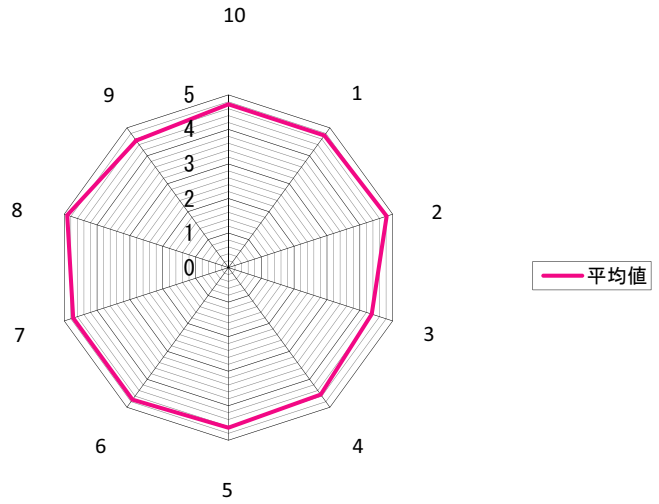


教員のコメント

結果報告書

授業科目名　スポーツ社会学研究
評価実施日　平成23年7月29日
担当教員名　木原　資裕　　回答者数　11　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	8	3					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9	2					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	3	2				4.4
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	6	5					4.5
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	7	4					4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	8	3					4.7
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	8	3					4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	10	1					4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	3	1				4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	8	3					4.7



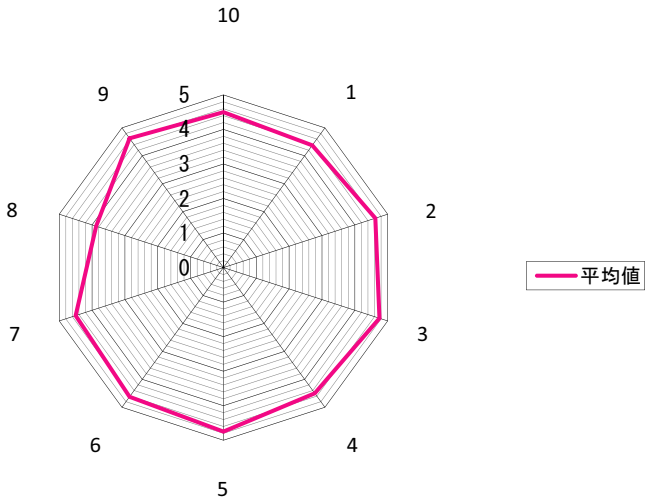
教員のコメント

総合評価が4.7であり、数値的にはよい評価がなされていたと思う。特に、視聴覚教材を多く用い、スポーツの持つ迫力や多面性を認識してもらえたことが、高評価につながっていると考えている。一方、「3.教師の実践力の育成につながる内容であった。」においては評価が4.4で質問項目中最も低い値であった。このことは、私自身がこの授業の展開上あまり意識できない内容であるが、今後の課題として、「教師の実践力の育成」につながる内容を意識的に絡めて授業展開をしていくよう工夫したいと思う。

結果報告書

授業科目名　学校体育経営研究
評価実施日　平成23年7月26日
担当教員名　藤田　雅文　　回答者数　8　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3	5					4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	3					4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	2					4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	4					4.5
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	6	2					4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	3					4.6
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	4	4					4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。		7	1				3.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	3					4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4	4					4.5



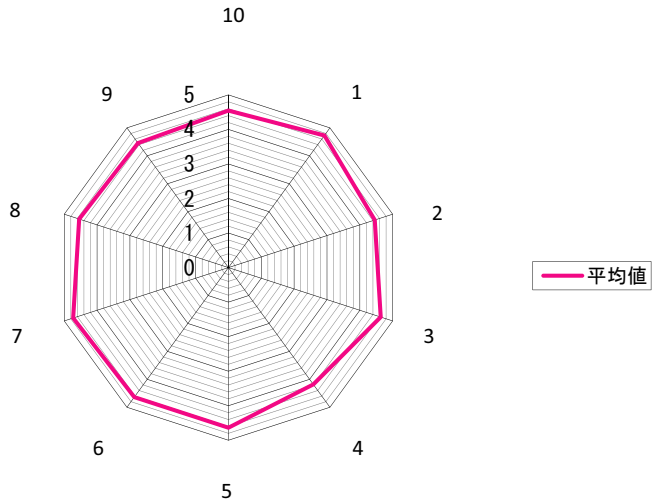
教員のコメント

9項目の平均評価点は4.52で，総合評価も4.5であることから，高い評価を得たと考えている。
テキストを紹介したが，高価であるためか，購入する者がいなかったため，資料を配布しながら授業を行なった。
今年度は，小学校の現職教員が3名受講しており，全員に学校体育経営の事例発表を行ってもらった。
項目3が高く評価されたのは，そのためではないかと考える。
やや低い評価であった項目8の板書や視聴覚機器の使用については，今後さらに工夫したいと考えている。

結果報告書

授業科目名　体育・スポーツ心理学研究
評価実施日　平成23年7月29日
担当教員名　賀川　昌明　　回答者数　11　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	8	3					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	4	1				4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	4					4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	5	2				4.2
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	7	4					4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	7	4					4.6
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	8	3					4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6	5					4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	4	1				4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6	5					4.5



教員のコメント

本授業では、前半において授業担当者が体育授業やスポーツ指導に関連する心理学的課題について具体的な研究事例を引用しながら解説し、後半においては各受講生が今までに体験した心理学的な問題について話題を提供し、その後、それぞれに対する質疑応答や意見交換を行った。

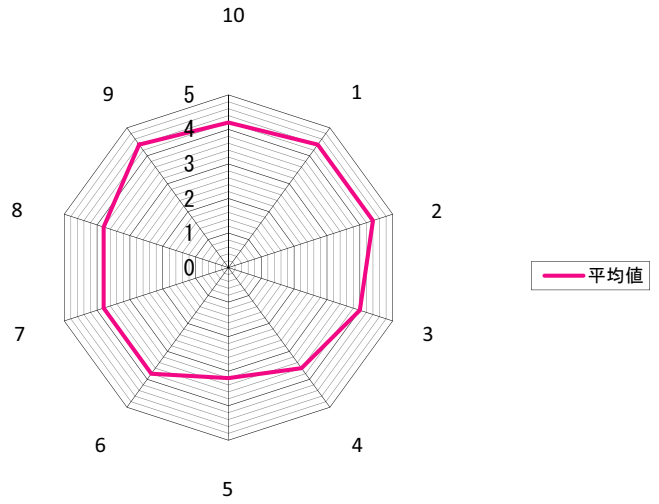
その結果、いずれの評価項目においても高い評価が得られ、項目全体での平均評価点も4.6となった。これは評価項目10（総合評価）の平均4.5をやや上回った得点であるが、ほぼ妥当なものだと考えられる。

これは受講生の自由記述にも記されていたように「視聴覚機器を効果的に使ってわかりやすく説明」したことや「討議形式によって他の受講生の意見も聞けた」こと等が功を奏したものと考えられる。しかし、成績評価方法の説明に関しては他項目の平均評価点よりもやや低い4.2という結果になった。一応、シラバスにも明記し、授業中でも説明したつもりではあるが、十分に理解できなかった受講生もいるようである。今後の検討課題としたい。

結果報告書

授業科目名　運動学研究
評価実施日　平成23年7月1日
担当教員名　乾　信之　　回答者数　5　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3	1	1				4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1	1				4.4
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	1	2				4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。		4		1			3.6
	(5)授業の進む速さは，適切であった。		2	2	1			3.2
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1	3		1			3.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2	2			1		3.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	1	1	1			3.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	3					4.4
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2	2	1				4.2



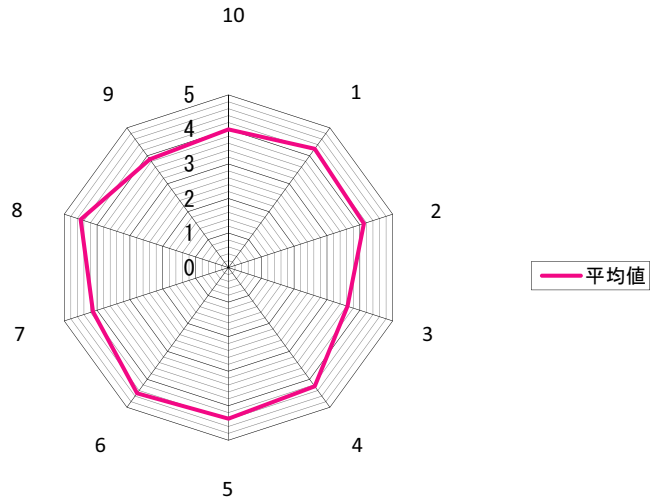
教員のコメント

大学院の講義であるが，受講生の基礎知識は学部生よりも低いので，学部の授業よりもスポーツ場面の具体例と教科教育的な事例を多く取り上げて講義を進めた。学部と同様に，大学院でも出席率は良いが，講義で紹介した文献をさらに勉強することはもとんどみられないので，講義内容に対する認識の深化は望めない。70歳を超えた一名の院生には講義の進め方があわなかったようであり，試験も非常に低い成績であったので，レポートを課した。

結果報告書

授業科目名　スポーツ・バイオメカニクス研究
評価実施日　平成23年7月25日
担当教員名　松井　敦典　　回答者数　8　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2	6					4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	3	2				4.1
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	3	4				3.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	4	1				4.3
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3	5					4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	4					4.5
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2	5	1				4.1
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4	4					4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。		7	1				3.9
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1	6	1				4.0



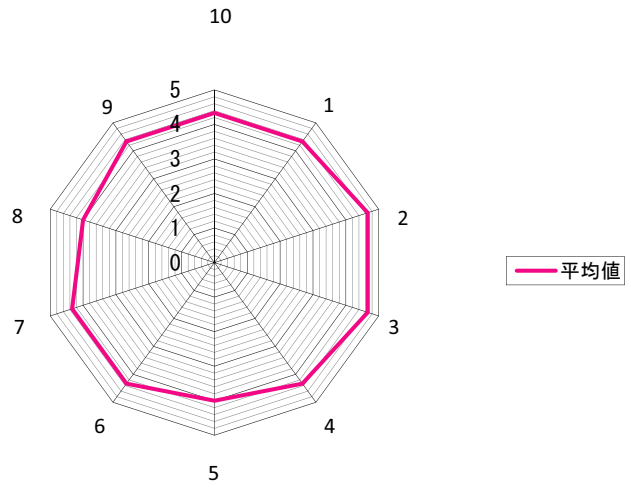
教員のコメント

本コースを専攻するために入学して来る大学院生には、体育及びスポーツ科学の専門的な内容が未習熟である婆尾が多い。また、近年の受講生は、それ以前の受講生と比較して、受講動機に単なる物珍しさを挙げ、教員や指導者にとっての必要性に関する理解が十分でない者が見られるようになってきた。そのような受講集団の変容に対応して、よりよい授業が展開できるように工夫していく必要がある。また、多くの受講生は専門のスポーツ種目を持ち、それに関する知識や経験は豊富に持っているものの、非専門の競技種目に関する知識経験は豊富とは言い難い。本授業によって身体運動の一般的・普遍的な見方や考え方を再確認し、全ての体育・スポーツ種目に対応・応用できるよう、授業の内容と方法を精査していきたい。

結果報告書

授業科目名　学校保健学研究
評価実施日　平成23年7月12日
担当教員名　吉本　佐雅子　　回答者数　3　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2		1				4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	1					4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	1					4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1	2					4.3
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	1	1	1				4.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1	2					4.3
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	1	2					4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1	1	1				4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	2					4.3
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1	2					4.3



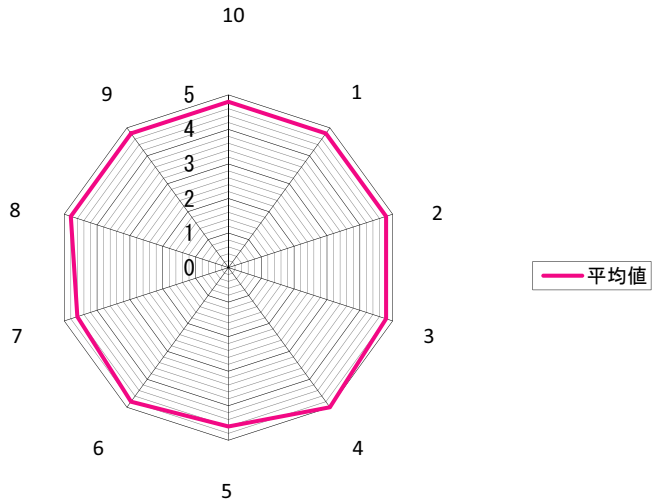
教員のコメント

概ね良好な評価が得られたと考える。今後は視聴覚機器を使用し、また、ディベートなどの学生参加型の授業形態を取り入れた授業を行いたい。

結果報告書

授業科目名　健康科学研究
評価実施日　平成23年7月15日
担当教員名　廣瀬　政雄　　回答者数　6　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4	1				1	4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	1				1	4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	1				1	4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5					1	5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3	2				1	4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	1				1	4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3	2				1	4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4	1				1	4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1				1	4.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4	1				1	4.8



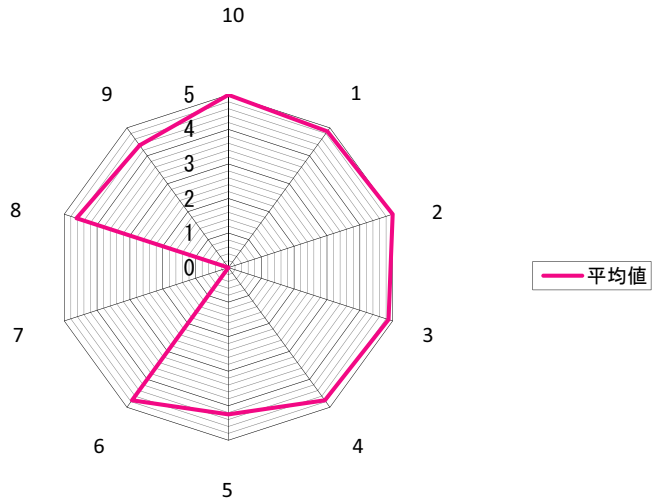
教員のコメント

健康に関する知識を医学的に網羅するのでなく、社会で話題になっている諸問題と関連づけて講義したことが、学生の興味を刺激して授業への取り組みを良くした結果となった。

結果報告書

授業科目名　運動生理学研究
評価実施日　平成23年7月25日
担当教員名　田中　弘之　　回答者数　8　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	7	1					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	1					4.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	6	2					4.8
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4	2	2				4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6	2					4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。							
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6	1	1				4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	3	1				4.4
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	8						5.0



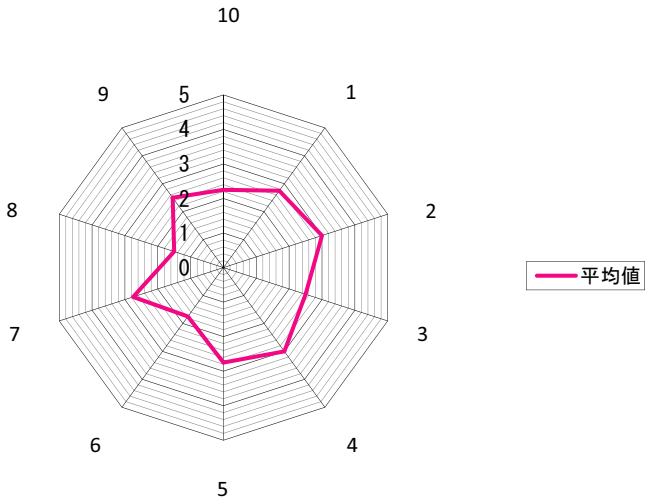
教員のコメント

評価の平均値は4.7であり，総合評価においても全員が5と判断していることから，所期の講義目的は概ね達成されたと考えられる。
『授業の進む速さは，適切であった。』『板書や視聴覚機器の使用は，適切であった』について，3の評価があったが，今年度は，例年よりも一段と進度を抑え，資料を精選して講義をした結果でもあり，次年度へのさらなる検討課題であると思われる。
自由記述欄の概観では，『非常に具体的であり，現代に合った授業であった。』『普段自分が見ている視点と違う視点で物事を見ることができた。』『全員が理解できるような言葉で説明してくれた。』等，概ね好評であった。
改善するべき点としては，『授業時間に制限があり，深い実験なども知りたかった。』との指摘があったが，演習で補完できる内容であり，総じて授業改善に関する強い要望は認められなかった。
授業のより実践的で，効率的な運営については今後も継続して検討を重ねたい。

結果報告書

授業科目名　体育教授学研究
評価実施日　平成23年7月25日
担当教員名　綿引　勝美　　回答者数　4　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。		1	1	2			2.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。		2		2			3.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。			2	2			2.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。		1	2	1			3.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。		1	1	2			2.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。			1	1	2		1.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。		1	1	2			2.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。				2	2		1.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。		1	1	1	1		2.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。			1	3			2.3



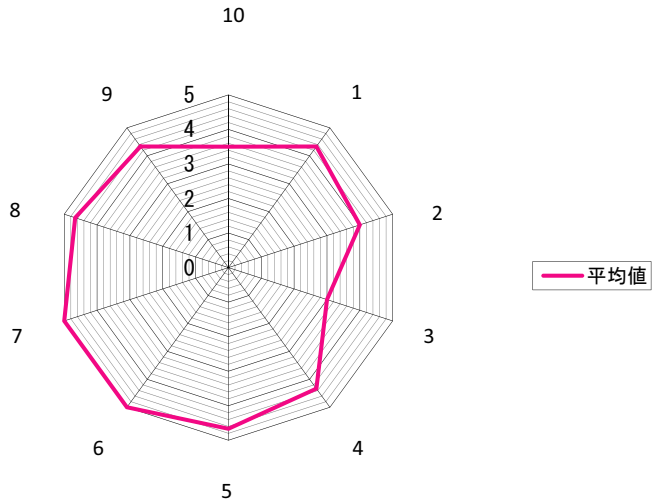
教員のコメント

ドイツ教授学が主な講義内容であったために、受講生がわかりにくかったようである、原理論的な内容と授業の方法論的な内容とのつながりを丹念に解説する必要があった。この分野について、ほとんど知識のない受講生にその必要性を認識できる手がかりをもうけることが必要であろう。受講生の直面する具体的な教授方法上の問題意識と、原理論的な内容との関連性について、再考を要すると考えている。

結果報告書

授業科目名　情報処理研究
評価実施日　平成23年7月26日
担当教員名　菊地　章　　回答者数　3　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2		1				4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	1	1				4.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1		1		1		3.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1	2					4.3
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2	1					4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	1					4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	2					4.3
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。		1	1			1	3.5



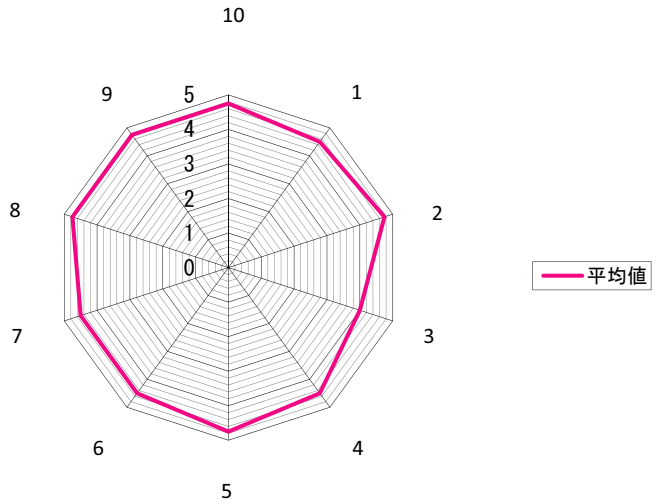
教員のコメント

概ね妥当な評価を得ているが，一人の学生は途中で居眠りをするなど授業内容に興味がなかったようである。来年度からはもう少し授業内容や方法を細かくシラバスに記載する必要があると思われる。

結果報告書

授業科目名　コンピュータ科学研究
評価実施日　平成23年7月28日
担当教員名　宮本　賢治　　回答者数　4　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2	2					4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	2	1				4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	2					4.5
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3	1					4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	2					4.5
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2	2					4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3	1					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1					4.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3	1					4.8



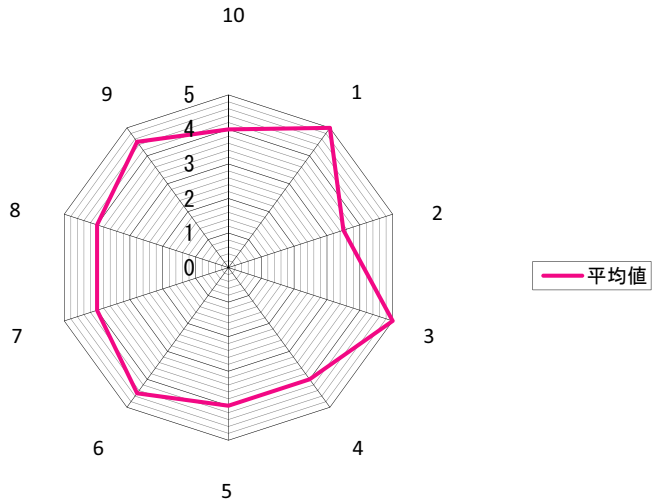
教員のコメント

本授業は電子回路シミュレーションソフトを用いて、電気・電子回路の基本的事項を習得することを目標としている。4名の回答者では客観的な授業評価は難しいが、総合的に見ると満足できる結果と思われる。しかし、「教師の実践力の育成につながる内容であった」という質問項目は4.0点で他の項目に比べてやや低く、授業で扱う内容が専門的で教師の実践力の育成につながりにくい印象を与えている。1）受講者は中学校の技術の教員志望者であるのに対し、高等学校の「工業」における電気・電子回路を中心に授業で取り扱った、2）電気・電子回路の基本的な特性の解説とシミュレーションによる確認に終始した、ことが原因であると考えられる。今後は中学校の技術で扱われている電気・電子回路をもう少し採り上げ、かつ受講者が教材開発や授業実践をする際にどのように電子回路シミュレーションソフトをどのように活用するかといった教育実践的な内容を盛り込む、などの改善を図りたいと思う。

結果報告書

授業科目名　機械工学研究
評価実施日　平成23年7月26日
担当教員名　宮下　晃一　　回答者数　2　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1			1			3.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1		1				4.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	1		1				4.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1	1					4.5
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	1		1				4.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1		1				4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1					4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1		1				4.0



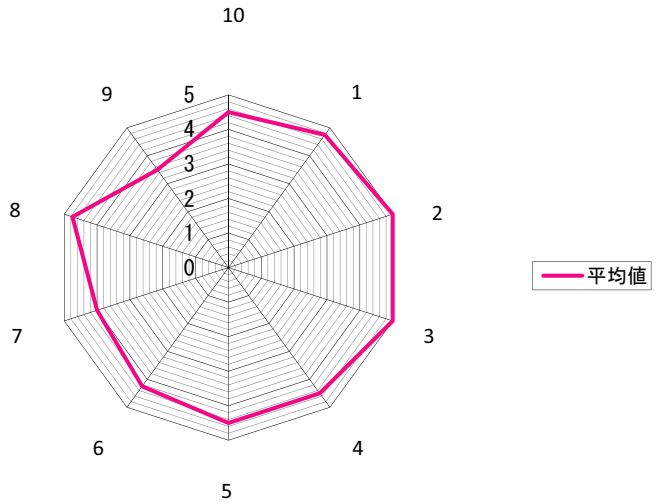
教員のコメント

この授業では，中学校の技術科におけるロボット製作を指導することを想定して「どんな生徒でも完成させられるロボットの試作」を課題として取り組んだ。受講者数が少なかったこともあって，充分に議論を行いながら授業を展開することができ，その結果，概ね良好な評価を得た。

結果報告書

授業科目名　材料及び加工学研究
評価実施日　平成23年7月28日
担当教員名　米延　仁志　　回答者数　4　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	2					4.5
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2	2					4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1	3					4.3
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2	1		1			4.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3	1					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	2			1		3.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2	2					4.5



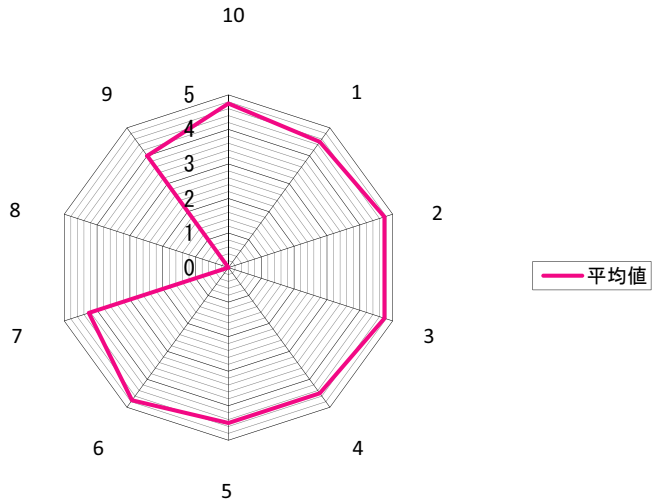
教員のコメント

詳細で多岐にわたる専門分野の学習内容を，技術科のものづくり，教員採用試験対策という観点から精選・再構築した。その結果，おおむね高い評価を得たと考えている。

結果報告書

授業科目名　材料及び加工学演習
評価実施日　平成23年7月28日
担当教員名　米延　仁志　　回答者数　4　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2	2					4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1					4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	2					4.5
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2	2					4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	1					4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2	1	1				4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。							
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3				1		4.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3	1					4.8



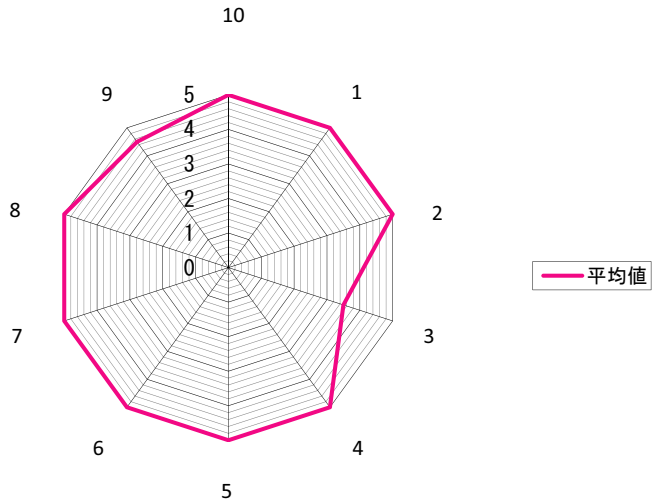
教員のコメント

詳細で多岐にわたる専門分野の学習内容を，技術科のものづくり，教員採用試験対策という観点から精選・再構築し，実習的要素を取り入れた。その結果，おおむね高い評価を得たと考えている。

結果報告書

授業科目名　情報科学研究
評価実施日　平成23年7月25日
担当教員名　伊藤　陽介　　回答者数　2　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1			1			3.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1					4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2						5.0



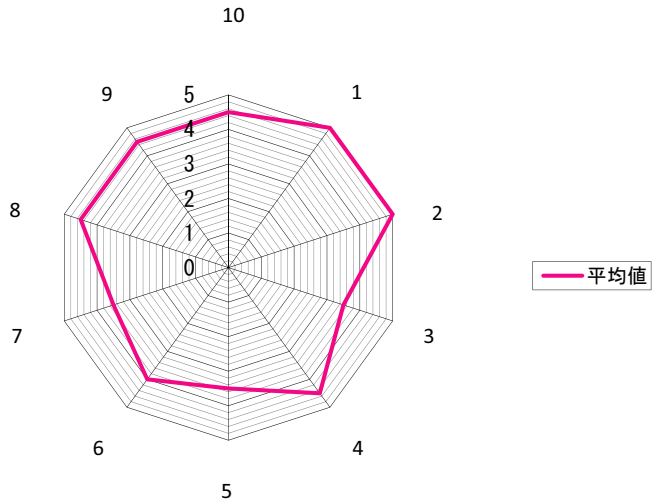
教員のコメント

2名の受講者数では客観的な授業評価とはいえないが，受講生のコメントから授業内容に関する評価は高く，概ね本授業について満足できていることがわかった。本授業では専門的な内容を取り扱うため，直接的に教師の実践力の育成につながる内容を含まない。そのため質問項目3の評価結果が相対的に低くなっている。

結果報告書

授業科目名　信号情報処理研究
評価実施日　平成23年7月28日
担当教員名　菊地　章　　回答者数　2　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。		1	1				3.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1	1					4.5
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	1			1			3.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1		1				4.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	1			1			3.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1	1					4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1					4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1	1					4.5



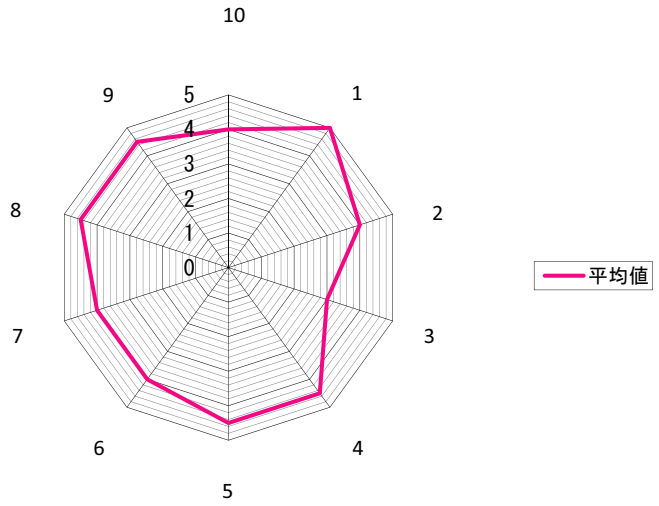
教員のコメント

受講生が2名のため，授業進行が速くならないように注意していたが，数学的な内容を含むため特定の学生には授業内容が高度過ぎた可能性もある。ただ，他の一人の受講者は概ね満足したようであり，受講生の特性に依存して授業の満足度が極端に変わるようである。信号情報処理は数学的な内容をなくすと授業にならないため内容を変更することはできないが，今後はシラバスの記載でより細かく授業内容を説明する必要があると思われる。

結果報告書

授業科目名　シミュレーション研究
評価実施日　平成23年9月22日
担当教員名　高曽　徹　　回答者数　2　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1		1				4.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。		1		1			3.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1	1					4.5
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	1	1					4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1		1				4.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。		2					4.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1	1					4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1					4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1		1				4.0



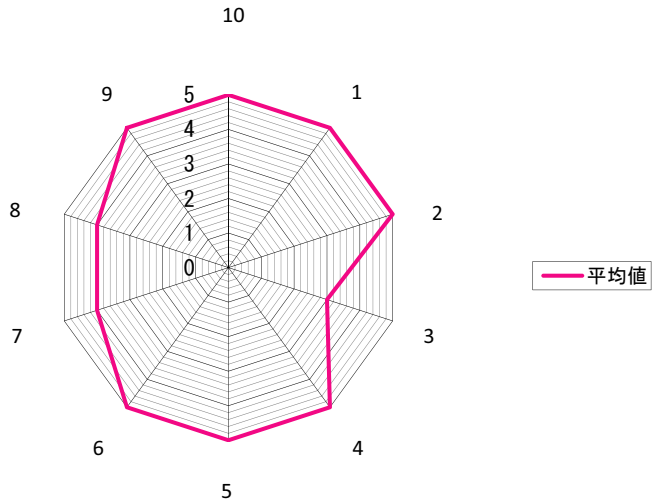
教員のコメント

熱心に聴講していたように思います。この講義で得たことを、他の人(高校生など)に説明するにはどうするかという観点を今後の講義には含めたいと思います。

結果報告書

授業科目名　計算力学研究
評価実施日　平成23年7月22日
担当教員名　畑中　伸夫　　回答者数　1　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。			1				3.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	1						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。		1					4.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。		1					4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1						5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1						5.0



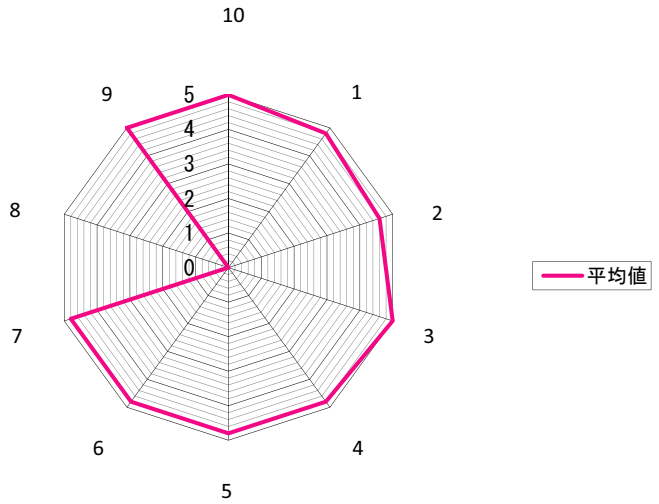
教員のコメント

受講者が一名であり、学生がアンケートに答えにくかったであろことが予想される。また、客観性が疑われる。
唯一「3」がついている項目は、「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった」かを問うものであり、教科専門科目とsては仕方のない評価である。あるいは、アンケート形式の再検討が必要であると考える。

結果報告書

授業科目名　木質材料加工法演習
評価実施日　平成23年7月28日
担当教員名　米延　仁志　　回答者数　5　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	2					4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	1					4.8
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4	1					4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	1					4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	4	1					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。							
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5						5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5						5.0



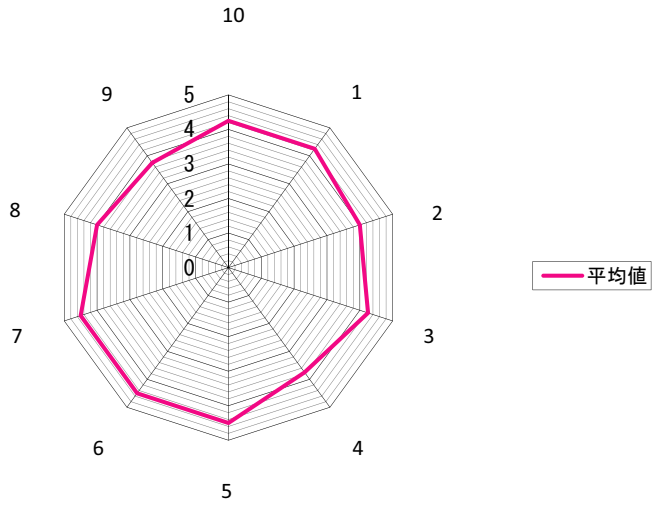
教員のコメント

専門分野の学習内容を，技術科のものづくり，教員採用試験対策という観点から精選・再構築した。演習においては個別指導により演習での制作を全員が完遂した。その結果，おおむね高い評価を得たと考えている。

結果報告書

授業科目名　技術科教育研究
評価実施日　平成23年8月5日
担当教員名　尾崎　士郎　　回答者数　4　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1	3					4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	2	1				4.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	3					4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。		3	1				3.8
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2	2					4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	2					4.5
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2	2					4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1	2	1				4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。		3	1				3.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1	3					4.3



教員のコメント

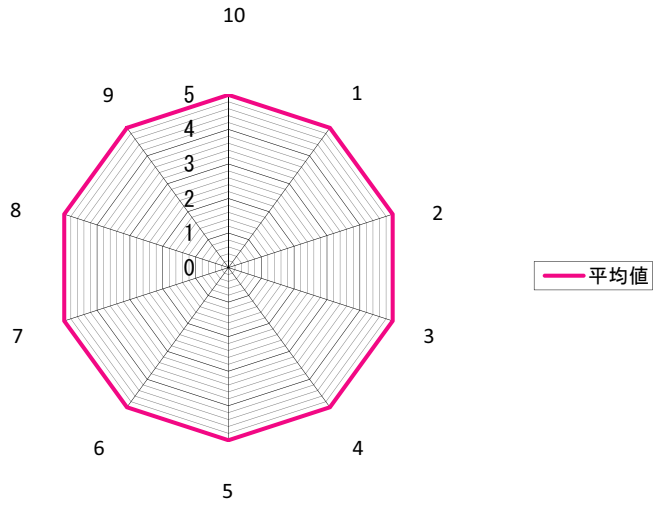
少人数であるためにゼミ形式で実施した。受講者4人は，他大学出身者で，教員志望と技術系企業への就職等背景が様々で，授業の内容の選択に悩んだが，概ね良好な評価ではないかと考えられる。成績評価では，試験を行わずに，授業への取り組みとレポート等で評価し，その評価の観点や配点等は伝えていない。それから，少し，当方からの説明が多すぎて，ディスカッション形式の授業をもっと増やすべきであったかも知れない。今後，改善の余地がある。

結果報告書

授業科目名　情報科教育研究Ⅰ
評価実施日　平成23年9月12日
担当教員名　森山　潤

回答者数　1　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	1						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	1						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1						5.0



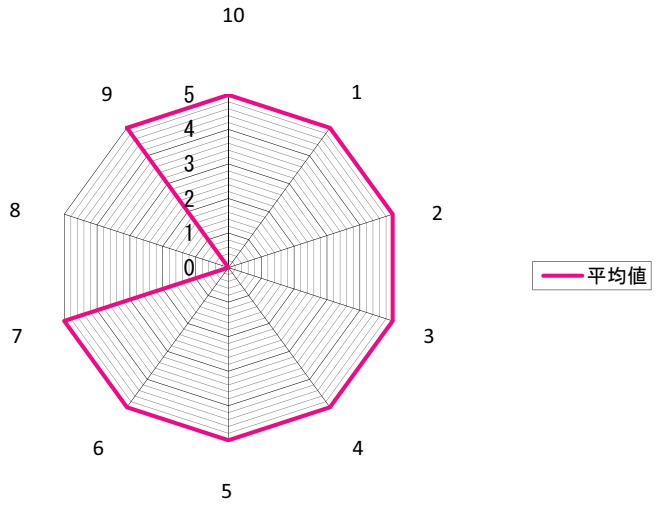
教員のコメント

受講生数が少ないので，数値的なデータに左右されず，これからも授業改善を続けていきたいと思います。

結果報告書

授業科目名　家族・ジェンダー研究
評価実施日　平成23年8月9日
担当教員名　黒川　衣代　　回答者数　1　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	1						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	1						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。							
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1						5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1						5.0



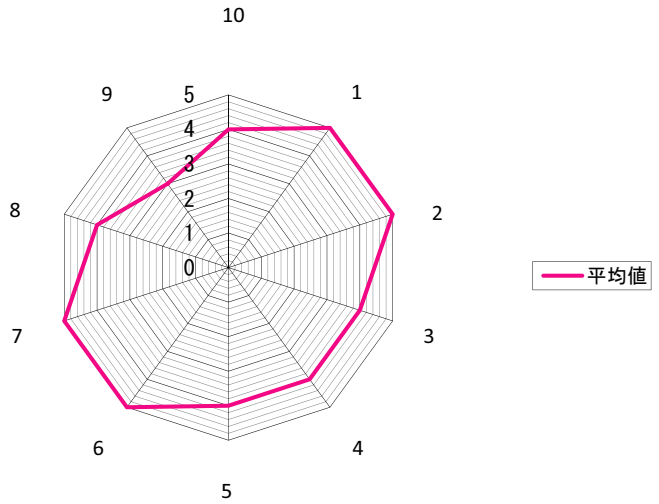
教員のコメント

この授業では、家族・ジェンダーに関するテキスとして『ライフコースとジェンダーで読む家族』を使っている。基本的には、まず学生が各章のまとめを発表し内容を確認してから、補足説明を加えながら解説し、学生と意見の交換を行っている。今年度は残念ながら、履修者が極めて少なかったので、学生の負担は大きかったと思われるが、個人の興味関心を掘り下げてきめの細かい対応や教授を行うことができた。机を挟んで対面でプリント資料を用いて説明できたため、板書は行わなかった。

結果報告書

授業科目名　生活経営学研究
評価実施日　平成23年7月25日
担当教員名　渡邉　廣二　　回答者数　1　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。		1					4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。		1					4.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。		1					4.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	1						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。		1					4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。			1				3.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。		1					4.0



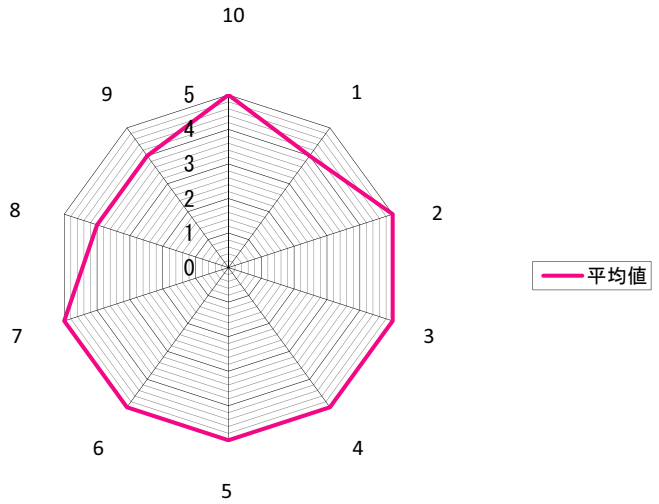
教員のコメント

授業では資料を用いてわかりやすく説明したいと考えているので，質問項目の6と7が高い評価を得たことには満足している。

結果報告書

授業科目名　衣生活学研究
評価実施日　平成23年7月26日
担当教員名　福井　典代　　回答者数　1　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。		1					4.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	1						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	1						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。		1					4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。		1					4.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1						5.0



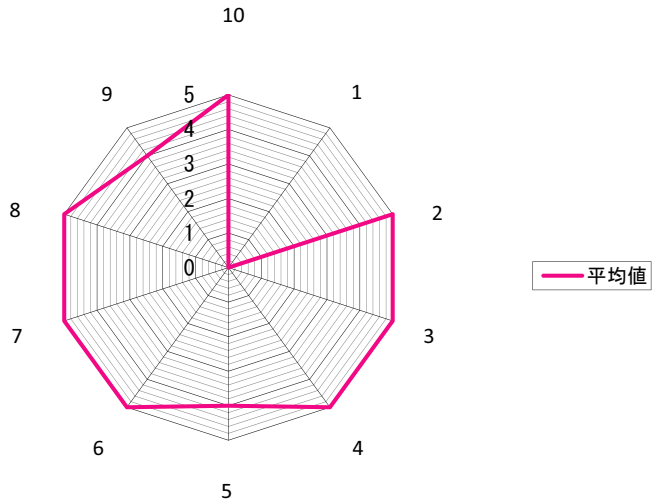
教員のコメント

今年度の受講生は2名であった。今回の授業評価は1名の回答である。衣生活学研究では，被服領域に関する基礎的な内容を実験や実習を交えて講義を行った。自由記述を見ると，よかった点として「学生のペースに合わせた授業だったので，理解するまで教えていただけたところ。また，質問等についてていねいに答えていただけた点。」である。少人数の授業なので，当然の結果といえる。改善すべき点として「受講者が少なすぎる点」である。大学院生数は年度により変化するため，これは授業内容の改善とは別枠の問題点である。全体的な評価をみると，概ねよい結果が得られた。来年度以降も，受講する学生に対応しながら，ていねいに授業を進めていく。

結果報告書

授業科目名　食生活学研究
評価実施日　平成23年7月29日
担当教員名　前田　英雄，西川　和孝　　回答者数　1　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。							
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。		1					4.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	1						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。		1					4.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1						5.0



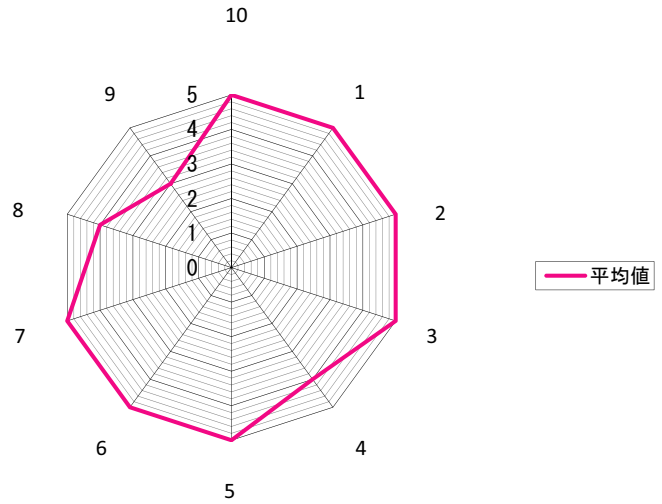
教員のコメント

平成23年度前期に開催されるこの授業科目には家庭科に所属する2名が受講登録をしたが、1名は体調不良のため途中で授業に出席できなくなった。受講生の出身大学やその学科の専門は2人とも異なったが、アンケートに回答した受講生は教員免許を取得できる学科出身だったためこの授業の基礎となる食品学、栄養学および調理学をあまり深く学んでいない。そのため専門的用語は必要最低限にして授業をすすめた。知識は、授業担当者としては限られた授業時間内に講義内容をどこに焦点を合わせるかが難しい点があったが、「授業内容について」「教員の授業の進め方について」の評価は概ね良かった。しかし、授業内容についての「(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。」が無回答であったことは、幅広い受講者向けに概要を書いていた点を指摘されたのかもしれないので反省しなければいけない。

結果報告書

授業科目名　住生活学研究
評価実施日　平成23年7月25日
担当教員名　金　貞均　　回答者数　1　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。		1					4.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	1						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	1						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。		1					4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。			1				3.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1						5.0



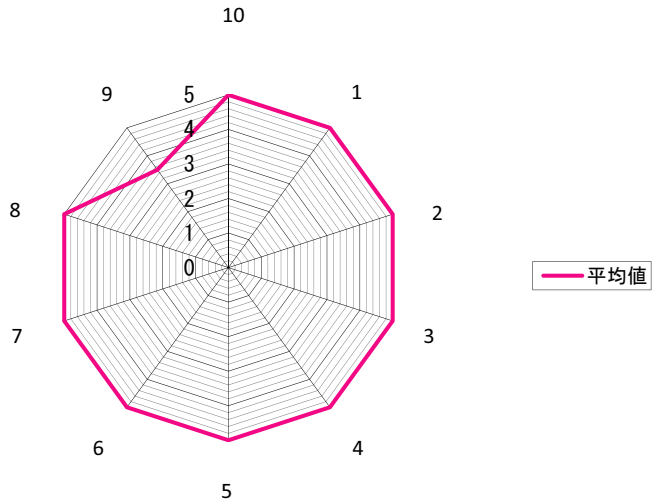
教員のコメント

本授業に対する総合評価は5.0ポイントで，「授業内容」と「教員の授業の進め方」に対してよい評価をしていた。ただ「教員の授業の進め方」の項目の中で，「(4)成績評価の方法の説明」と「(8)板書や視聴覚機器の使用」については4.0ポイントの評価をしており，より改善していきたい。授業への取り組みに対する受講生の自己評価は3.0ポイントであるが，授業課題と発表を丁寧にこなしており教員としては評価したい。[2]この授業で良かった点についての自由記述では，「先生の授業に対する準備物（資料やパワーポイント）がとてもわかりやすく，毎回準備していただいていたので知識の定着や見直しができました。」と評価していた。なお，[3]この授業で改善すべき点についての自由記述では，「人数が少ないため，小さめの教室かゼミ室などで授業をするといいと思いました。」としており，今後の参考にしたい。

結果報告書

授業科目名　家庭科教育学研究
評価実施日　平成23年7月28日
担当教員名　速水　多佳子　　回答者数　2　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。		1	1				3.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2						5.0



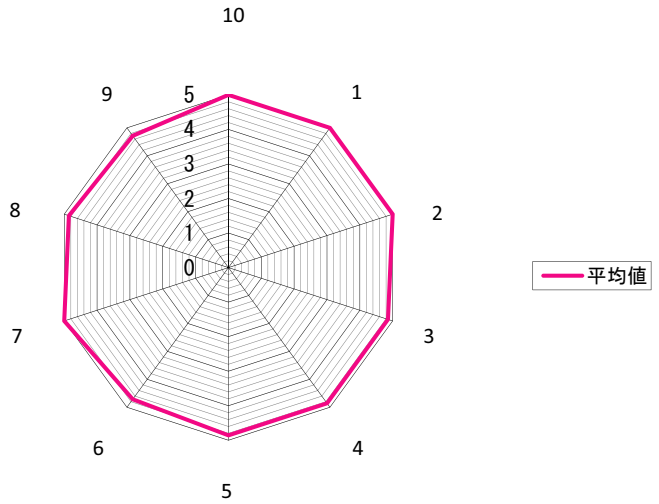
教員のコメント

受講生が2名と少なかったが、その特性を生かした授業が展開できたため、総合評価が5.0であったと考えられる。2名の学生の大学院修了後の進路が、教員を目指している学生とそうではない学生であったため、「家庭科教育学」という授業内容の選定がむつかしく、それぞれの学生に応じた内容を順次取り上げた。「(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ」の項目だけが3.5と平均値が低い値になっている。これは、授業で取り上げた内容や課題については、教員の側から提示するという形式を取ったため、学生の主体的な学びを促すことができなかったということと、授業内では随時、意見交換の時間を取ったが、たった2名の授業であったため、積極的に参加できたという思いが感じられなかったためと考えられる。今後は、少人数での授業の良い点を取り入れつつ、学生が積極的に学べて、理解の深まりが実感できるような授業展開を考えていきたい。

結果報告書

授業科目名　国際教育協力特論Ⅰ（理数科教育）
評価実施日　平成23年7月25日
担当教員名　近森　憲助，小澤　大成，石村　雅雄　　回答者数　7　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	7						5.0
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7						5.0
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	1					4.9
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	6	1					4.9
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	6	1					4.9
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	5	2					4.7
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	7						5.0
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6	1					4.9
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6		1				4.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	7						5.0



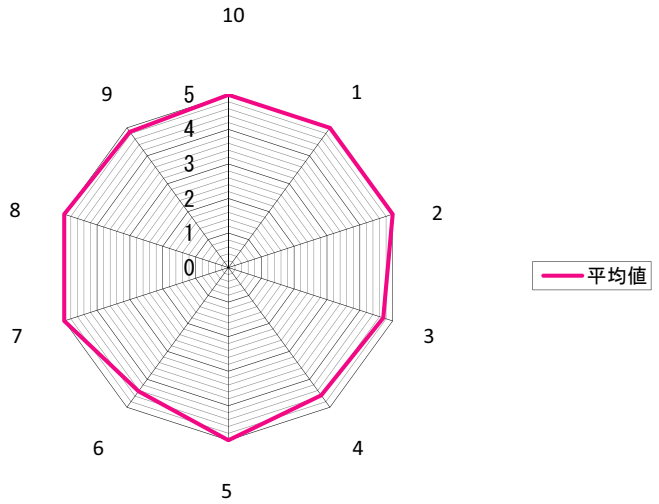
教員のコメント

比較的高い評価を得ることができたのは、授業者が国際教育協力に関った経験と研究の成果をフルに活用し、受講生のニーズにマッチした授業を展開したことによると思われる。

結果報告書

授業科目名　国際教育IT活用研究
評価実施日　平成23年7月29日
担当教員名　石坂　広樹，小澤　大成，近森　憲助，石村　雅雄　　回答者数　7　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	7						5.0
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7						5.0
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	2					4.7
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	3					4.6
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	7						5.0
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	3	4					4.4
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	7						5.0
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	7						5.0
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	1					4.9
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	7						5.0



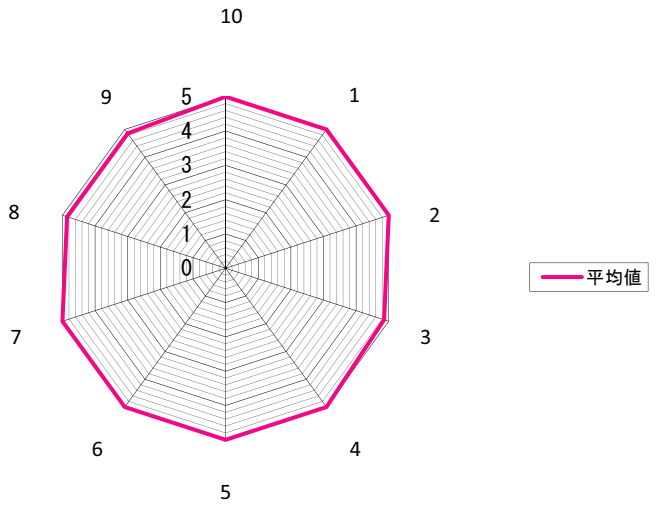
教員のコメント

学生の授業評価結果を見る限り、授業目標としていたICTツールを活用した授業方法の学習はおおむね達成できたものと考える。成績評価方法については、口頭で説明を行ったが今後は文面などによって行うものとしたい。

結果報告書

授業科目名　国際教育現地理解研究
評価実施日　平成23年9月30日
担当教員名　鈴木　隆子　　回答者数　7　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	7						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	1					4.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	7						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	7						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	7						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	7						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6	1					4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	1					4.9
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	7						5.0



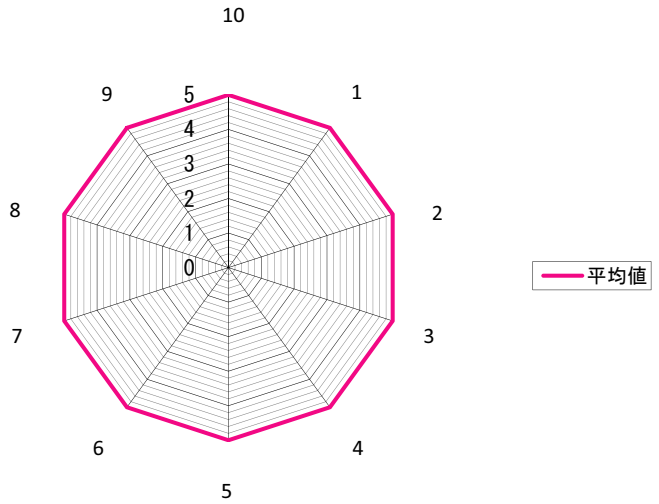
教員のコメント

右手が腱鞘炎で黒板が使えず、学生さんに手伝ってもらったり、急遽内容を変更したりせざるを得ませんでした。学生さんの英語力にかなり差があり、英語で授業を行うには少し難しいクラスでした。

結果報告書

授業科目名　国際教育現地理解演習Ⅰ
評価実施日　平成23年7月29日
担当教員名　小澤　大成，近森　憲助，石村　雅雄　　回答者数　4　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	4						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4						5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4						5.0



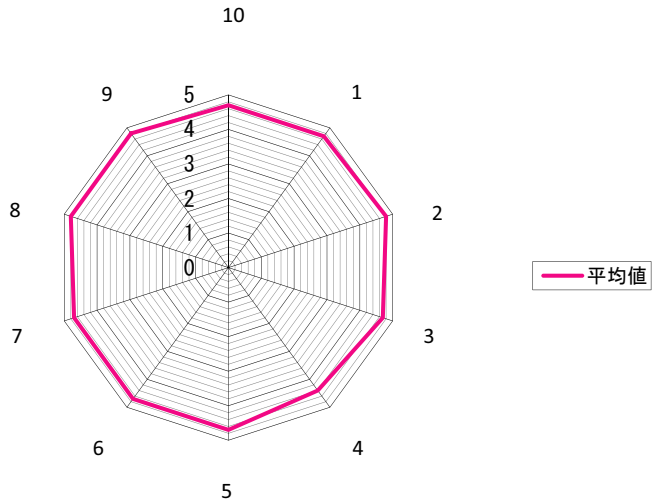
教員のコメント

総合評価は平均5と高評価であった。参加者のコメントより「互いの研究発表を通じて学べた」，「国際理解が深まった」，改善すべき点として「議論の方向性を与えてほしい」を得た。次年度の授業に生かしていきたい。

結果報告書

授業科目名　国際教育教材開発研究
評価実施日　平成23年7月22日
担当教員名　小澤　大成，近森　憲助，石村　雅雄，石坂　広樹　　回答者数　10　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	7	3					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	2					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	3					4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	4	1				4.4
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	7	3					4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	8	1	1				4.7
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	8	1	1				4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	8	2					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9		1				4.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	7	3					4.7



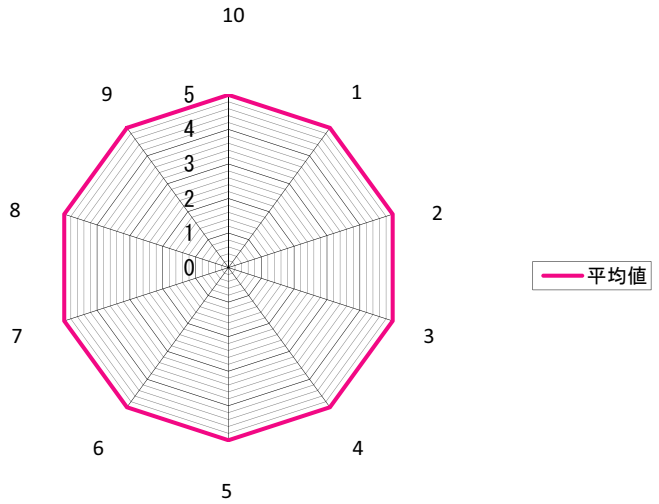
教員のコメント

総合評価平均4.7と比較的高評価であった。コメントから良かった点として「視聴覚資料と実践授業により授業方法を分析できた」，「留学生と共に学べた」「グループワークにより他の学生の意見が聞けた」，改善提案として「実践授業の回数を増やし，授業研究のサイクルを体験する」，「学生がそれぞれ模擬授業をする機会を得る」，「教材開発の理論的な視点を示す」が得られた。これを踏まえ次年度の授業に生かしていきたい。

結果報告書

授業科目名　国際教育教材開発演習Ⅱ
評価実施日　平成23年7月26日
担当教員名　小澤　大成，近森　憲助，石村　雅雄，石坂　広樹　　回答者数　8　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	8						5.0
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8						5.0
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	8						5.0
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	8						5.0
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	8						5.0
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	8						5.0
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	8						5.0
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	8						5.0
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8						5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	8						5.0



教員のコメント

総合評価は平均5と高評価であった。参加者のコメントより「互いの研究発表を通じてそれぞれの国のことが学べた」，「国際教育に関する理解が深まった」，「議論を深めることができた」，「自分の専門性を深められた」を得た。次年度の授業に生かしていきたい。